

The background features a minimalist abstract design. A large, light yellow circle is positioned at the top center, overlapping with a smaller, slightly darker yellow circle to its right. Two bright yellow squares are placed on the left and right sides of the central text. Three thin, light brown diagonal lines cross the page, each accompanied by a small yellow circle at its end. The overall aesthetic is clean and modern.

乾 文 學

十月號

乾
文
學

— 十月號 —

乾
文
學

序文 データ社会において ―和敬塾の場合、乾文學の場合―

齊藤 和輝（乾寮第八期）

僕が和敬塾に入塾してから今年で三年目になる。その間にも世間はめまぐるしい変化を遂げている。人工知能や仮想通貨など、世間は加速度を増してデータ社会を突き進んでいる。

しかしながら、僕ら大学生はどうだろうか。和敬塾はどうだろうか。僕は、どちらも多くはこの変化に対応できていない気がする。データ社会で生きるというのは大量のデータに囲まれながら生活していくということだ。データはそれ自体なんの意味もない。活用してこそ意味を持つものだ。僕はデータを活用しようとしていないように感じる。何も考えずデータを眺めている人が多い。インスタグラム、Twitter等のSNSが最たる例であろう。「いいね」ボタンはザッピングのツールとして非常に役立つものであるが、同時に何も考えなくなる要因でもある。

そういう時代の中で、大学生も和敬塾も生きていく。このままでは、どちらも危ない立場に置かれるだろう。そうならないためにも、まずは自分のデータ、いわゆるコンテンツを確認し吟味する必要がある。自分（和敬塾）に何ができるのか、何をしたいのか、頭を使って考えてみなければならぬ。大学生も和敬塾も独自のコンテンツを持っているか、頭を使って考えてみなければならぬ。独自のコンテンツである。コンテンツの確認、吟味を終えたらそれをどのような目的で発信するのか、いかに発信するかを考えなければならない。データの渦にただコンテンツだけを投げたとし

でも全く無意味なものになってしまいう可能性は高い。データは加工し、最適な形で発信することが重要だ。そこで大切になるであろう考えが、DCM 理論である。Differentiating（＝差別性）、Competitive（＝優位性）、Convincing（＝説得性）、Marketability（＝市場性）。これは企業で用いられている理論であるが、自身のコンテンツを最適化するとき役に立つ考えのひとつだ。もちろん、どう加工するのも目的にあわせなければならない。

自分自身この考えを知ったのはつい最近の事であり、これを実践する機会は少なかった。いまだ漠然としていて、この文章にも実践できていないように思われる。自分自身がデータに埋もれていくただの一般的大学生だと自覚しているが、これから社会に出ていくとなったらそうはいかないだろう。現在でも自分が住んでいる和敬塾は乾、南寮の統合という今までに無かった危機が訪れている。これは和敬塾だけの問題ではないと感じている。社会のありとあらゆるところで内在している問題だろう。「データを活用する」そのことは今やどこの会社でも言っていることだが、実際にどう活用するのかという本質的な部分はどこも分かっていない。権威主義的な現代日本の社会ではトップと一部の知識を持つ者だけがこの問題に気づき、対策を考えているが、そのこと自体データを活用できていない。これから加速していくデータ社会はもはや権威というものがあてにならないものになってきている。誰でも簡単に、世界中のどこでも、ありとあらゆるデータにアクセスでき、活用できる時代に生きる僕らは常に自分たち個人個人が考え、データの活用を実践しなければならぬだろう。

この乾文學もまたデータの渦に埋もれてしまうのか、それとも和敬塾を盛り上げるために活用できるのかは、僕ら編集者達の努力次第だろう。僕個人としては、この乾文學を通してデータ活用を
実践できればよいと考えている。

初代編集長が作り上げた遊び場のような空間、「乾文學」はこれからのデータ社会でどのような広
がりを見せていくのか。どうかその目で確認していただきたい。

●乾

乾
文
學

十月特別號
平成30年
乾 坤 舎

乾文學十月特別號

目次

序文 データ社会において―和敬塾の場合、乾文學の場合― / 齊藤 和輝

論考・随筆

- 10 論考 在沖米軍は日本にとってメリットがあるのか / 伊藤 光
- 14 論考 日本のバスケットボール事情 / 井出 圭済
- 16 随筆 体育祭を前に今思うこと / 高谷 健人
- 21 随筆 これまでとこれから / 小林 凜
- 24 論考 W杯、対ポーランド戦について / 神園 照尚
- 27 論考 Football lover / 徳久 達志
- 32 論考 スーパー戦隊 / 平石 颯
- 35 随筆 Tinnitus、もしくは電気鈴虫は頭のなかで4000Hzの歌をうたうか。 / 白河夜醒
- 39 論考 Learning Something in English / Yoshiki Ito

44 論考 中国における言文一致とその哲学的射程について

——あるいは技芸としての言語への問いのための試論 第一回 / 伊勢 康平

特集

目指すべき新南寮像を考える

61 特集序文 特集を制作するにあたって / 高谷 健人

63 合併について思うこと

新南寮発足に際して / 小関 陽太郎

乾寮の閉鎖と新南寮への移転 / 西村 康成

南寮との統合に関して / 松山 凌雅

69 コラム 一年生座談会 / 乾・南寮一年生で統合について考える

79 和敬塾職員の想い

南・乾寮統合について / 岩木 勅一

新南寮について / 佐々木 良夫

90 特集後記 新たな寮として / 鈴木啓介

小説

94 Search 0 select — 檢察係 — / 米井滉太

小特集・論壇 堀井塾

132 第二回 敗戦国の末路

149 第二回 日独を考える、過去・現在そして未来

173 第三回 彷徨える若者、アイデンティティ探求の旅

189 寄稿者一覧

191 編集後記

論考・隨筆



論考 在沖米軍は日本にとってメリットがあるのか

伊藤 光(乾寮第八期)

共産党機関紙『赤旗』が七月一日付で「朝鮮戦争終結で在沖米軍駐留根拠消滅」とする記事をインターネッ
ト上に公開した。記事では在日米軍駐留は朝鮮半島有
事を目的としており、朝鮮半島の和平が実現すれば在
沖米軍は存在意義を失う、としている。

確かに在沖米軍自体、(少なくともアメリカにとって
は)『赤旗』も述べているように日本防衛用においてい
るわけではないだろうし、朝鮮戦争が終結するならば
いらないようにも見える。しかし本当にそうなのだろ
うか。せっかくなので今回は在沖米軍を中心に、日本
にとっての駐留のメリットについて考えてみたい。

沖繩には次のような基地がある。まず海兵隊は普天
間基地に第三十六海兵隊、キャンプ・コートニーに第
三海兵機動展開部隊司令部を持つ。空軍は嘉手納に第

十八航空団を置いている。嘉手納には海軍の沖繩艦隊
基地隊や陸軍の一一一防空砲兵大隊が置かれている。
海軍は他にホワイトビーチ地区に港湾施設を持ち、陸
軍はトリイステーションに第一特殊部隊軍第一大隊
(グリーンベレー)と第十地域支援群が置かれている。
他に、キャンプ・ゴンザレスやキャンプ・シュワブのよ
うな訓練施設及び司令部が点在する。因みに海軍の司
令部は横須賀、陸軍の司令部は座間、空軍の司令部は
横田に置かれており、在日米軍全体の司令部は横田で
ある。

では、これらの基地はどのような意味をもつのだろ
うか。まず目につくのは海兵隊の規模の大きさだろう。
基地の多くを海兵隊が所有している。また、司令部の
多さも目に付く。各軍の司令部は本土にあるものの、

在沖海兵隊の司令部用に専用のキャンプ・フォスターやキャンプ・コトニーがおかれている。こうした司令部重視から何が見えてくるだろうか。

結論から言うと、在沖米軍は先発隊を送りだすとともにその後は補給拠点となることを期待されている。司令部が置かれているのも米国本土からきた海兵隊部隊を指揮する余裕を持たせるためであるし、普天間基地に二千七百メートル、嘉手納基地に四千メートル×二という大型機も離発着可能な滑走路を備えているのも前線支援のためである。勘のいい方はベトナム戦争でB52が嘉手納から爆撃に向かったことを思い浮かべるかもしれないが、まさに米軍はそうした機能を期待して在沖米軍を維持しているのである。だからこそ普天間基地問題に対して辺野古という代替基地を要求している。

そもそも沖縄に米軍が駐留するのも理由がある。沖縄は台湾へおよそ六百km、平壤へは千五百kmほどであ

る。平壤へは少し遠いと思うかもしれないが、航空機ならせいぜい二時間ほどだ。二時間で行ける距離に爆撃機の拠点があれば作戦にはかなりの柔軟性を持たせることができる。因みにハノイへは約二千三百kmだ。

ここを拠点にできれば、中国の海洋進出や北朝鮮へのけん制、そしてこれらの地域の紛争にも十分対処できる。そのために嘉手納には空中給油機が配備され、トリーステーションには空挺部隊である第一特殊部隊群が置かれている。しかし、中継基地であるということは、基地さえあれば戦闘部隊は本土から回せばよいし、艦艇も横須賀や佐世保から回せば問題ないことを意味する。したがって真つ先に敵地へ進出する海兵隊を除き、意外と大規模な戦闘部隊は駐留していない。このことも留意してほしい。

留意してほしい、と言ったのには理由がある。在沖米軍基地の必要性を議論する上で重要になるからだ。

簡単に言うと、戦闘部隊がないならば日本防衛には特

に役立たないので在沖米軍基地は不要である、という主張が成り立つということだ。実際間違っていない。海兵隊の固定翼機は岩国へ移転したので沖縄に残っているのは、回転翼機、つまりヘリコプターだ。従って沖縄にある戦闘で直接役立つ武器は空軍のF15、海軍のP3C（P8Aに更新？）、海兵隊のAH1、陸軍のPAC3で、戦闘部隊も陸軍の一個大隊と第三海兵師団の歩兵大隊、砲兵隊、軽装甲車両中隊、水陸両用強襲車両中隊が各一個といったところだ。これで在沖米軍が日本防衛に役立つという人はあまりいないだろう。

しかし在沖米軍の目的は日本防衛ではなく東アジアへにらみを利かせることである、という点に立ち返れば合理的な部隊配置といえる。実際北朝鮮への牽制のために飛来する爆撃機への空中空輸は嘉手納所属のKC135が担っているし、南シナ海でパトロールを行うP8A哨戒機も拠点は嘉手納だ。朝鮮戦争も南シナ海での中国の支配域拡大もどちらも日本にとって好ま

しい事態ではない。とするならば在沖米軍基地は日本にとって十分なメリットがあるといえる、

一方で日本の視点からすると、あくまで日米同盟で日本が欲しいのはアメリカが日本を守るという「約束」だ、ともいえる。日本防衛という話に限って考えればアメリカが約束さえしてくれば在日米軍基地は日本にとって不要である、といっても過言ではない。アメリカを敵に回してまで日本を攻めようとする国はないからだ。この考えに立てば、共産党の主張する在沖米軍基地廃止論も一応「論理的」であるとはいえる。

ここまでくると、後は「東アジアの安定」を重視するかどうかという意見の話になる。重視せず、日本防衛のみの話なら、それこそ朝鮮和平の暁には在沖米軍基地を廃止しても差し支えないとも言える。尤も北朝鮮が弾道ミサイルを手放すとは考えづらいし、南シナ海のシーレーンが中国の影響下に入ることは好ましくない、基地廃止を現段階で持ち出すのはいささか早

急すぎるのではないかというのが私の考えだ。

最後に少し基地問題にも触れておきたい。騒音や米兵による犯罪などに対し、基地反対運動が存在する。これを安全保障上の観点から揶揄する声をネットなどで見かけるが、基地の問題は政治の話である。私自身、在沖米軍は必要と考えているが、しかし基地のあり方、規模、日本政府の対応にはまだ改善の余地があると思っているし、基地の存続や廃止は政治の問題であり安全保障の観点からすべて決めればよいという問題ではないと考えている。本稿では安全保障の観点から在沖米軍を概観しようとして試みたつもりだが、書き漏らしたことも多い。本稿をきっかけに在沖米軍、ひいては在日米軍のあり方について少しでも考えていただければ幸いである。乾

論考 日本のバスケットボール事情

井出 圭濟(乾寮第十期)

2018年度のインターハイバスケットボール競技決勝は、新潟県の開志国際高校と愛知県の中部大第一高校の対戦となった。両チームともに二人の外国人留学生が所属している。大会の規定により、各チーム一人ずつしかコートに立つことはできないが、両チームともその二人をローテーションさせて起用するため、コート上から外国人の姿が消えることはない。

このような状況は近年の高校バスケットボールでは決して珍しいことではない。強豪と呼ばれるチームにはほとんど留学生が所属しているし、留学生を受け入れない方針のチームは、かつてほどの強さを誇れずにいる。京都府の洛南高校、秋田県の能代工業高校などはその例だといえるだろう。

私の知る限り、高校年代からこれほどまでに留学生が活躍するスポーツはない。一種異質なスポーツである。だが、私はこの文章において人種差別だとか、留学生のいるチームへの批判だとかをしたいわけではない。むしろ、留学生には様々な日本文化に触れて、母国に持ち帰ってほしいし、高いレベルの学問を求めて日本に来る留学生には精一杯勉強してほしい。そのうえ、留学生との対戦は日本人選手に大きな影響を与えるだろうし、日本人選手のみチームは様々な方法で留学生のいるチームに勝とうとするだろう。

一方で、私が疑問に思い、指摘したい点は留学生への対抗の仕方というまさにここにあるのである。現在の日本代表トップチームの正センター(留

学生が務めることの多いポジション）は、外国からの帰化選手であり、控えにもハーフの選手が多い。純粹な日本人では務まらないポジションになりつつあるのだ。このことの原因は日本人選手への指導にあると私は考える。

近年日本人選手は、仮に身長が外国人と張り合えるものであったとしても、アウトサイドでプレーすることを求められてしまっている。もちろんフィジカルでは負けてしまうかもしれない。しかし純粹なインサイドプレーヤーとしてプレーさせない限りはフィジカルに対応するための技術力は身につかない。確かに、最近では海外の選手もインサイドにとどまらず、アウトサイドでもプレーしている。だが、それはインサイドで戦うための布石なのであって、彼らの主戦場はインサイドである。なんでも海外の真似をすればいいわけではない。まずは外国人選手に負けないインサイドプレー

ーヤーになることが先決だ。

そのためには高校時代からアウトサイドに傾倒せず、留学生と戦うことで力をつけることが重要である。

「昨今、審判への暴行問題などの影響もあり、留学生への批判は高まりつつある。しかし、遠く離れた国からやってきた彼らの中には、言葉も通じず、生活に慣れることができない者もたくさんいる。」

我々は、日本のバスケット界に刺激を与える彼らを、「有難い存在」として捉え、彼らがプレーしやすい環境を構築していくべきである。**乾**



隨筆 体育祭を前に今思うこと

高谷 健人（乾寮第九期）

これは体育祭をまえに一人の和敬塾生として、体育部長として大小様々な不安の中で、今思うことのメモのようなものだ。読者を意識しているというよりは少し後を生きる未来の自分への手紙と言ったところだ。和敬塾の様々な側面を見ながら、自分の感情を整理して行きたい。拙い文章だがお付き合いいただければ幸いである。

大小様々な不安と書いたが、簡単に言えばプレッシャーに押しつぶされそうだということだ。このプレッシャーは何に起因するのかといえば、今まで先輩方が積み重ねてきた「和敬塾の体育祭」を自らの手で動かさなければならぬという焦りだと思う。仮に失敗しても叱られることはあるが、死ぬわけでもなく、和敬塾を追い出されるわけでもない。しかし、現実として

すでにプレッシャーに押しつぶされそうになっている。生きた心地がしないとはこの状況を言うのだろうか。個人の話が続ける。

生きた心地がしない理由を探る中で、叱られることにビビっている自分に出会った。自分のミスを素直に受け止められない。そんな自分の弱さも再確認させられた。叱られるのにビビって後手に回ることも多かったと認識している。自分と向き合う時間でもあった。

ここにいる意味

今年の体育祭のコンセプト考える上で様々なことを考えた。先輩方もそうされたであろう。これは私の中では「なぜ自分は和敬にいるのか」という問いの答えを探すことと同義であった。大学まで実家から通う事

もできた私は、衣食住の場としてだけでは和敬に在籍することはありえない。ただ住む場所ではなく生活しながら自分を磨く場所として和敬を捉えている。私は何をしたいのか、どうなりたいのか和敬塾内外で考えてきた。和敬にいる事も体育部長をする事も手段である。私が成長するための手段である。

今年の体育部長は和敬で得られるもの(魅力)を「多様な価値観に触れ、その価値観の存在を認められるようになること」と定義した。「和敬塾」に求めているものは人により異なる。自分は成長の場として捉えているが、人によつては「住む場所」であるし、人によつてはサークルのような感覚の人もいる。このような現象は他では起こりにくい。大学であれば学生は授業を受けに行く。サークルであれば興味関心が近い人が集まる。しかし、和敬はそうとは限らない。だからこそ衝突する。和敬に求めるもののベクトルが異なるからだ。ベクトルの話をした今、乾寮生の立場からこのメモ書

きを進めていきたい。

現代社会を写した寮？

乾寮は現代社会をよく写した寮だと思う。自由や多様性を大切にし、それぞれの存在を認めるものの、基本的には衝突を避けようとしている。いわゆる「和敬塾らしさ」は弱く、拘束されることも少ない。

話は変わるが、生活スタイルが多様化する中で町内会の運営に参加しない、マンションやアパートが増えて入れ替わりが激しく、隣人の顔を知らない。そんなことが現代社会では増えていると聞いたことがある。

昔から普段は近くに住みながらも別々の生活を送る人々が、それでも町内会費を払ってゴミ出しやお祭りの運営といった町の運営を協力しながら行ってきた。最近はそのような本来の姿を失っているようだ。人々が「当たり前」に参加していたはずの町内会の規模が年々縮小しているらしい。

私は各寮の運営や和敬塾のイベントはこの町内会に近いものであると考えている。あくまでこれは和敬塾の1つの側面に過ぎないが、そう考えると和敬塾が抱える問題も社会をよく写しているように感じられる。和敬塾のイベントに参加することは町内会のお祭りに参加することと似ているのではないか。一昔前の「当たり前」に参加するお祭りではなくなって来ているのではないか。

体育祭を運営する立場として「自由」や「多様性」という言葉に苦しめられた。理由はそこに強制力を働かせられないからだ。参加は義務ではない。不文律のよくなものはあるが「参加自由」という言葉を盾にされれば何もできない。「当たり前」に参加してくれた時代ではない。これが顕著に出るのが乾寮という寮だと思う。他寮はある意味で少し前の時代の雰囲気の流れている。これは決して悪い意味ではない。

体育部長という立場でこの時代背景を考えた時に責

任という言葉が浮かんだ。体育祭に出るといのは貴重な夏休みという時間を使う1つの方法に過ぎず、留学やバイトの方が体育祭より魅力的に感じればそちらを優先することは必然である。そこで体育祭を運営する側として（今後の和敬塾を考えて行く中で）考えるべきことは、体育祭に参加すること（和敬にコミットすること）を他の選択肢より魅力があるものにするにとだと考える。思えばこれもプレッシャーを感じている一つの要因なのかもしれない。

そこで先述した和敬塾の魅力である。私たちは「多様な価値観に触れ、その価値観の存在を認められるようになること」と定義したがここにもう一つ付け加えたい（他にもたくさんあるのだがここでは1つ取り上げる）。それは「現代社会の一片を眺められる」ことだと思ふ。和敬塾は社会の縮図であり、特に乾寮はそれが顕著ではないか。隣人の顔を知らないというのはいり得ないがこれもある意味昔から踏襲される「挨拶回

り」があるからであり、もし新歓がなくなれば和敬塾が現代社会のアップデート化を考えると考えられる。

ここで生活し積極的にこのコミュニティに関わり以上のようなことが見えて来た。今後社会が変わって行く中でどう和敬塾が変わって行くのか、または現状を維持するのか楽しみである。

和敬塾とは？

そう言えば、「和敬塾の様々な側面」と冒頭に書いたが、そのあたりの話をしていなかったので話してみたい。

「和敬ってどんな場所なの？」という質問はよくされる。人によっては家であり、人によってはサークルといっている人もいるがどれかに特定するのは難しいと思うし人によってその認識が異なることも問題がないと思う。しかもそれらの意見も一理あると感じる。

私が一個人として重視するのは塾という名前が示す

何かを学ぶ場所という側面だ。簡単に思いつくのは、縦関係の中で生きるマナーや作法に加え教養講座や講演会といったところであろうか。これは町内会的な側面とは少し離れている気がする。もちろん先述の「現代社会の一片を眺められる」こともここに含められると思う。

目の前に転がるチャンス

体育部長という立場上体育祭自体がどうなるかがしばらくの間最大の関心ごとだ。しかし、特に新入生には体育祭をただ過ごすだけで終わらせて欲しくない。

体育祭期間中は目の前の出来事に集中するだけで良いしかし、体育祭を機に和敬塾という特殊な環境と向き合ってほしい。そして、この場所で何を得られるのかを考えてみて欲しい。さらには前述の私の意見を否定し、新たな説を生み出してほしい。和敬塾は住むだけではあまり意味がないと思う。ここまで話して来たよ

うな学びを得られる場所であり、今の自分があるのはここで学んだことが大いに生きているからだと思う。ぜひ疲弊し過ぎない程度でいいからこの特殊すぎる環境にコミットしてもらいたい。チャンスは目の前に転がっている。

これから

このようなことを書くとは保守的なように見られるかもしれないがそれは間違いだ。ここは課題だらけでその課題に気づきどう対処して行くのかを学ぶ場だ。私は今の和敬塾が変革を求められていると思うし全くもって満足していない。いいところを残してそれを伝統として形だけの伝統を排除してほしい。このままではいつか力尽きるだろう。特にいまの1年生が変えてくれることを願う。

体育部長として

そろそろ結びに移る。最後にこの数ヶ月で一番大切だと感じたことについて述べたい。それはこの体育祭が影響を与える人の多さである。私は幸運にも「和敬塾の体育祭」のことを理解していただける方に恵まれた。しかし、大変多くの方に迷惑をおかけしていることは間違いない。体育祭は自己満であり、この自己満のためにどれだけの人に影響を与えてしまっているのかと思うと心が痛む。本当にたくさんの方にご迷惑をかけているという自覚がある。この文章が和敬塾外部の方の目につくことはあまり期待できないが、この場を借りてお世話になっている全ての方へお礼を申し上げます。**乾**

随筆 これまでとこれから

小林 凜(乾寮第十期)

この原稿のメ切は八月三十一日であった。で、今日は九月二十九日である。様々なテーマで書き出して、三行書いてはボツにする、みたいなことを繰り返していたら体育祭が始まってしまい、頑張つて騎馬を組んだりしていたら今日になっていた。特に書きたかったが文章力の欠如によってボツになったテーマを挙げておくので興味のある方は教えていただければ僕が直接赴き、それについて凄い勢いで喋ります。

- ・ Vaporwave と ショッピングモール (チープな音楽のノスタルジーについて)
- ・ 「街が味方をしてくれる感覚」について

結局、半年の大学生生活のまとめとこれからの展望

について書くことにした。ありきたりだが、まとめたい気持ちになってしまったので仕方がない。なるべくサクサク読めるように書くのでお付き合い願いたい。

まず早稲田大学文化構想学部について。早稲田は想像以上に早稲田だった。つまり、いとうせいこうで、聖飢魔Ⅱで、タモリだった。これは文キャン(戸山キヤンパス)で、第二外国語がアラビアで、プログレバンドサークル所属という環境で生きている僕が感じたことであつて、学生によつて様々な早稲田があるのだと思う。しかし、文構に入るきっかけとなった宮沢章夫教授が教室に現れた時、戸山公園でアラビア語クラスの友人たちと平沢進の『バレード』を熱唱した時、POLYSICS のライブについて論じたレポートで A+をとった時などに、「僕が求めていた場所は確かにあつ

「たんだ」という得も言われぬ感覚になったのであった。

勿論、自らの理想の地が存在するなどというのは幻想である、ということは理解している。大学でナチュラルクレイジーな友人たちに囲まれて、自分は所詮

「ニセモノ」なのではないかと思うことはしょっちゅうであるし、バンドサークルで自分一人だけ趣味がややズレていることにも気が付いている。一度も聞いたことのないバンドのコピーにお金と労力が費やされていくことに今もやり切れなさを感じている。だが、早稲田は、文構は僕の考え事に寄り添ってくれる場所だ。文構の授業は日常の思考に直結していくことが多いので、授業期間中は暗い気持ちで思索に耽ってしまいがちであるが、そうした苦悩も含めてこの場所で過ごすことに意義を感じている。

次に和敬塾乾寮について。和敬に入塾することはこれまででの人生の中でもかなりのチャレンジであった。

挨拶廻り、体育祭、そして日々の共同生活。どれをとっても拒否反応が起こりそうなものばかりだった。しかし、完全文化系人生から少し逸脱してみたくなった僕は思い切って入塾を決めた。何より環境が素晴らしく、見学した際にここで得るものがあると直感した。

入塾を決めたものの、石橋を叩いて壊すタイプの僕は各寮について丹念に調べ上げた。そして乾文學を知り、乾への入寮を決めた。乾での生活は自由かつ共同生活の楽しさを感じられるものであり、結果として文化系人生脱出ならず、であった。これが面白いところなのだが、和敬塾という環境において乾寮の気風は唯一無二であるため、自由な生活を送っていることがむしろ僕の中では自寮への帰属意識に繋がっていったということだ。入塾から体育祭本祭まで、一切寮で理不尽な思いをすることはなかったし、乾寮は常に帰りたいと感じる場所だった。だからこそ、闘争心が著しく欠如していると自認する僕も騎馬戦で他寮に勝ちたい

と思えたのだ。

南寮との統合に関しても触れておきたい。乾、南で一年生間の交流もだんだんと深まり、同期全体の雰囲気としてはスムーズな統合へ進んでいるように思われる。しかし正直なところ、僕個人としてはまだ不安が多く残っている。四月になれば新歓が始まる。新入生に自分が強制されなかった儀礼を強制したくはない。

乾と南の中間をとるのであれば、乾寮生にとつては多少寮への拘束力が強まることになるだろう。そうなったとき、僕は和敬のことが好きでいられるのか、どんな行動をとるのか、今は見当もつかない。

夏休みまでの僕は執拗に二つのテーマにこだわっていた。一つ目はバランスを保つこと。和敬に入り浸りすぎないよう、大学で三つサークルに入り、そのサークルもニツチなものといわゆる「大学生」が多くいるものの両方でバランスをとっていた。二つ目は過剰に活動すること。バンドでドラムを叩いてほしいと言わ

れば全て引き受け、バイトもフルタイムで入れた。

このテーマに沿って行動することで無意識のうちに僕は大学生になった万能感を得ようとしていた。完全な驕りである。案の定、いわゆる「大学生」がいるサークルもバイトも辞めてしまった。万能大学生小林くん計画は一年春学期で失敗に終わったのだ。

僕はここから大学生生活を再起動させたいと考えている。「等身大の自分」なんて言葉は絶対に使いたくないが、自分が楽しいと思うことに従いたい。今一番面白いのは学部の選択講義を聞いて考えることだ。少し前は考えたら実践せねばならないという強迫観念に駆られていた。しかし今は、考えるのが楽しいならばそれで良いと思っている。何もかもが上手くいくはずはないが、これからの大学生活、新南寮での生活の変化を穏やかに受け入れ、楽しめる自分でありたい。やっぱりありきたりになってしまったがそう思う。

乾

論考 W杯、対ポーランド戦について

神蘭 照尚(乾寮第八期)

2018年6月14日、ロシアとサウジアラビアの試合で開幕したロシアワールドカップは日本代表が開幕前の期待を良い意味で裏切った結果を日本に届ける形となった。レベルの高いグループリーグでのグループ突破、ベスト16を懸けたベルギー戦では十分、格上の相手を驚かせる試合を展開し日本中を熱くさせた。

今回のワールドカップではフェアプレーポイントという制度が導入された。この制度はグループリーグ内で勝ち点、得失点差、総得点、直接対決で順位が決まらなかつた場合に警告の数をポイントに変え順位を決めるという制度である。つまり警告の枚数の少ないチームが順位を上げるといふものである。この制度をめぐ

り日本はグループリーグの突破を決めたにもかかわらず、世界中からバッシングをあびた。今回私は非難をあびたポーランド戦についての私の意見を述べたいと思う。

まずはポーランド戦前の状況を説明したい。日本はセネガル、ポーランド、コロンビアと同じグループリーグで試合をしており、セネガルと共にグループリーグ首位につけていてポーランド戦で勝つか引き分けるかで決勝トーナメント進出が確定していた。また、セネガルが次に試合でコロンビアに勝利すれば日本は二位で決勝リーグ進出が決まる。しかしながら、日本がポーランド戦で負けてセネガルがコロンビアに敗北すると日本はセネガルと得失点などで敗退の可能性が生

じる。また日本が負け、セネガルが引き分けると日本は敗退が決まる状況であった。つまり日本がポーランド戦で敗北すると日本の決勝トーナメント進出はセネガル対コロンビア戦にゆだねられる形であったということである。したがって日本は少なくともポーランド戦では少なくとも引き分け以上の結果を出すことが理想的であった。

しかしながら、日本代表は戦術、試合内容共に引き分け以上を狙ったわけではなかった。試合のスターティングメンバーは先のセネガル戦から6人変更した。これは、連戦で疲労していた一部のメンバーを休ませるという意図があったのだろう。しかし、グループリーグでの他国の戦いを見ると分かるようにグループリーグ最強と言われていたポーランドの調子は著しく低下していた。また、コロンビアも日本戦での一発退場のハプニングにも見舞われ、良い試合内容をしていたとは判断しにくい。反対に日本と第二戦目で対戦した

セネガルは予想以上のパフォーマンスを披露していた。よってコロンビアとセネガル戦はセネガルに分があると考えるべきである。また先に記述した通り、セネガルとコロンビアは日本とコロンビアの試合結果によつては引き分けでもグループリーグ突破が決まる形であった。したがって日本はベストメンバーでポーランド戦にのぞむ必要がある、そのためにもメンバーを休めさせること考えるならば、バランスよくコロンビア戦とセネガル戦で行うべきであった。

また日本がポーランド戦で用いた戦術は相手のフォーメーションに自分たちも合わせ、ポーランドにボールを持たせてカウンターを狙うというものであった。日本は引き分け以上で決勝トーナメント進出を決めるのでこの戦術は理解することが出来る。しかしながら、このようなサッカーを目指しておきながらスターティングメンバーには守備からのカウンターという戦術には不向きな選手を選んではしまった。具体的に述べると、

ボランチの柴崎選手は守備を重視するならば適任ではない。また、両サイドの酒井高德選手や宇佐美選手もカウンターを狙うならば適任ではないことは明らかである。つまり、想定していた戦術とメンバー起用があまり合っていないかった。実際の試合も前半ではチャンスを二回くらいは作れていたが、試合を通してカウンターはほとんど見られなかった。幸いなことにコロンビアがセネガルに勝利したため、日本は無理せず一点差を保持したまま試合を終えるだけで決勝トーナメント進出をきめることとなった。

以上のことから日本はポランド戦において最後のボールポゼッションを選択したことを責められるのではなく、試合に入る前の戦術やメンバー構成を批判されるべきであると私は考える。**乾**

徳久 達志(乾寮事務)

四年に一度のFootballの祭典、2018 FIFA World Cup Russia

日本代表の前評判が悪かった中で、まさかのコロナ禍で戦勝利で世の中が手の平を返したかのように熱狂し、テレビを付けねば朝から晩までワールドカップの話題ばかり。予選リーグ第一試合日本代表がセネガル代表と引き分けた日から書き始めたので、この原稿が何時書き終わるのか、どの方向に向かうのか分かりません。

日本サッカー協会のホームページによると、初期のFootballは、街中や広場で興じられていた地域の祭りの「ボール遊び」で、一つのボールを争って相手のゴールを目指すというものであったようです。産業革命で農村部から工場労働者として多くの若者が街に住み移

り、遊びから仲間を求め、路上での「Football club」と社交場としての「pub」が合わりスポーツクラブが生まれました。そのままボールを手にとって走る「フットボール」は認めない事、等を決めた後述のAssociation Footballとしてラグビー・フットボールと別れた事で今の形のFootballとなりました。困みに日本での歴史は明治六年英国海軍教官団のダグラス少佐と海軍兵が来日し、東京・築地の海軍兵学校(のちの海軍兵学校)で日本人の海軍軍人に訓練の余暇として、サッカーを教えたのが始まりと書かれています。

サッカーの語源は同じく日本サッカー協会のホームページによると、一八六三年、ロンドンとその近郊にあるフットボールクラブの代表者が集まり、共通したルールを決めると共に、協会を設立しました。協会

(Association)のルールに基づいてフットボールは、協会式フットボール (Association Football) と呼ばれていました。ラグビーが「Rugger (ラグラー) 」と呼ばれるようになったように、当時、イングランドの若者の間で、言葉を短くして愛称をつくるのが流行していたのか、Association Football の「soc」に「er」をつけて言葉を作りましたが、そのうち最初の「A」を発音するようになり、「Soccer」となったと書かれています。国際サッカー連盟 (FIFA=Federation International de Football Association)も、協会式サッカーの国際連盟という意味になります。日本とアメリカ等一部の国は「Soccer」、それ以外の国は「Football」と言います。

今大会からVAR(ビデオアシスタント・リフリー)が採用され話題となっていますが個人的にはマラドーナの「神の手」ゴールが無くなり寂しい感もしますが、審判の誤審、というよりはプレーの高速化にリフェリ

ーがついていけない事に寄る誤審がカバーされるので歓迎です。

また予選リーグでの順位決定方式が勝ち点、得失点差、総得点、当該チーム同士の結果、フェアプレーポイント (反則ポイント)、抽選となっていたため、予選リーグ最終戦の日本対ポーランド戦で日本が最後の十分間にボール回しに徹して攻撃に行かずに、イエローカードを貰わないようにした事に対して、アンフェアーでフェアプレーを勝ち取ったと世界中からバッシングを受けましたが、決勝トーナメント一回戦のベルギー戦2対0からの逆転負けは結果的にポーランド戦の最後の十分間のアンフェアーな戦いと言われた事が災いし、攻め続けたことでよもやの逆転負け。日本は戦い方が判らなかつた、歴史が浅くサッカーを知らない、私が監督であったなら2対0で勝てた等、と批判される一方で良く戦い抜いた、潔いと選手・監督・チームスタッフが讃えられました。いろんな意味での、監

督交代からの人選から始まったの結果論となりますがあの十分間のフラーに対する評価は、2018 FIFA World Cup Russia の想い出(リフレクション)の悲劇、ジョホールバルの歓喜のようにロストフ・ナ・ドヌの〇〇と言われるのでしょうか？ウイキペディアにはドーハの悲劇の後にハンス・オフト監督が「ゲームの作り方(組織戦術)は教えたが、ゲームの壊し方(試合を逃げ切る方法)は教えることが出来なかった」と書かれています。歴史は繰り返すのです。

ここからは二〇一八年二月十七日の浦和レッズスチユワード(お世話係、一般的にはボランティア)研修会においての明治大学寺島善一名誉教授の講演内容を紹介しながらスポーツ文化としての「Football」を考えてみたいと思います。

先生はスポーツ文化の特性は「時間」と「空間」を「共有」して楽しむ。『共有』するというのがキーワードで有り、己一人が楽しめるものではない。スポーツに

は必ず「相手」がいる。相手が自分と楽しむ時間と空間を作らなければならない。対戦相手は「敵」ではなくて「パートナー」。対戦相手に対する「Respect」は不可欠と述べられ、また「ルフにおいてより重要なことは「ルール」ではなくて「エチケット」。「ルール」といった「外的拘束力」に縛られるより、参加しているプレイヤーに対する自発的思いやり・気配りをする「エチケット」がより大切だという事。「Fair Play」がスポーツの「時間」「空間」を実り多いものにすると述べられています。

真下真一名古屋大学名誉教授「ヒューマニズムの精神」から引用された言葉が「人間の教養とは、自分一人が生きているのでは無いという自覚の深さ。そこから自ずから出てくる行為」「無教養とは何か？それは傍若無人な心と振る舞いのことである。自分一人が生きており、自分一人が幸せを求め、幸せを得る権利が在ると思う心と行為のことである」と。他者の目を意識し、

自分を律することの必要性を述べられています。

日本人の「道」とは違う文化ですよね。

東洋経済ONLINEに面白い記事がありました。スポーツの見物には、「応援型」と「観戦型」があり、「応援型」の典型がサッカーである。「観戦型」は「ゴルフやテニス等」擬似的な「ムフの争い」を象徴している。戦争という言葉はスポーツに適切ではないが、サッカーやアメフトには、我々の本能に埋め込まれた集団間の争いを表象する要素があるのは事実である。こうした集団の闘争心を掻き立てるスポーツは、どうしても勝ちたい、あるいは観客としても勝って欲しい、という気持ちが強くなる。

私にとって日本代表戦は「観戦型」であり、ベルギー相手に良くやったと冷静な目で戦術分析、試合のポイントを分析できますが、「応援型」の浦和レッズの試合は時間稼ぎのプレーや戦術的ファウルを切望し「潰せ」と声を張り上げ、とにかく勝ってほしい。勝てば嬉し

い！負ければニュースも新聞も見たくない、何も考えたくない程悔しくなるのです。

文化として考えるスポーツ。理性では理解できませんが「応援」するスポーツは違います。

一度はスタジアムで応援してください！テレビ観戦ではなく、赤く染まった埼玉スタジアムに足を運んで体感してください。

「応援型」であっても、スポーツの理性化＝徳性の涵養、他者への配慮、敗者・弱者に対する思いやりは必要であり、現代スポーツではスポーツに関わる人への“Respect”を重んじ人種差別撤廃を掲げ、社会的差別を克服する事をつたっています。Jリーグでは「ピッチ上のフェアプレー」、「ファイナンシャル・フェアプレー」、「ソーシャル・フェアプレー」という「三つのフェアプレー」がJリーグやJクラブを発展させる基盤となる重要な概念であることに合意し、これを積極的に推進しています。「理性」と「感情」の扱いは難し

いっせえね。

2018 FIFA World Cup Russia もフランスの優勝で幕を閉じ、メッシ、インiestaの代表引退表明が有り一つの時代が終わりました。ハンドボールの様に守り、フランスのエムバペ、ベルギーのルカクに代表される超高速カウンターで攻めるフットボールの幕開けです。

決勝トーナメント日本へのベルギー戦の後半立ち上がり三分、浦和レッズトップチームに加入した時からのお気に入り、青いユニフォームの背番号8原口元気の高速カウンターそして得意の右足からファーへのゴール!!素晴らしいかったですね!

私が住み着いた浦和の街はフットボールが生まれたイギリスのとある街角の雰囲気似ているのではないかと思います。試合の有る日、浦和レッズの背番号24の原口元気の赤いユニフォームを着てスタジアム行きバス停に向かって歩いていると、見知らぬ人から

「頑張って応援して来てね」と声を掛けられ、通り沿いの多くの家々のベランダには浦和レッズの大小様々なフラッグが掲げられているのが見え、スタジアムからの帰り道では「勝ったの?」とまた見知らぬ人から声が掛かる。スタジアムに行けなかった人達はそれぞれのお気に入りの居酒屋やパブで大型スクリーンを見ながら、ゴールが決まれば立ち上がって大歓声、相手のファウルには大ブーイング、失点すれば静まり返る。

そして勝利が決まると皆でWE ARE REDSの大合唱!

今日からJリーグもインiesta、トレスが登場。おおい、みんなでフットボール応援しようぜ。乾

論考 スーパー戦隊

平石 颯(乾寮第十期)

スーパー戦隊とは何か。それは私たちが幼少期に一度は見たであろう「レンジャー」と銘打たれたヒーローのことである。そのヒーローたちが協力して敵に立ち向かい、倒していく、そんな筋書きである。それと双壁をなすものが仮面ライダーである。仮面ライダーは孤高の戦士といったところかと私は思う。現代では子供たちの間ではスーパー戦隊派、仮面ライダー派がヒーロー物では代表格である。

だが、私にとって、スーパー戦隊は相当に大きい存在であった。特色のある登場人物、悪役の意外な一面、人情あふれるシーンの数々は印象に深く残るものだ。更には巨大戦、いわゆる戦隊ロボの戦いは非常に興奮して見ていたものであった。巨大戦は仮面ライダーに

はあまりない特徴である。一致団結してスーパー戦隊のメンバーが戦う姿は大迫力で、記憶に焼き付く。とにかく、スーパー戦隊という存在は素晴らしいものであると思う。秘密戦隊ゴレンジャーから最新作の警察戦隊パトレンジャー、快盗戦隊ルパンレンジャーに受け継がれてきたスーパー戦隊の系譜は日本の宝である。私は考える。

ところが、ここ数年、スーパー戦隊の存続に暗雲が立ち込めているとの噂が囁かれている。もう題材にするものがない、似通った筋書きが散見されて人気は低迷しているといった事が近年は問題視されているようだ。実際、似通ったモチーフの戦隊もある。上記の最新のスーパー戦隊も劇中のアイテムが過去の戦隊が使用

されているとの指摘が散見される。確かに、指摘のあったアイテムは過去の戦隊のアイテムと形が似ているなど私からみて感じた。だが、それを是とするか非とするかは人それぞれである。私の意見を述べると、それは悪くないと思う。過去の戦隊を思い出すことができるという点において、それは有効であると考ええるからだ。過去のリンクという点が現代におけるスーパー戦隊が歩むべき道を拓くかもしれない。ネタ切れという理由だけでこれまで続いてきたスーパー戦隊シリーズが終わってしまうにはまだまだ早い。伝統あるものをこんな形で途切れさせてしまっていないのか。今後、スーパー戦隊の歩む道の前には苦難があつて当然であろうが、より視聴者の心をつかむ作品の創出を期待したい。そのためにも世間一般の意見の反映、これが一つ今後のカギを握ると私は予想する。現に、最新作の警察戦隊パトレンジャーと快盗戦隊パレンジャーは世間の意見が汲まれた作品の一つではないかと私は

考える。警察に対する皮肉が込められているシーン、追加戦士の≪変身、装備品の種類の差、これらの要素が散りばめられていることがこの作品に少なからず影響を与えている。来年に向けて、次なる戦隊シリーズの発表が迫っているが、新たな要素を加えたより良い作品ができるのか、注目したい。私としてはレッドを女性が務めるという展開に期待している。レッドは過去全てのスーパー戦隊シリーズで男性がメインであるが、それを覆すことがあるのか期待したい。ちなみに、グリーンが前作の宇宙戦隊キュウレンジャーにおいて初めて女性の割り当てになっている。色の割り振り、男女の構成割合も今後は重要になる要素かと思う。更には追加戦士、これも数年前からかなり重要視されている。追加戦士のカラー、特別なアイテムがストーリーの展開上、さらには商業上、興行上といった場外戦にまでフィールドを拡大して、必要不可欠とされている。私の主観だが、追加戦士の存在一つでその戦隊そ

のものを左右するほどの力を秘めていると考える。追加戦士がパツとしないともなればストーリー全体にも影を落としかねない。今後の戦隊の追加戦士にも期待したいところだ。

スーパー戦隊について、私はもう一つ述べたい。それは各スーパー戦隊のオープニング曲とエンディング曲、挿入曲である。子どもの頃に何気なく聴いていたメロディーを今聴いてみると非常に身に染みるのである。力強い曲調、少し寂しくなるような曲調、元気が出るような曲調と、様々なものがある。私にとってスーパー戦隊の曲は頑張る勇気を与えてくれるものであると感じている。幼稚だと考える人もあろうかと思うが、一度聴いてみてほしいものである。また、少し調べてみれば、あるプロ野球選手の応援歌のベースになっている曲があるし、名の知られている歌手が歌っている曲もある。調べるのも面白いし、実際に聴いてみるのも興味深いものである。スーパー戦隊の曲はなかなか

奥深いと私は感じている。

ここまで私の完全な主観に基づき、スーパー戦隊についての意見を述べた次第である。前述のとおり、私はスーパー戦隊の大ファンである。今後も、折に触れてスーパー戦隊についての情報を追いかけてほしいし、より一層、スーパー戦隊が発展していつてほしいと心から願っている。そして何より、より多くの人々にスーパー戦隊の魅力が伝わってほしいと思う。スーパー戦隊の新たな魅力が創出されることを私は強く望む。先にも少し述べたが、スーパー戦隊は日本が生み出した文化だ。より面白く、よりバージョンアップしながら今後も永く受け継がれていつてほしいものである。

乾

随筆 'Tinnitus' もしくは電気鈴虫は頭のなかで 4000hz の歌をうたうか。

白河夜醒

tinnitus とはラテン語 *tinnio* から派生した語であり、「鐘が」鳴る」という意味から転じて、いわゆる「耳鳴り」を意味する。静かな部屋にいと、どこからか「キーン」という高音が聞こえてくる人は少なくないのではないか。「キーン」ではなく、「シーン」というふうに聞こえる人もいて「シーンとした室内」という表現は、ここからきていると思っている人もいたが、おそらくこれは違うであろう。「シーンとした」ではなく「しんとした」であり、漢字で表記すれば「森閑」の「森」である。また、高音ではなく、低音でざらついた音の耳鳴りが聞こえる人も多いという。

健康診断を受ける際、聴感のテストがある。ヘッドホンを装着し、低音と高音がある間隔で聞こえてきた

ら、手元のボタンを押すというものだ。ちなみにこの場合の高音の周波数は、4000Hz であり、低音の周波数は 1000Hz である。毎年健康診断を受けているのであるが、ある年齢になり高音が聞こえていないという診断結果が出た。そのしばらく前から、静かな場所でも常時高音のキーンという音がしていた。認めたくはないがやはり耳鳴りなのである。医師によれば、病的、突発的なものでなくても加齢により避けがたいもので、誰でもなりうるものだという。とはいえ急性のものでないかぎり、特段の治療法はないらしい。なお、突発性難聴および急な耳鳴りについては、すぐに診断を受ければ治癒しやすいことを、念のため記しておく。

ここに至るまで、思い当たる節はいろいろある。

まず、耳をしつこく、また病的にほじる癖がついていること。耳掃除するのが癖になり、綿棒や柔らかい木の耳かきなどで、満足するまで耳をほじる。そうすると、粘液がにじみだしたり、ひどいときには出血する。そこでしばらく休むのだが、耳の中にかさぶたができる、悶えるようなむず痒さがある。かさぶたについてはまた触れることがあるが、それを掻き毟る際の快感と恍惚、またそのあとの痛みと後悔は、筆舌に尽くしがたいものである。

また、ヘッドホンで音楽を聴くこと。難聴を避けるため、それほど大きな音では聞かないようにしていたが、手違いで大音量になってしまったことがある。つまり、カバンの中に入れていた携帯音楽プレーヤーのボリュームが、はずみで最大になってしまい、それと知らずに電源を入れたら大音量が耳を直撃するというものだ。一、二度あったかもしれない。予期せぬ大音量を

浴びせられると、しばし呆然とするが、耳自体にも物理的な損傷があったのではなからうか。また「ヘッドホン難聴」という言葉もあるので、心当たりのある方は注意されたく思う。

さて耳鳴りというのはやっかいなもので、実際には音源がないため、その音を止めることができない。頭のかなかで音が響くばかりである。難聴等を併発せずに日常生活に支障がない場合であっても、神経の細やかな人にはそれだけでもかなりのストレスであり、ストレスからさらに耳鳴りがひどくなることもあるようだ。そうでなくても、人の寝静まった深夜に、心を落ち着かせようとすると、自分の意志とは無関係に耳鳴りが響くのはやるせない。

耳鳴りがするようになって気付いたことがある。室内など人工環境にいと、キーンという高音が耳に響く。しかし、屋外にいて木の葉ずれや、川のせせらぎ、蝉の声、鈴虫など秋の虫の音などが聞こえる場合、不

思議と耳鳴りが気にならない。ただし、町中の交差点、それと室内のエアコンやヘアドライヤーの音等はいくら大きく、騒がしくても駄目である。自然環境では様々な周波数の音が発せられているようだが、どうやら、ちょうど耳鳴りの周波数にあたるにも自然が発する音が響いているらしく、耳鳴りはそれにまぎれてしまつて、耳鳴りとしては感じられなくなっているようである。

そういえば、タルコフスキー監督のSF映画「惑星ソラリス」を見て、なるほどと思つた場面がある。主人公がソラリス星の周回軌道にある宇宙ステーションに赴く。そこには前任の科学者たちがまだ残っていて、地球に帰らず、それぞれに研究を続けている。そのなかの一人が、すでに亡くなつた科学者の最大の発明だとして、送風口につけられた吹き流しというのだろうか？よく扇風機に付けてあつたりする紙製のひらひらのものを指さす場面がある。送風口からの風で紙がこ

すれ、木の葉と同じ音がするだからだという。たしかに、木の葉が風に吹かれて発する音を聞くと、不思議と耳鳴りのことを忘れられる。おそらくは、多少なりとも幅のある周波数と、一定の幅のなかでの不規則性がそうさせるのだろう。もし、一定の音程で、一定の間隔（もしくは常時）音が発するとすれば、新たな耳鳴りの元が増えるだけである。映画に戻れば、しんとした宇宙ステーションのなかでは、健康であつてもストレスで耳鳴りする者もいそうではあるし、そのなかで疑似的ではあつても自然の発する音というのは貴重なものだったのだろう。

ところで耳鳴りに対処するにはどうしたらよいであろうか。それにはまず、耳鳴りの原理を考えてみる。結局は耳の微妙なる機能は脳の司るところであり、器質的な要因でない場合は、脳の機能に由来するため、容易には解決しない。一説には、耳の神経が老化や衝撃などで弱まると、ある周波数が聞こえにくくなる。し

かし脳は、その周波数もあるべきものとして機能しているため、そこを補完するために耳鳴りが生じる、というものである。聞こえてこないからこそ、脳と神経が過剰反応するということだろうか。迷惑な話ではある。そうだとすると、その周波数の音を集中的に聞けば、耳鳴りは治まるのではないだろうか。例えば、葉ずれの音を常時耳元で発生させるのは難しかろうが、電氣的に鈴虫様（よう）のものを開発し、耳元に仕込めばどうだろうか。ひよっとして耳鳴りが電気鈴虫の声にまぎれて、意識に立ち昇らなくなるかもしれぬ。実際にそのような治療法もあるそうで、ある周波数を強調する補聴器を一定期間つけていると、神経の過剰反応が治まり、耳鳴りが軽くなるという（個人差ありとのこと）。ただし、どこの医療機関でも受けられる治療ではないようだ。そうであれば、どう処すべきか。むしろ害ではなく益にできぬものか。

高音の耳鳴りの場合、その内感的周波数は 4000hz 前

後らしい。ところで、楽器の基準音である A の周波数は 440hz (444~448hz もあり) である。4000hz の音程はなんであろうか。調べてみるとピアノの B の最高音が 3951hz だという。楽器を弾く前には音程を合わせる。チューニングともいう。ギターを弾くときには、五弦を A の音 (440hz) に合わせる。もし二弦 B の一オクターブ上の音が、耳鳴りの周波数と同じになったとしたら、チューナーや音叉は不要になるのではあるまいか。つまり、耳鳴りの音程を、なんらかの訓練や習慣付け、方向付けにより、ある一定の音程が得られるようになれば、あなたがち耳鳴りも悪いとばかりは言えないだろう。使いようによっては絶対音感はなくても基準音として用いれば、疑似絶対音階として運用できるかもしれぬ。

受動的な耳鳴り対処ではなく、前向きな対応の研究が待たれるところである。乾

Learning Something in English

Yoshiki Ito

Some people strongly argue that it is very important to improve the English ability of Japanese people. This opinion is becoming a social consensus, and the government provided new education policy in which 3rd and upper grade students of elementary school must learn English at school from 2020. In addition, a lot of companies have started to impose the requirements on freshmen that they have attained English test qualifications such as TOEIC or TOEFL when hiring them. However, are these kinds of new movements effective enough to improve the average English ability of Japanese people? Probably not.

If you have a chance to talk with some foreign students from China or Korea, you will be surprised at how good at English speaking they are. As you know, their first language is not English, but they manage to acquire English skills far better than Japanese people.

Japanese people also have chances to learn better English, but they must do so in a proper manner. I'd like to make an argument about effective methods of learning a second language in two perspectives, which are based on scientific evidence.

Scientific research has proved that there is a difference in the way of brain usage between people who learned a second language before they reach 7 years, and to those who learned it after 11 years. This argument agrees with the other scientific result of “the young age plasticity privilege”. This privilege stands for the advantage held by young children in establishing synaptic connections of their brain.

Plasticity, which means the changeable state of synaptic circuit, is categorized in two ways. First category is related to wiring of neurons. As children get old, neuronal connection dynamically grows so that they can adapt themselves to the environment around them. However, this wiring structure stops growing at a certain age. After that, there is only one way of plasticity, which is about synaptic weight. The neuronal connection of the adults' brain is basically stable, but the brain system can be changed by strengthening the frequently-used connection of neurons and weakening the rarely-used part. In other words, the way of thinking can be altered only by stressing some part of an already-made-up brain from a certain age.

This fact clearly illustrates the scientific research I mentioned above. People who learn a second language from under 7 years are likely to have a brain circuit which specializes in using the language, while those who learn it after 11 tend to have neuronal connection which corresponds only to their first language but they succeed in adjusting its synaptic weight to use the second language. It is obvious that the latter have great disadvantage in using that language because their neuronal connection is not basically constructed to use the second language.

In this respect, it is quite effective to start learning second language as early as possible. However, as for the new English education policy, it is inevitable to say that 3rd grade of elementary school students who are 8 or 9 years old are not young enough to start learning English. If you really hope your children to acquire English,

you should put them into favorable environment while they are in the kindergarten.

You might be shocked to know the fact about our brain, and think it is too late to learn English for yourself. But I'm not writing this essay to discourage your willingness to study English. Actually, quite a few people succeed in acquiring English even when they get old. You just have to know that you need to endure harder training than those who learn English during early stages.

Speaking of myself, I was born and brought up in Japan, taking a typical English education in school. I love to study English and I have made a lot of effort to improve my English. However, I found it quite hard to master English. The most problem will be that in my mind everything is well constructed by Japanese. For example, when I look at a dog, my mind automatically recognizes the dog as “犬”, not a “dog”. To speak English fluently, it will be very important to recognize the environment by English. It means that my brain system needs to learn how to inhibit the activation of Japanese recognition system, while activating the English recognition system. This training is very hard to conduct in daily life in Japan because our environment is full of Japanese, and our Japanese recognition system reacts to the stimulation unconsciously. If we are in this environment, the synaptic weight cannot change efficiently and there is no wonder that we fail to establish an English-oriented mind. If you want to be a good English speaker, you should put yourself into the environment in which not only you can access to English, but also you are prohibited to use Japanese.

Another important thing in learning English will be that we should know as many words or expressions as possible. Unlike Japanese writing system, it is not easy to infer the meaning of unfamiliar English words. If you see the combination of Chinese characters, you can guess the meaning of the word by its component even if you do not know the word. On the other hand, you may have no idea of the meaning of the English word as long as you do not know the exact word, because the English word is composed of meaningless alphabets. Therefore, expanding your vocabulary is necessary if you want to use English better. No matter what environment you are in, learning new words and phrases should be weighted in addition to mastering how to use your present vocabulary.

Many people will ask “Do you speak English, or not?” However, this question is not well defined because language ability cannot be evaluated by binary question. In my opinion, it is better to ask, “Do you have any problem in casual conversation about your hobby in English?” or “Is your English level high enough to have a discussion about your major?” Even if someone has no trouble having casual conversation, they might not be able to understand serious discussion or academic talk because of their limitation of vocabulary. Therefore, your English ability should be assessed for its purpose and topic of the usage. If you learn English as a second language, I recommend you first specify the situation where you need to use English, and then try to expand your vocabulary or typical sentences so that you do not have much trouble there.

In conclusion, learning a second language is closely related to

the development of our brain system, and it should be stressed to start learning English at an early stage (Under 7 years is preferred). It is possible to acquire a second language even after you fully grow up, but in that case, you will have to put yourself into the environment in which there is a full understanding of the language with limited access to your first language. The environment is one of the big factors of your learning process, but it is not a unique one. Even if you are in good environment, you still must try to expand your vocabulary accordingly to your necessity of using that language. I am the one who keeps on trying to improve one's English. Why don't you learn English with me to satisfy your needs? 乾

論考 中国における言文一致とその哲学的射程について

——あるいは技艺としての言語への問いのための試論 第一回

伊勢 康平(乾寮第六期)

0

『乾文學』創刊以来、どういふわけか例の取り潰し騒動の回——実際に刊行したのはすでに問題がひとつおり落ち着いたあとのようだったが——まで私は毎回欠かさず寄稿してきたわけだが、前回は初めて私の原稿が載らなかったようだ。もちろん、私も『乾文學』のことを気にもとめていなかったので不満なものもまったくないが、とはいえ自分が書かなかったという事実は、同時に私がこれまで後輩たちによって書かれた『乾文學』をほとんど読んでいなかったという事実をも発見させたのである。

そうしたわけでひさびさに今回集まっている原稿を

ざっと見てみると、どうやらいま中心となって『乾文學』を作っているひとのなかには(ということはつまり乾寮で多少なりとも本を読んでいるひとは)、いわゆるポストモダンに関心を持つ学生が多いらしい。

ポストモダンは「近代の終わり」を、そしてさらにそのあとを問題とし、あるいは条件とする。とはいえ、「近代の終わり」というとき、実際にはなにがいかに終わる、というのだろうか。哲学者の許煜(YUK HU)はつぎのように述べている。

したがってわれわれが「近代の終わり」という語によって意味するのは、近代性がわれわれに影響を及ぼすことをやめるといったことでは断じてない。

むしろ、「プロジェクトとしての」近代がまさに終わりをむかえつつあることを目の当たりにし、理解することを意味するのである。しかしながら、近代は、そして近代性がわれわれに、われわれの内に生み出した影響は、依然としてわれわれにとつて乗り越えるべきものであり続けている（※一）。

たとえ終わりを思弁するにせよ、その本質を問うにせよ、いまだに近代に身を置き続けているわれわれにとつて近代そのものを問うことは少なからず困難をともなう。それはたとえ、言語を用いて言語について考えることに似ているかもしれない。現に「近代の超克」でも「ポストモダン」でも「非—近代」でも構わないうが、近代性を乗り越えようという一連の試みは、それぞれにきわめて重要な議論と可能性を提示しつつも、いずれも決定的な成功を収めているとは言いがたい。とはいえ、それらのプロジェクトをこと細かに検討す

ることはひとまず私の目的ではない（そしてそれはいまの私にできることではない）。ここで問いたいのはいしろ、われわれが躍起になって乗り越えようとしている近代、あるいは近代性とはそもそもなんなのか、ということだ。

いわゆる近代性が、直接的には一八世紀から一九世紀の西洋に由来することはひとまず間違いない。しかしながら、地域や学問領域を条件づけることなしに、これ以上に支配的な定義を下すのはなかなか難しい。というのも、さまざまな形でその近代性を受け取った非西洋諸国にとつて「近代とはなにか」という問いはじつに多様で複雑な様相を呈するからだ。

中国を題材にして、端的な例をひとつ示そう。多くの日本人にとつて、時代区分としての近代は明治にはじまり、四五年の敗戦をもって終結するものだと思うが、中国にとつて一九二〇年代はすでに近代ではない。厳密にいうと、一八四〇年のアヘン戦争によつ

て中国の「近代」^{ジンタイ}がはじまり、一九一九年の五・四運

動をもって時代区分が「現代」^{シェンタイ}へと移行する。その「現

代」も四九年の中華人民共和国成立とともに幕を引き、

^{ダンタイ}

時代は「当代」へと突入するというわけだ（学問領域

や史観によって多少異論はある）。だから中国では

modernity の訳語に「現代性」^{シェンタイシン}が採用されている（※

二）。

見方によれば、これは単なる時代区分の相違でしか

ないようだが、やはりこの差異はじつに大きい。とい

うのも、それはおおくの日本人が一九四五年八月一五

日という日付に持ちうるひとつの断絶の感覚を中国人

がまったく持ちえないだけでなく、前者にとってほと

んどなんの印象もない一八四〇年や一九一九年に、後

者が時代を区切りうるほどの断絶の感覚をもっている

ことをも意味するからだ。このような差異を前にして

もなお、われわれは依然として「近代とはなにか」と問

いつづけられるのだろうか。それぞれのひとつによつて

「近代」がまったく異なるものを指しているかもしれないの……。

むろん、これは中国と日本に限ったことではない。

国や文化の数だけ「近代」がある。近代性を問いかける
とき、われわれはつねにすでにこのような状況に置か
れている。とはいえ、すべての国のすべての「近代」に
目をむけることなど端的に不可能であるし、私にはそ
れがさほど効果的であるとも思えない。近代性を問う
とき、われわれはやはりどこかの「近代」に立脚せざる
を得ないのだ。

私はこれから近代中国（※三）のひとつの事象につ
いてやや込み入った考察を行う。われわれは、そこで
西洋とも日本とも異なった近代性のある歪んだ形を見
出すだろう。たしかにそれは『乾文學』の多くの読者に
とつてなじみも興味もないものに違いない。しかし、
私は以下の議論が中国の思想や文化に関心を持つ一部

の奇特なひとに限らず、日本に立脚して近代性を考えるようにするすべてのひとにとつても有益なものとなると信じている。ともに近代性を学ぶことを運命づけられながらも、中国と日本は互いに異なる「近代」をまなざす他者であり続けている。両者にとつての「近代」は、たえず交差と隔絶を繰り返しつつ、「合わせ鏡」のように互いを照らしあうのである。

長い前置きになった。それでは本題へ入ろう。

1

中国語に少しでも触れたことのあるひとならわかるだろうが、いまの中国語はいわゆる「漢文」とはかなり異なっている。日本語がそうであるように、現代中国語（※四）の文体もまた、近代による諸実践の結果、人為的に創造されたものだからだ。

日本にも言文一致があるように、中国にも言文一致がある。そしてそれは日本とはかなり異なつた展開を見せている。いまから中国における言文一致について考えていくわけだが、そのために必要な最低限の情報を大雑把に整理しておこう（※五）。

さきほどいったとおり、中国の近代は一八四〇年のアヘン戦争から始まる。もともとマテオ・リッチ（利瑪竇）ら宣教師による文化交流が明・清期から行われていたのだが（※六）、それでも西洋との圧倒的な実力差にはかなり衝撃を受けたようで、ただちに李鴻章や曾国藩ら知識人を中心に政治や教育面での改革が行われた。これは洋務運動などと呼ばれている。この時期の特徴は、なにより西洋化を志向しつつも、伝統的な王朝による統治は保全しようという方向で改革が進められたことだ。

ところが一九世紀末、日清戦争のあとでこの方針は

おおきく変わる。本来「夷狄」であった日本への敗北によって、中国の制度自体の大胆な変革が求められるようになったからだ。一九〇五年には科挙が廃止され、当時の知識人に衝撃をあたえた進化論をはじめ西洋の思想が急速に取り入れられた（なお、はじめに翻訳されたのはダーウィンではなくトーマス・ハクスリーである）。

西洋化と並行して革命の気運は向上し、一九一二年に中華民国が成立する。教育制度の改革は多数の海外への留学生を生み出したが、そうした留学帰りの学生を中心に中国の伝統批判が加速してゆく。この流れは一九一五年に刊行された雑誌『新青年』の活動を契機に新文化運動と呼ばれる文化運動へと発展する。ちょうどこの時期にいわゆる唯物論が導入され、言文一致の運動も一番の盛り上がりを見せた。そして新文化運動のムーブメントはそのまま一九一九年のベルサイユ条約における日本への土地割譲などへの抗議運動であ

る五・四運動と合わさって大きな社会現象となった。だから新文化運動のことを「五・四新文化運動」と呼んだり、この一連の流れを総称して「五・四」と一括りにしたりする。さきほども見たとおり、現在の中国では、この時期はひとつの歴史的な転換点とみなされており、ゆえに「近代」と「現代」を分ける境界線がここに引かれている。

中国における言文一致の議論は文人の黄遵憲の著書『日本国志』（一八八七年）をおおむね起源とする。彼は明治初期の日本を視察するなかで、近代化のために言文一致が必要であると考えた。これにともなって、口語に近い文体で書かれた新聞である「白話報」が各地で刊行されたほか、梁啓超や裘廷梁ら知識人によって言文一致にまつわる議論が展開された。しかしながら、白話報は目立った成果を収めることができず、清末におこった言文一致の試みは成功とはいえない結

果に終わる。その大きな理由のひとつは、このとき要請されたのがあくまで大衆を啓蒙する手段としての白話でしかなく、運動の担い手である知識人は依然として格式高い文言によって著述をしていたことである。

たとえば裘廷梁の「維新の根本としての白話を論ず（論白話為維新之本）」といった清末の言文一致論を代表する諸著作は、いずれも文言によって書かれている。

こうした事態が変化を迎えたのは、一九一五年以降のいわゆる新文化運動からとされる。一般的に、中国の本格的な言文一致運動は、思想家・文学者の胡適が一九一七年に発表した「文学改良芻議（文学改良刍议）」というテキストを始まりとすると言われている。この文章自体は文言で書かれているのだが、これ以降胡らが編集した雑誌『新青年』を中心として展開された文学者や思想家による諸実践によって、現代中国語の書き言葉である「近代白話（現代白話）」が形成されることとなった。要するに、中国における言文一致は、歴史

上清末と民国期のふたつの段階に分けることができる。

そして清末には言文一致が大衆のための単なる啓蒙の手段として要請されたにすぎず、知識人は依然として文言（いわゆる「漢文」）を使用していたのに対し、五四運動の際にはそれが文化や思想を内包した知識人による言語改革として推進されたのであって、この差異のうちそれぞれ段階における言文一致の成否を原因づける議論はじつに多くのひとつによって展開されている。それはまったくそのとおりなのだが、その結果として、中国における言文一致をめぐる議論は、その歴史的な状況や時代背景——まさに中国語で「ミリュウ語境」つまり言語の環境と呼ばれるようなもの——や先導／扇動者の言説の検討にばかり重点が置かれ、肝心の言語そのものや言語をめぐる思想の変化に対しては注意を払ってこなかったのである。

とはいえ、近年では言語そのものの変化に着目した研究も行われつつある（※七）。思想家の汪暉は、その

圧倒的な労作『近代中国思想の生成（現代中国思想的
兴起）』の第四卷「科学的ディスクールの共同体（科学
话语共同体）」において、中国における言文一致が、従
来考えられていたような文学者発の運動ではなく、む
しろ科学者による自然科学の議論のために要請された
一連の文体の変化を端緒とするものであると主張して
いる。

「科学的ディスクールの共同体」とは、日常言語とは
異なる自然科学のチームを用いて交流するひとびと
によって形成されたひとつの ディスクール 言説の共同体のこと
である。この共同体は、もともと科学者のサークルや
科学関係の刊行物を中心としていたが「…」やがてこ
の共同体に属さないひとびとがこぞって自然科学の
チームを用いて本来科学とは無関係の社会、政治や
文化の問題を論じ始めた「…」こうした科学的ディス
クルの共同体の言説・社会上の諸実践は、完成され

た科学的な知識体系をもって「儒学的な道徳性をも
つ」天の理によって規定された宇宙観を徐々に更新
し、したがって伝統的な文化に対する批判的な実践
に対して、「それを基礎づけるような」自然観という
前提をあたえる結果となった（※八）。

汪暉のねらいは、本来専門家の言語であった「科学
的ディスクール」が自然科学という分野を超えてあら
ゆる分野へ拡大してゆくという現象と、言文一致をふ
くむ新文化運動の展開とのあいだにある相関関係を描
きだすこと、いわばおよそあらゆる事象は科学的に説
明可能であるとするような科学主義（※九）の中国に
おける拡大と現代中国語の生成の共犯関係を明らかに
することにあり、これは換言すれば、中国における言
文一致を社会や政治との関係において論ずるのではな
く、むしろ言語を背後で支える思想的基盤に焦点をあ
てて、言うなればその存在論的、な位相においてこの現

象を捉えようとしているのだと言えるだろう。そこで汪暉がはじめに強調するのが、一九一五年に中国科学社によって刊行された雑誌『科學』における横書きの誕生や一定の規則を持つ句読点の導入、それに科学的な用語の翻訳である。現代中国語はいまの日本語よりも複雑な引用符や句読点の規則を持つのだが、こうした書式の変化は、より明確な意味を持ち、「科学的」な議論に適した新たな文体を生成することとなった。

中国科学社の「科学的実践」は言語的な方面において重大な結果をもたらした。というのも、まさに彼らの活動を通じて、中国語はある技術化の過程をたどったからである。この過程は第一に、単一の意味を持ち、正確であり、なおかつ技術的な「言語的」操作に適した概念を生み出し、制定するにいたった。「…」元素、身体、地理や天体に関わる概念はもはやわれわれの日常言語の一部となっているが、こう

した概念は、根本的にわれわれ「すくなくとも中国人」の宇宙、世界、人類、そしてヒトそのものに対する認識を再構築しただけでなく、ある程度において「天然の言語」を段階的に放棄させたのだ。「…」こうして古代の言語によって展開された数多の宇宙の存在の可能性は日に日に消滅した。現代中国語に導入された大量の新語は意図的に、ある方向性ないしは目的をもった設計のなかで制定されたのである（強調筆者）（※十）。

「言語の技術化」をめぐる汪暉の議論は、まちがいはなく中国における言文一致の重要なひとつの過程を明示している。しかしながら、近代に創造された言語や文体を「技術化された言語」とみなして前近代の、つまり「技術化」される以前の「天然の」言語と対置することによって、汪暉はある決定的な誤りを犯しているように思われる。つまり彼の議論は、たとえどのような形

式であれ、そもそも書かれた言語はつねにすでに技術的対象であるという事実をないがしろにしているのだ（※十一）。たとえば、先史学者のルロワ＝グーランは次のように述べている。

おそらく人類の原始的段階で、言語活動の水準と道具の水準を切り離す理由はないはずである。というのは、現在でも、また歴史の全段階においても、技術「技芸」の進歩は言語活動の技術的な表象の進歩と結びついているからである。「…」ネアンデルタール人の言語活動は、現在の人間について知られているような言語活動と、そう大きく隔たっているはずがない。本質的に具体的なものの表現に限られていたネアンデルタール人の言語は、もともと言語活動が技術的な行動と密接に結びつく本来の場である、行為中の伝達という機能を確実にもっていただろう（※十二）。

むろん、ここまで原始的な段階まで遡らずとも、たとえばプラトンの『パイドロス』における「技術の主」テウトと エクリテュル 書字をめぐる有名な議論（274C—277A）を想起すれば十分だろう。

とはいえ、このような技芸と言語の本質的な関係は、西洋の文脈ないしは人類に普遍の文脈においてのみそうであるわけではない。むしろさらにローカルな、つまり中国固有の思想的文脈においてこそ、両者は深いつながりを見せるのである。

思想家の許煜（Yuk Hu）やマルクス主義の思想史家である李三虎がすでにすぐれた仕方です式化してみせたように、中国の伝統的な技術哲学の系譜はおおむね デオ テイ 道と器の関係性によつて整理することができる。

中国哲学において道は諸存在者の至高の秩序を表し、技芸はその最上の規範へと達するべく道に適合

していなければならない。したがって、この最上の規範は道と器の合一(道器合一)と言い表される「……」その近代的な意義において、器は「道具」や「器具」、さらに一般的には「技術的对象」を意味する。「儒学においてはそれはたとえば宇宙論的秩序と道德的秩序との一致であるとみなされているのだが」老子や莊子といった初期の道家は、万物は道を通じて生じると信じていた(※十三)。

由の仕方はまったく異なるのだが)。そこで道と器の関係性が問題となる。上に引用した許焜の仕事は、こうした関係性の変遷とその近代における崩壊の過程を跡づけつつ、そこから単なる伝統回帰とは異なる仕方である形而上学的な統一性を取り戻そうとするものだが、ここではひとまずこの道—器の関係性が中国における技芸への問いを規定しているという点を把握してくればよい。

ここで道は、たとえば儒家にとつての聖人の教えや、天と人間との感応に象徴される種の関係性のほか、道家にとつての「自然」などといった最高原理を示している。それは「形而上」、つまり形フォームを超えたものとして考えられている(※十四)。とはいえ、道へと到達するためには、われわれは必ず器つまり特定の技術的諸対象——經典、祭祀の道具、あるいは牛刀など——を経由しなければならない(むろん、儒家と道家で経

ならば言語への問いはどうか。先秦(いわゆる春秋戦国時代)の思想書を紐解けば明らかのように、孔子や老子などといった当時の思想家たちは、道を言語によってあらわしうるのかという問題を執拗に反復している。『周易』繫辭上伝にある「子曰く、書は言を尽くさず、言は意を尽くさず」という文言は、中国の伝統的な言語論を語るときによく引用されるものだが、このように中国哲学における言語への問いは、はじめに道と

言の関係性を問うものとして登場したのだ。また、中国学者のルドルフ・ワグナーが言うように、ここでいう「意」はわれわれの気持ちではなくむしろ聖人の意を表している(※十五)。したがってこれは単なる伝達の問題ではなく、むしろ道と言の、換言すればある本体的概念の言表可能性を問題にしているのだ。

こうした伝統的な道と器というカテゴリーのなかにおいて、言語は道にとつての器として位置づけることができる。とはいえ、「言不尽意」というテーゼが端的に示しているように、言語は道にとつての器でありながらも、その道との統一可能性についてはたえず疑念が投げかけられている。この複雑で緊張感に満ちた言語と技芸の関係性については、次回以降主題的に論じられることになるだろう。

むろん、技芸／技術(※十六)と言語は同じものではないし、中国哲学においても両者をめぐる問いは(と

きに交差しつつも)それぞれ異なる展開を見せている。しかし、汪暉の「科学的ディスクールの共同体」および「技術化された言語」に関する議論や中国古代における技芸への問いと言語への問いの類似性は、われわれにひとつの問いの可能性を提示している。つまり、言文一致をめぐる諸問題を中国哲学における言語論の系譜のうち位置づけつつ、同時にそれを中国における技芸への問いと言語への問いの交差点のひとつとしてとらえなおすことは可能であるか。今回の私の問題意識はおおかたこのように要約できる。

さて、これedyouやく議論の本筋へと入るいちおうの準備ができたわけだが、今回はここで一旦区切りにしようと思う。今回のあらましを簡単に述べておきたい。

次回はおおきくふたつの部分に分けられる。まずそ

の前半では、中国哲学における言語論の系譜が、とき
に技芸への問いとの関係性のなかで概観されることに
なる。そこでは、道を明かし、道へと至るための用具と
しての言語の機能や有効性を問う「道—言の関係性」
をめぐる問題系と、記号の恣意性に由来する言語の本
質的な他性に際して、それをいかに制御管理するかと
いう政治的な「正名」をめぐる問題系のふたつが確認
される。両者はもともと同一の問題ではないが、われ
われはしばしばそれらが交差しあうさまを見出すこと
になるだろう。

後半では言文一致をめぐる諸問題を扱う。ここでは
おもに、言文一致をめぐる交わされた議論が従来の
言語論のなにを断絶し、なにを継承したかに焦点が当
てられる。当然、近代中国の思想的背景として、科学と
いう概念が科学者の手を離れ、内実を失いイデオロギ
ー化する論理や過程にもある程度言及することになる
だろう。前近代の儒学的な宇宙論が科学の普及によつ

て解体されるなかで、中国の技術哲学の基本的なカテ
ゴリーである道—器の関係性は解体されてゆくわけだ
が、それは道—言の関係性の解体をも意味している。
近代中国におけるイデオロギーとしての「科学」の展
開は、言語の問題であると同時に技術の問題でもある。
われわれは儒学的宇宙観に基礎づけられた道—言の関
係性が解体されるなかで、意外にもその解体の作法の
うちに、古代における「正名」の系譜との奇妙な一致を
発見するだろう。そして最終的には、解体された道—
器／言の関係性が、新たな道としての「科学的宇宙
観」によつて再構築されていくさまを解明したい。**乾**

※一 Yuk HUI, *The Question Concerning Technology in China: An Essay in Cosmotechnics, Urbanomic*, 2016, p.227

※二 ちなみに、柄谷行人の『日本近代文学の起源』の中国語版は『日本現代文学的起源』である。私が中国語の「現代」という語に注目したきっかけは、まさにこの差異への驚きであった。

※三 以後近代という語に引用符をつけない場合、日本の時代区分でいう近代、つまり中国の「近代」と「現代」をおおむね合わせた範囲の時代を指すものとする。

※四 ここで現代中国語と表記するのは一種の慣習によるのだが、これは中国語の「現代汉语」シエンタイハンユという呼称を受けてのことだと思われる。そうであるならば、日本語では本来近代中国

語と表記するのが正しいはずなのだが、いまはこのままにしておく。

※五 以下のまとめはあくまで最低限のものでしかない。このあたりの事情についてもう少し知りたい場合は、ともに岩波新書で出版されている坂元ひろ子『中国近代の思想文化史』(二〇一六年)と川島真『中国近現代史② 近代国家への模索 1894—1925』(二〇一〇年)の二冊がコンパクトにまとまっていて有益である。

※六 このあたりの事情については、たとえばジャック・ジエルネ、鎌田博夫訳『中国とキリスト教——最初の対決』、法政大学出版社、一九九六年を参照。

※七 汪暉よりさらに前になると、たとえば高玉『現代汉语与中国现代文学』、新华书店、二〇〇三年が——その明らかに問題含みな点も含めて——重要であるが、いまは放置する。

※八 汪暉『现代中国思想的兴起』下巻第二部、三联书店、二〇一五年、頁一一二三。或頁一四二也有相关内容。

※九 近代中国における科学主義は、つねに儒学批判とセットになっている。この点については次回に詳しく論ずる。

※十 同上, 頁一一三五—一一三六。

※十一 汪暉は一一四—一二頁でおなじ現象を「言語の科学化」と呼んでいる。してみれば、彼はそ

もそも技術 technics/technology 技術 science /

科学と科学 science 科学を区別していな

いか、あるいはその区別をさほど重要だと思っていないのではないかと思われる。思想家

の許煜がいうように、科学と技芸／技術の本質的な差異に鈍感なのは、科学を崇拝し、儒

学に代わる道德としてイデオロギー化させた中国近代の人文系知識人のひとつの大きな傾向である (HUI, 2016, pp. 164—165)。同じで

参照した「科学的ディスクールの共同体」は、まさに中国近代において、科学が思想の条件

としての言語を規定しつつ、同時に科学それ自身が自然科学そのものとは無縁の「科学主義」や「科学的宇宙観」としてイデオロギー化してゆくプロセスを描いた本であるが、こ

うした混同をはじめとする諸細部によって、著者の汪暉自身もまた「科学的ディスクールの共同体」の磁場のうちに取り込まれていることを示す結果となったといえるだろう。

※十二 アンドレ・ルロワ・グーラン、荒木亨訳『身ぶりと言葉』、筑摩書房、二〇一二年、一九五—一九七頁。あるいは同書第六章参照。

※十三 HUI, 2016, p. 65.

※十四 「周易」繫辞上传に「形而上であるもの、道といい、形而下であるものを器という(形而上者謂之道、形而下者謂之器)」とある。高田真治、後藤基巳訳『易経 下』岩波書店、一九七八年版、二四六頁。

※十五 Rudolf G. WAGNER Language, Ontology,

and Political Philosophy in China—Wang Bi's Scholarly Exploration of the Dark, State University of New York Press, 2003, p. 7. なお、これは中国の文脈に関わりのないひとには意外なこともかもしれないが、孔子はたとえばキリストやブッダがそうである意味において、儒学の始祖であるわけではない。孔子はあくまで失われた祭祀や儀礼およびそれに含まれた道徳性の復興のために学問を興し、さらには学問によつて生計を立てる知識人階級を東アジアに創造した人物なのだ。したがつて、ここでいう聖人の意とは、つねに大昔に存在したとされるある理想化された統治者の意を表すのである。冯友兰《中国哲学史》上册、华东师范大学出版社、二〇一五年版、頁三五。

※十六 私は、*技術*／*技術*という語を、それぞれ *technics/technology* に対応する語として用いている。そしてその区別は、おおむねハイデガーにおける *Technik* と *moderne Technik* の差異にもとづいているのだが、ここでは大雑把に前近代の（場合によつてはそこから近現代まで含みうる）ある技術的営為を *技術* と、また近現代における技術的営為を

技術と区別すればひとまずよいだろう。詳しくはマルティン・ハイデガー、関口浩訳『技術への問い』平凡社、二〇一三年八―六六頁参照。なお、「技術哲学」などといったすでに定着した術語や「技術的 technical」といった形容詞的用法については一貫して「技術」の語を用いる。

参考

- アンドレ・ルロワグーラン、荒木亨訳『身ぶりと言葉』筑摩書房、二〇一二年
- 川島真『中国近现代史② 近代国家への模索 1894—1935』岩波書店、二〇一〇年
- 坂元ひろ子『中国近代の思想文化史』岩波書店、二〇一六年
- 中島隆博『残響の中国哲学——言語と政治』、東京大学出版会、二〇〇七年
- 冯友兰『中国哲学史』上册、华东师范大学出版社、二〇一五年版
- 高玉『现代汉语与中国现代文学』、新华书店、二〇〇三年
- 金观涛、刘青峰『中国现代思想的起源——超稳定结构与中国政治文化的演变』、法律出版社、二〇一一年
- 李三虎『重申传统——一种整体论的比较技术哲学研究』、中国社会科学出版社、二〇〇八年
- 倪伟『清末语言改革运动中的“言文一致”论』、『杭州师范大学学报』「社会科学版」二〇一六年九月，第五期
- 汪晖『现代中国思想的兴起』下卷第二部，三联书店，二〇一五年
- 『科学话语共同体和新文化运动的形成』、『学木月刊』二〇〇五年七期
- 汪龙鳞『近代白话创作的困境及其自我否定情结』、『沈

- 阳阳『范大学学报』「社会科学版」，二〇〇八年第四期，第三二卷
- 张隆溪『念道与罗各斯——东西方文学阐释学』，江苏教育出版社，二〇〇六年
- 张馨月『先秦语言哲学内涵探微』、『中华文化论坛』二〇一五年〇七期
- Rudolf G. WAGNER Language, Ontology, and Political Philosophy in China—Wang Bi's Scholarly Exploration of the Dark, State University of New York Press, 2003
- Yuk HUI, The Question Concerning Technology in China—An Essay in Cosmotechnics, Urbanomic, 2016, p. 227

超機密

THINK ABOUT INTERIM REPORT FOR YOUR EYES ONLY

目指すべき新南寮像を考える

中間報告書

乾・南寮統合推進委員会

Think about the image of new minami-dorm
Interim report
For your eyes only



特集序文 特集を制作するにあたって

高谷 健人（乾寮第九期）

体育祭も終わり、いよいよ統合の話が活発になる時を迎えた。今回、乾文學でも特集を組み様々な視点からの意見を集めて見た。それがこの特集である。今回の統合はそれぞれの寮が自らを見つめ直すきっかけとなっている。塾事務の方も初めて直面する「統合」という事態に大変苦労されている。今回の特集が南、乾両寮を知るきっかけとなることは間違いないだろう。さらには塾事務の方々、東、西、北寮の方々の目にも触れ今一度今後の和敬塾を考え直すきっかけとなれば幸いである。乾

目次

合併について思うこと

- 63 新南寮発足に際して / 小関 陽太郎
64 乾寮の閉鎖と新南寮への移転 / 西村 康成
67 南寮との統合に関して / 松山 凌雅

69 コラム 一年生座談会 〓 乾・南寮一年生で統合について考える〓

乾寮 小林 凜 + 井出 圭濟 + 平岡 仁 + 吉田 知生

南寮 井手 浅樹 + 小澤 亮介 + 黒澤 碧泉 + 仁木 日 + 向前川 正喜 + 横山 空

和敬塾職員の想い

79 南・乾寮統合について 〓 岩木 勅一

83 新南寮について 〓 佐々木 良夫

90 特集後記

新たな寮として 〓 鈴木 啓介

新南寮発足に際して

和敬塾には多様な価値観が溢れており、それが一つの魅力となっている。南と乾が合併し、寮の人数が二倍になれば多様性は更に増しより濃密で充実した人間関係が期待できる。しかしながら、やはり現南寮と乾寮との間になんとも言語化しにくい空気感レベルでの文化の違いがある。私が一番恐れているのは、人数だけ増え、人と人との関わりが無機質なものの、ドライなものになってしまふことである。多様な価値観が和敬塾の魅力だと先述したが、価値観があるだけでなく、互いの異なる価値観をぶつけ合い、擦り合わせていく過程があつて初めて人間的成長が見込める。昔のように、和敬塾に縛り付けるようなことをしては寮生の人間性は画一化されていき、そこからもれた者は退塾し、結果として多様性は失われる。逆に、多様性を

小関 陽太郎（南寮三年）

尊重するために自由を叫び、その自由への寛容が行き過ぎて他者への無関心になつて行つてしまえば、それこそ多様性が存在するだけでそこからは何も生まれない、ただのパートになつてしまふ。この中庸が取れた状態、すなわち「自律した寮生どうしが関わりあつて価値観をぶつけ合あう」寮にしたいと思う次第である。新歓、塾祭、体育祭、日常の関わり、全てがその舞台となり得るだろう。乾

乾寮の閉鎖と新南寮への移転

西村 康成(乾寮第八期)

乾寮の閉鎖が告げられたのは、二〇一七年六月の事

だった。寮生への説明も無く、確定事項として、当たり前のように閉鎖についての資料が渡された。「乾寮閉鎖の後、二〇一八年二月で北寮に合併する。理由は建物の老朽化と、それに対する改築費不足。」渡された資料には色々と書いてあったが内容としてはこれだけ。あまりに急な出来事に、寮生は皆、驚きと怒りを覚えた。あの時の私達は、少し冷静さを欠いていたかもしれない。同時に閉鎖になる南寮が北と合併して乾寮を残すべきだとか、そういう意見も出ていた。ただ、その時行った緊急総会の出席率や、そこで出た意見の数々には、皆が、乾寮が好きだという気持ちが表示されていたのだと、後から気づいた。最後まで塾と戦い、乾寮を残そうとしてくれた当時の寮長である上田寮長に皆が感謝の気

持ちを持っているのも、その表れであると思う。

さて、この話が一段落したのは、同年八月だった。南寮と合併する予定だった異寮が、契約違反を申し出たからだった。しかし、だからと言って閉鎖を取りやめる事もできず、結局一年閉鎖、合併を伸ばし、異寮生が全員卒業するのを待つ事となった。この事に一度は皆喜んだが、よく考えると自分達が散々やってきた会議の意見が通ったのでは無く、異寮の意見が通っただけなのだど落ち込んだ者もいた。私もその一人だった。とりあえず、一旦閉鎖の話は途切れたが、その後もややこしい話が続いた。結果だけ話すと、乾寮が統合するのは北寮から南寮に変わった。これもなんとなく話しは出ていたが、寮生に意見を求めることなく確定していた。寮生たちはそれを聞き、もう諦めたかのよう

に了承した。この諦めとは、決して南寮が嫌だということではなく、どれだけ言っても塾側は、自分勝手に物事を決めてしまうのだという事に諦めを感じていた、という意味であることを理解してほしい。とにかく、南寮と合併し、現在の巽寮で「新南寮」となる事が決まったのだった。私はこの転換の年、二〇一八年前期委員長になった。もちろん、合併について南寮の寮生や寮事務所、塾事務所の人たちと話し合いをするであろうということは予想していた。しかし、それは思っていた以上に大変なものだった。

まず初め、互いの委員長を含めた委員会メンバーの顔合わせがあり、その後、自分たちの寮の長所や短所について話す事となった。それについては苦ではなかった。長所、短所共に恐らくは現在の寮生なら皆なんとなく理解しているだろうし、委員会メンバーでの話し合いでもやはり同意見で、自分たちの考えていることが伝わったように思う。次に、新南寮になっても残

したい事を考えてくるように言われた。ここが一番大変だった。委員会メンバーと長い時間話し合って出た結論は、そんなもの存在しない、という事だった。これを聞いて、乾寮に住んでいない人たちは薄情だと思いかもしれないが、これが乾寮であると私は思う。何事も決め付けてはいけけないし、押し付けてはいけけない。

ただし、寮生は寮生同士の事をきちんと考え、意識している。この関係は、何か具体的な物から出てくるものではなく、空気感や雰囲気による物である。あえて言うなら、この空気感や雰囲気を残したい。ただ、それは無理な事なのはおわかっていて。今まで、多少なりとも違った空気感で生活してきた人たちと、一緒に住むことになる。それなのに、自分たちの気持ちだけで話しをしていけば、それこそ押しつけで、自分たちの一番したくないことをしてしまっている事になる。では何を残すべきなのか。私たちはそこで手が止まり、そんなものは何も無い、無いからこそ今の乾寮がある、

ということに気が付いた。これを南寮の委員長や寮事務所、塾事務所の人たちに話す時はさすがに少し緊張した。上辺だけで捉えられてはいけぬが、これを理解出来るのは乾寮生だけであるとも分かっていなかった。案の定、事務所の方々には理解してもらえていない様子だった。南寮の委員長も、最初はこの話しを否定的に捉えていたようだった。その時は、理解してくれない人たちと一緒に住むべきではない、とまで考えていたが、その後話していく内に、乾寮の事をきちんと考え、理解しようとしてくれていたと知った。だから私も、南寮の事を知ろうと思え、乾寮のためだけでなく、お互いのためにこの話し合いを進めていこうと思った。この事はとても感謝しているし、一緒に新しい寮を作っていく仲間であると心から思う。

今、まだ合併の話し合いは続いていて、二〇一九年度前期委員長の決め方、部屋割りの仕方、班編成、新歓などなど、決まっていない事は沢山ある。我々両前期

委員長は後期委員長と共に、これからも最大限バックアップをしていくつもりである。しかし、やはりその当事者は寮生全員である。寮生全員が考えてほしいし、思ったことがあれば私たちに伝えてほしいと思う。寮生全員が全員を思つて「新南寮」が出来上がれば、今までにない最高の寮が完成すると思つている。乾

南寮との統合に関して

松山 凌雅（乾寮第八期）

先日、乾寮と南寮が統合することが正式に決まった。この決定は今までどう自分たちの寮を存続させるかを考えていた私たちに多大な衝撃を与えた。私はまだ一年間しか乾寮で生活していないが、乾寮の閉鎖、つまり乾寮の歴史が終わる瞬間に立ち会うことになるとは思ってもいなかった。自分の部屋に愛着が湧き始めた矢先、我が家との別れは辛いものがある。私以上の時間を乾寮で過ごししてきた先輩たちにとっては尚更のことであろう。

しかしながら、南寮と一つになり新たな時代が始まるとうとしているということは変えられない事実である。決定してしまったことに対していつまでも悲しむわけにはいかない。統合はただの終わりではないのだ。

私たちは始まりに向けてはたして何をすべきなのだ

ろうか。荷物を整理する？南寮の新たな仲間の顔や名前を覚える？もちろんそれも大切だが、私が一番大切だと思ふ事は「変化を受け入れる勇氣」を持つことである。人は誰しも変化に対して敏感なものだ。互いに切磋琢磨出来るような建設的な話し合いなら積極的に行っていくことが望ましいが、「前の寮ではこうであった」「そんなルールは知らない」などと、それぞれの文化の違いを押し付け合い、身内で派閥が出来てしまうような事態があつてはならない。自分の意思を声に出し主張することだけが勇氣ある行動ではなく、受け入れることこそ勇氣ある行動だと私は思う。腹を割って話すなどということではなく、もちろん時にはぶつかることもあるだろう。しかし、これから一緒に生活していくのだから、楽しく、笑いの絶えない毎日を過

ごしていききたい。そのぶつかり合いはゆるぎない信頼があるからこそ有意義なものになるのではないだろうか。全員が心にゆとりを持って互いに尊重しあいながら生活していききたいと私は思う。●乾

コラム・座談会 乾・南寮一年生で統合について考える

平成三十一年度、和敬塾乾寮と南寮は統合し、新南寮が新たに発足する。創設六十年以上の南寮と十年の歴史ではあるが、独特の寮風を持つ乾寮との間では統合に伴う諸問題も多く、特に行事(新歓や体育祭)においてそれぞれの寮風をどの程度残すかについての話し合いには先輩方も苦心されているように思える。今回は、統合に伴う交流の一環として乾坤舎主催で行われた、乾、南寮一年生座談会の模様をお届けする。入塾して間もない我々一年生ではあるが、来年チューターとして新入生を迎える立場ならではの対話が行えたと感じる。円滑な寮統合の一助となれば幸いである。

互いの寮の印象

小林 今日乾と南が統合するにあたって、今後どう

していかかっていう真面目な話から初めて、盛り上がったら真面目じゃない話もしてもらって大丈夫です。一応話題をいくつか用意していて、最初はお互いの寮の印象から聞かせてもらえますか。まず乾側からの南の印象を。

井出 南は元気。俺らよりは元気だね。でも東寮よりは元気じゃないイメージ。

仁木 南は「マルチにちようどいい」って言われて他寮から人気あるね。

井出 全部乾との比較になっちゃうからなんとも言えないけど、乾と比べたら上下関係は厳しいし、礼儀もちゃんとしてる気がする。

吉田 夜うるさい。(一同笑)

平岡 呑み会してるんだろな、っていう音は聞こえる(笑) 先輩方の呑みが激しいイメージがある。

仁木 それは南の一年もビビってる（笑）

井出 じゃあ逆に乾の印象は？

仁木 南よりかは礼儀の部分ではゆるいとされてるけど、僕的にはそれは時代に合ってる流れなのかな、と思う。南にも絶対悪習みたいなものはあるから。

前川 良くも悪くも乾は和敬塾っぽくないよね。

井出 俺らには悪習って自覚してるものはないかも。

このやり方の方が社会で通用するとは思ってる。

小林 でも今日俺が一年生懇親会（注・座談会の前に全寮での一年生懇親会が行われた）に出て一芸披露させられて思ったのは、無茶振りされた時に他寮は強いなってこと。体育会系に身を置いた時に強いのはそっちだよな。

仁木 僕が先輩から言われたのは、就活で乾の人と戦って負ける気はしないだろ、ってことだね。

小林 めっちゃエグいこと言うね（笑）

井出 いやでも間違いないよ。

小澤 どっちの寮も同じこと言ってるね。うちの方が社会で通用するって。

仁木 それぞれ自分の寮に愛があるからね。

井手 あとラウンジでスマブラやってるのがめっちゃ羨ましい（笑） 南はラウンジにゲーム機無いから。

自寮の特徴

小林 じゃあ今度は自寮をどんな寮だと思いか聞かせてもらえますか。また乾から。

平岡 自由度が高い。で、自己責任度が高いっていうのもあるかな。結構なんでも許されるから、良い経験を積むことも出来るし、部屋に閉じこもったことも出来る。部屋から引きずり出してくれる人っていうのはあんまりいないから。先輩とか見ても好きなことをかなり自由にやってる人がいて面白いと思う。

井出 逆にマンシヨンのに住む場所として使ってるだ

けの人もいるよね。俺が乾に入って考えたのは、和敬に入塾するときには体育会系ノリが苦手な人が乾っていう選択肢を選べるっていうのが大事だなってこと。乾が無くなることでそういう人たちが入塾できなくなるっていうのはもったいないと思う。

小林 実際に他寮から移ってきた人もいるしね。

井出 そうそう。セーフティネットじゃないけど、下にいて受け止めるみたいな懐の広さがあると思う。

小澤 逆にゴリゴリの和敬塾を期待したけど乾に入っちゃったみたいなのはいるの？

吉田 いないことはないと思うけど同期だと乾に入りたくて乾に来た人が多い。

小林 あと塾事務所が空気読んで寮を振り分けてるからそういう感じの人は来ないんだと思う。乾っぽい人が乾に来るように多分してる。

吉田 あと乾は行事の参加に強制力がない。断る権利があるっていうか。

小澤 でもそれは南でも結構先輩から言われてる。基本はイエスマンになれば、って言われるけど断るタイミングが大事だって。

黒澤 乾は個の責任能力が高いって言ってたけど、俺はトラブルを起こして自分では何も出来なかったときに先輩方が集団として責任を取ってくれた経験があるから、そういうのが南の良さだと思う。

井出 じゃあ南は自分たちでどんな寮だと思おう？

前川 イベントごとが沢山あるから自分じゃやろうと思わないことも経験できる。

井手 縦の繋がりが強い。マンションじゃなくて家族みたいな感じだね。乾はお風呂一人で行ったりすると思うけど、それはこっちではあんまりない。一人の時は先輩を誘って話す機会を持つっていう意識があるな。

仁木 乾は個々のアイデンティティが集まって「乾」を形成してる感じだけど、南は全部で一つの「南」って感

じ。だから良く言えば関係は密だけど、逆にプライベートに土足で入ってくる感じもあるからそういうのが気になる人は初め慣れないかもしれない。

井出 乾は班活動とかもそんなに活発じゃないからね。班の関係が希薄なのは寂しいし、イベントとかももっと出して欲しいなって俺は思ってる。そういうのが和敬の魅力の一つだと思うから。

それぞれの寮文化

小林 南には合宿文化があるって聞いたんだけど、どんな感じなの？

小澤 先輩の部屋に生活用品一式を持って行って、朝から晩まで一緒にいるみたいなの。

井出 訳が分からん(笑)

小林 それどれくらい続くの？

小澤 俺はとりあえず六月いっぱい。(六月十六日収録)

仁木 これ全員やってるわけじゃないよ(笑)

小林 合宿は何を目的にやってるの？

小澤 俺が今先輩の部屋に行ってるのは、その先輩に尊敬出来るところがあるから。すごく影響力のある人で、その先輩に誘われた後輩はなんでか分からないけど断らないし、その人がやろうって言ったことはみんなやるから凄いなと思って。単純にそれがどうしてなのか知りたいし、もっと仲良くなりたいと思ったのがきっかけ。

平岡 自分から合宿したいです、って言いに行くの？

小澤 俺は「やろうぜ」って言われて「やりましょう」って答えた。強制ではないね。

小林 先輩を見て自分の人間力を向上させていく、みたいな意識があんまり乾には無いかも。

井出 いやそんなことないよ。俺は新歓期の挨拶回りで結構感銘を受けたし。日常的にはあんまり無いかもしれないけど。

横山 日常的に無いのは南も同じだよ。この中で合宿やったのも小澤だけだし。乾と意識の差は無いんじゃないかな。

小林 逆に乾独自の風習ってあるのかな？

平岡 無いかもね。風習がどんどん消えていつてるから。

小林 カオスなままでいるのが乾の文化だと思うけど、そうすると関係は多少薄くなるし、合宿をして先輩から何かを学ぶ、みたいなことも無くなる。

井出 一長一短だよな。

黒澤 乾文學はどうして作られたの？

井出 和敬、他寮のスタイルに一石を投じるみたいな意味があったんじゃないかな。乾文學は信念を持って始められた文化って言えると思う。

新歓について

小林 乾文學読むと新歓期の挨拶回り形式の変遷が記録として残ってるんだよね。「変えてきた」ってことに先輩方は誇りを持つてると思う。

井出 挨拶回りの時にも形式の変遷は教えられたね。

小林 だから乾は単に成り行きでゆるくなった寮ではなくて、流れに抗ってでも今の形式を作った先輩方がいるから、そういう思いみたいなものは感じるころがある。

井出 統合して安直にこの形式を変えていいのかわからないのと思うね。

小林 新歓がどれくらい違うのかわからないのを改めて確かめてみたい。乾は自己紹介の文言って決まってるんだよね。言うのを間違えてもやり直しとかはない。

南一同 えー！

小澤 ドアの開け方の指定とかは？

平岡 ないね。最初にやり方は習うけどするかどうかは自由。

吉田 最低限教えるから、あとは各自で考えてやって、
って感じ。

小澤 俺らは完全に形式だよ。形式しか教えられない。
い。

黒澤 南は去年度まで相当形式張ったものだったらしいんだけど、時代にそぐわないっていう話になって多少ゆるくなった初めての学年が俺たちなんだよ。だけど、形式を多少残してるのは今後和敬で生活する上で必要になることが多いから、って説明を受けてる。

仁木 O Bの方と接するときとかね。

小林 こういう違いを踏まえて、来年度どんな新歓で
新入生を迎えたら良いと思う？

仁木 折り合いを付けるのは絶対難しいよね。

黒澤 南には統合って形とはいえ吸収合併みたいな意識
識でいる先輩がいると思う。

井出 良くないよそれは。

平岡 それをやられたら元乾寮生は寮運営には参加し

なくなる気がする。

小澤 南の委員長が言ってたのは、南プラス乾ではなくて全く新しい寮を作りたいってこと。

井出 俺らもそれを目指してると思う。

小林 新しいものを作りたいと思いつつも具体的に案
を詰めるのに先輩方が苦戦してるのを感じるね。南の
一年生はやっぱ形式立てた部屋回りを守りたい気持ち
ちがある？

仁木 僕はない。

井手 ちゃんと自分のことが伝わればどんな形式でも
いいと思う。

黒澤 俺はなんで今の形式になったのか分かったわけ
ではないからこれから考えていきたい。今はノーコメ
ントで。

小澤 俺はどっちかっていうと残したいな。アウェイ
感あるけど。

小林 それはどうして？

小澤 俺は最初形式に疑問持ってたからめっちゃ聞いたんだよ。なんで四月の大学で友達作らなきゃいけない時期に和敬に縛ってこんなことするんですか、って。でも四年間に一緒に住む人の名前しか知らないって良くないな、って思うようになったし、乾の部屋回りを馬鹿にするわけじゃ本当にないけど、ゆるい雰囲気だなんとなく話したところでその人の部屋に次に行くかっていうとそうはならないと思う。あと初めて会った人に自分の生き方を語るって経験も貴重だから。

井出 確かに乾ではそういう真面目な話になった先輩は数名だった。

小澤 張り詰めてる場でしか出来ない話ってあると思うから。そういう空気を作るには形式が大事だと思う。
黒澤 ファーストコンタクトでどれだけの話が出来るかかっていうのは大事なこともんね。

井出 部屋回りでどんな話をするかって先輩の意識によるところが大きいと思うんだよ。乾は先輩方一人一

人の部屋回りの捉え方が違うから、ただ駄弁って終わらせようとする人もいるし、真面目な話をする人もいる。南は多分先輩方がみんな同じ意識でやってるんじゃないかな。

小澤 駄弁るのは新歓期終わってからも出来るじゃん。
井出 そうなんだよ。でも、俺らはそもそも新歓期終わったら先輩と話す機会がそこまでないから。先輩と一緒にご飯行くとかも滅多にないし。それは良くないと思うてる。

仁木 僕は小澤と同じで新歓期はお互いを知ることが一番大事だと思うけど、それは別に形式がなくても出来ると思うてる。僕は南の新歓期に対して「歓迎されてる」とは感じなかったし、優しい先輩の部屋回りは楽しかったから。

井出 みんな部屋回りで話す内容が大事っていう点では一致してるね。そこに形式が必要なかどうか。

吉田 来年は俺らが新歓するわけだから意識を統一し

ないと。

井出 乾は新歓幹事の言うことを全員がちやんと守つてゐるわけじゃないからなかなか統一されないっていう面はあると思う。

小澤 南もみんながみんな同じ意識なわけじゃないよ。和敬あんまり好きじゃないっていう先輩もいる。そういう多様性が南にもあるってことは知ってほしい。でも他者を尊重するっていうか、寮で何か誘われたら極力行くようにする風潮はあるかな。

井出 なるほどね。昨日乾で人体展を見に行くっていう企画があったんだけど俺と平岡の二人しか来なかったからね。デート（笑）

縦の繋がり、横の繋がり

黒澤 そういう企画も一年生から誘われたら先輩来るんじゃないかな。ご飯とかも誘って行く機会を増やし

ていったらいいと思う。

平岡 学年での結びつきが強いからなかなかそうはならないかも。

黒澤 だんだんでもシフトしていけないかな。

吉田 でも相手の時間を取ったら悪いなって思っちゃう。

小澤 俺も最初はそうだったよ。

黒澤 横の繋がりには勝手に強くなるから、縦の繋がり意識しろって先輩から言われている。挨拶回りのときに先輩を誘うメリットとかも教えられた。

井出 環境の差だね。ご飯誘うのはハードル高い。

小澤 縦の繋がりを強くしたいとは思ってるの？

井出 うーん。これが自然だからなんともいえないね。

小林 乾の先輩方は「一緒にいて後輩を成長させてやろう」とは思っていない気がする。それは良いことでも

悪いことでもあると思うけど。

井出 うん。ここは歴然とした差があるね。

小林 でも俺らがどんなスタンスを取るかっていうのが大事だから。そこは統合で変わっていくところじゃないかな。乾は横の繋がり重視で南は縦の繋がり重視っていうのは新たな発見だね。

目指してるところは同じ

黒澤 俺らの代は二年生から三年間一緒になるじゃん。

その時に南、乾で固まるのは絶対嫌だから寮を超えた横の繋がりを大事にしたいなと思う。二極化してるな、って後輩に思われて派閥に分かれるのは避けたい。

平岡 チューターによってゆるい厳しいが変わっちゃったりとかね。

小林 歪な寮にはしたくないよね。

平岡 なんかも今日南寮の話聞いて納得した。

井出 歴然とした差はあるけど目指してるところは同じだな、って。

小澤 思ったより差は見た目的なところだなんて思った。見た目だけが違うみたいだな。中身は同じだなんて。正直見た目しか分からなかったじゃん、こうやって話すまで。

吉田 ただ俺が気になるのは、南は三年生が新歓幹事なんだよね。

黒澤 うん。でも俺は今話聞いてて二年生がやったら良いんじゃないかなって思った。三年生って完全に和敬に染まつてる段階じゃん。

仁木 採用されるかはともかく俺らで案を作ってみるのも良いと思う。

井出 絶対それ面白いよ。

小澤 でも、二年生の目線で新歓を見つめ直して三年生で新歓を作るっていう意味合いがあるんじゃないかな。客観的に新歓を見れるっていうか。南寮生だから南の方針にしたいとかじゃなくてそういうメリットがあると思う。

小林 あーなるほどね。

井出 めっちゃ良い話。

平岡 ちゃんと意味が分かってやることだったらなんでも良いと思うんだよ。

黒澤 どうしてやるのか分からない風習をやってるのが良くないってことだね。でもまだ入寮して二ヶ月だしこれから分かってくることも多いと思う。だからさつき新歓についてはノーコメントだったんだけど。

小林 乾寮にいると「他寮よりうちは進歩してる」って必要以上に思ってしまう傾向があるから、それをもっとフラットに考える必要があるな、って今日南のみんなの話聞いて思った。他寮は形式守ってやってるだけでしょ、って正直思ってたけど、南の一年は挨拶回りでさせられたことの意味を俺たち以上にしっかり考えてきたっていうのを知れたのも良かったな。

井出 そうだね。今までこういうお互いの寮風を語り合う機会って無かったと思うし。

黒澤 この座談会が三ヶ月後だったら俺らはもっと南

に染まってるし、そっちは乾に染まってたよ。

吉田 今だからこそ出来たって感じがするね。

小澤 一年生で情報共有またしたい。

井出 他のメンバーも呼んでまたしたら良いよ。

小林 めっちゃ良い話になったな。まだ話し足りないみたいですがここからはオフレコで。今日はありがとうございました！

南寮一年

井手 浅樹、小澤 亮介、黒澤 碧泉

仁木 日向、前川 正喜、横山 空

乾寮一年

小林 凜、井出 圭濟、平岡 仁、吉田 知生

平成三十年六月十六日 於、乾寮ラウンジ

構成者、小林 凜

南・乾寮統合について

岩木 勅一（南寮寮長）

和敬塾では過去に寮の統合をした経験がありませんのでいろいろな問題が出てくることは当然のことと認識しています。しかし、双方の寮生・職員が広い、温かい心を持って問題に対処すれば必ず良い結果が出ると確信しています。以下に新南寮のありたい姿に関する南寮の現状の問題点、不十分な点など（南寮には良いところも多々ありますが）をコメントさせて頂きたいと思います。

一番目のありたい姿「安全安心の確保」についてコメントします。これが達成されないと共同生活の基盤ができていとは言えません。共同生活をしていまず、胸を張って言えないと思います。このありたい姿に関する現状の問題は飲酒問題です。毎年のように南寮では飲酒がらみの事件が一〜二件発生してい

ます。未成年飲酒の禁止、強制飲酒・多量飲酒・一気飲みの禁止など日常的に寮生には訴えてはいますが、撲滅されているとは言えません。社会に出てから飲酒問題を起こし不幸な人生を送る人もいます。学生の時に健康的な楽しい飲酒の仕方をして是非身に付けて欲しいと切に願っています。コンパでよくコール形式の飲酒をしています。これは一種の飲酒強制です。やめて欲しいです。飲酒の場は、楽しく飲みながら、他の人と同じく交流する場です。コールなどをしていたらそういう交流ができません。コンパの質を高め、人間形成に役立つ場に昇華させていって欲しいものです。

清掃当番や持ち物の整理整頓をキチンとすることは、小さな細かいことですが共同生活にとって重要で、社会に出れば否応なく求められることです。会社で高

い評価を受ける新入社員は必ずと言っていいほどこれらのことがしつかりできている人です。

共同生活の役割を果たすことに関しては、特に委員長や各部の部長は、その責任を強く自覚し、寮生を巻き込みながら任務を遂行して欲しいと思います。統合後は今より問題も多く発生すると思います。今から心して取り組んでいただきたいと思います。

寮生の全員が安全安心な生活を送るためには「塾生活の指針」にあることを各人がしつかり実践することです。深夜の騒音、大声、騒ぎで眠れない、などというクレームが時々発生します。新南寮には現異常寮の数人の大学院生が残ります。騒音や大声でクレームがこないうような生活することを心に銘記して下さい。

二番目のありたい姿「文武両道を目指す」についてコメントします。南寮は全体的にスポーツ好きな人が多く、活動も活発であると思います。その反面、文化的活動は残念ながら低調と言わざるをえません。また、

深く考え、しつかり計画を立て、準備をすることが全体としてみれば不十分であると思います。計画づくりは行動の第一歩です。行事をする場合、前年度の繰り返しではなく、ゼロの状態で企画、立案し、参加者を喜ばせることを経験することは、その人の企画・実行能力を高め、社会に出て役立つ有用な経験となると思います。

南寮だけではないと思いますが、六、七年前と比較しても読書量が減少したのではないでしょうか。読書は知識を増やし、想像力を高め、他人と話をする場合、興味を引く面白い魅力的な話ができる基になります。教養人としてのベースを形成するものです。大学生たる者は、その本分である勉学や読書、文化的活動にしっかりと取り組んで欲しいと願っています。今後の人生のベースとなるものを身につけてください。

将来どういう仕事をしたのか、どういう人間になりたいのかを早く明確にし、それに向かって日々努力

する姿は、それを見る他人を引き付けます。職員も応援したくなります。特に上級生は後輩のロールモデルになるように努めてください。上級生の大多数が後輩のロールモデルになれば、それが立派な後輩教育です。新歓で新入寮生を教育する、ことは不要となります。このようなことが寮全体に根付けば、その寮に所属した寮生は必ずや大きく成長すると思います。

ありがたい姿の三番目「オープンでのびやかな寮風」についてコメントします。これは多様な人材が育つ、自律した人材が育つために不可欠な寮の環境だと認識しています。南寮の上下関係は従来に比較すれば、ゆるやかなものになってきていますが、まだまだ先輩に対して自分の考え、意見を自由に言える状況にはなっていないと思います。先輩に言われると従わざるを得ないことがよくあるのではないかと認識しています。このことが、旧来のやり方に固執し、改革・変革がなかなか進まない要因だと考えます。世間の目で見て変な

マナーが長期に亘って継続するのも同じ要因だと思います。

「先輩の奢りのない」ことが「オープンでのびやかな寮風」を作ることのキーの一つだと認識しています。社会に出れば原則として先輩が後輩に奢る、ということはありません。南寮で蔓延している奢りは、先輩後輩の関係を強化し、先輩の言うことに後輩を否応なく従わせるためにしていると理解しています。先輩は奢るためにアルバイトを増やしている人もいるようです。自分が下級生の時、奢ってもらったから奢る、ということをよく耳にしますが、このような時代錯誤の習慣を是非、新南寮では断ち切って欲しいと切に願っています。

和敬塾は現在、寮生やOB・保護者からの協力を得て、入塾生を増やすことに力を入れています。先輩が後輩を奢ることは、募集活動の面から見てもマイナスの行為です。先輩が後輩を奢る習慣が根強くある、と

いうことを知って入塾する人がどれくらいいるでしょうか。また、推薦してくれる人がどれくらいいるでしょうか。

また、「オープンでのびやかな寮風」を作るには、現在行われている行事やイベントを見直し、各人のプライベート時間を増やすことも不可欠です。塾の内外で積極的に活動し、視野の広い、柔軟性のある人材に育つことを願っています。

共同生活では「個人と全体が調和する」ことも大切です。個人が自律し、塾や寮としての行事・活動に積極的に参加することが不可欠です。そのためには行事や活動に参加するハードルが高くなく、目的が明確で、時間の拘束がゆるやかなことが必要と思います。新歓や体育祭もその視点で見ると改革の余地が大いにあると思います。新南寮の新歓は新入塾生の負担を例えば20時間以内にする、などの条件を設定することが有効ではないか、と思います。

また、上級生が下級生を教育する、というよりも上級生が下級生のロールモデルになる、共育という考え方でいくことが大切と考えます。教育という面が強くと出過ぎると形式的で面白くないものになりやすいものです。

新南寮は多様な人が育つところ、高い志を持った人が多数いるところ、チャレンジする雰囲気が出ていく寮になることを切に願っています。**乾**

新南寮について

乾文學編集部からのご依頼をいただき、新南寮について、いくつか書いていきたいと思う。なにぶん寮の統合というのは、これまでなかったことでもあり、またこれから実施に移るわけで、なかなか書きようがないところが多い。

とはいえ、これまで、南寮・乾寮の寮生の皆さんと職員で話し合いを重ねてきたものがあるので、そこから書いていきたい。

ところで、タイトルに「新南寮」と書いているが、「新」とはどういう意味だろうか。南寮と乾寮が合併し、話し合いで名称は「南寮」を引き継ぐという話になった。であれば、わざわざ「新」とつける必要はないという考え方もあろう。しかし何回も打ち合わせを重ねるうちに、いつのまにか寮生職員双方に「新南寮」とい

佐々木 良夫（和敬塾事務所）

う名前が定着していた。このへんに、今回のポイントがあるのかもしれない。

「新」とつける理由を考えてみると、「現」南寮との混同を避けたいということがあろう。混同を避けたいということには、いくつかの意味がある。

素朴なところでは、建物自体が別だということ。「新」と名前につけてはいるが、来年あたりからしばらくは「どっちの南寮？」という話題が時々ありそうである。

もう一つは、中身が変わるといことだろう。今回の乾寮と南寮の合併は、吸収でも併呑でもなく、当たり前だが対等の合併である。「南寮」という名前をそのまま継続すれば、対外的にも塾内でも、なんとなく乾寮が南寮に吸収されたように思われかねない。しかし、寮生数は乾寮のほうが多いくらいで（もちろん数の間

題ではないが)、そのような誤解を生じさせたくはない。そのような思いもあり、なんとなく「新南寮」という言葉が出てきたかと思う。

おそらく、これから新南寮で展開されることは、南寮そのままでもなく、乾寮そのままでもなく、また単にその二つを足して割ったものでもないだろう。二つの文化(寮風)が、出会うと何が起こるだろうか。素朴に考えると、見えない部分としての「もの考え方」と、見える部分としての「行動」において変化が出てくるだろう。「ものの考え方」の変化に大きく関わるのは、「自分たちがどうありたいか」、言い換えると「新南寮は、どのような寮になりたいのか」ということではないだろうか。それが日々の行動に反映されるかと思う(すべてがそうだとは言えないけれど)。

和敬塾の歴史を振り返ると、本館を使っていたごく初期をのぞけば、南寮の開設から始まった。そうであれば、新しい時代に向かう和敬塾もまた南寮からはじ

めたいという思いも込めての「新南寮」だと考える。

では、新南寮のありたい姿とはどんなものだろうか。職員から提案したのは、以下三つであった。

まずは「安全安心の確保」。生活空間である以上、安全と安心は基本的な条件である。安全については、適切な設備や制度の裏付けがあり、それがきちんと運用されることで、安全な状態が保たれる。つまり、不断の努力が必要である。地味な事柄ではあるが、世の中を支えている多くのものは、このような仕事ではないかとも思う。そして安心というものは、安全が保たれた結果として生まれてくるのだろう。物心ともに落ち着いて暮らせて、はじめて、安心といえる状態といえる。それを成立させるためには、そこで生活している人自身が、その生活空間をどのようにしようと思ひ、行動することが必要である。というか共同体とはそういうものだ。和敬塾の場合、基本的な生活については「塾生活の指針」がある(あまり読んでないか?)。この中で

語られているのは、ごく常識的で、ご父母の方々が見ても違和感のないものだと思う。世間の常識Ⅱスタンダードルールとは必ずしも言い切れないが、良識ある方から見ても違和感のないものである。それを指針として、生活の基準にすることは、穏当であり順当であると思う。

共同生活というのは、他者と生活を共にするということであり、当然軋轢がある。個人としての生活と、共同体としての活動のバランスという問題もある。しかし、一番素朴な生活ベースから見た場合、一定期間を過ごす人間集団の中では、互いが気持ちよく暮らすためにはおのずと役割分担があり、分担は果たされなければ、その人間集団は機能しない。寮という共同体を維持運営していくためには、寮を構成するそれぞれの寮生が、果たすべき役割があるだろう。このあたりも「塾生活の指針」が参考になると思う。

また飲酒の問題は大きい（と断言せざるを得ないの

は残念だ）。若い男性が集まっていれば、酒も飲むだろう、いろいろな事もあるだろう。しかし、これまで不祥事といえるレベルの出来事はたいい酒が絡んでいる。酒は心身の危険につながりかねないうえに、若いうちからの飲酒の習慣（悪しき、とつけるべきか）は、人生自体の失敗につながりかねない。と、これは個人的な慚愧と感想でもある。

次に挙げられているのは「文武両道」である。今風にいえば「スポーツもできて、勉強もできます」的な意味合いだろうが、ここはもつと踏み込んで考えたい。当初は、この「乾文學」があるように乾寮は文芸肌のところがあるし、南寮はトライアスロンや野球等が活発だったりで、これを「文武両道」と（無理やり？）言い切ってみた。しかし、よく考えると大学生の寮として、相応しい言葉である。

ここでいう「文」は学問に通じ、そこから深く考え、真理に迫ることを意味し、「武」は考えたことを果敢に

実行するという意味である。この学んだこと(文)と行動(武)がリンク(両道)する人材が育っていく新南寮でありたいと考える。

以前、和敬塾で講演してくださった養老孟子先生曰く「文武両道とは『知ったことが出力されないと意味が無い』という意味である。文と武という別のものが並行していて、両方に習熟すべし、ということではない。両方がグルグル回らなくては意味が無い」(大意)。ここでいう「知ったこと」とは、知覚・思考のことであり、「出力」とは肉体を使った行動のことである。この二つが一体になってこそ意味がある。

また、書家の石川九楊はこのように言っている。「文武両道とは、中国の士大夫の生き方を言ったものである。平時においては筆を以て働き、乱来れば、世の安寧のために剣を持つ。言い換えれば平時の剣は筆であり、乱においては剣が筆である(だから書に親しみなさい)」(大意)。※士大夫とは、簡単にいえば、世のために考

え行動する読書人(≡知識人)。

これだけならば、まあそうだろうなと思うだけだったが、しばらく前に和敬塾の書道講座で岡本光平先生の筆の動きを見て、感ずるところがあった。

その日は書初めということで、好きな字を書いてみようということになり、「狂者進取」(きようしゃは、すずみてとる。論語・子路第十三)という言葉を選んだ。先生はこの言葉を見て「進取」とお手本を書いてくださった(「狂者」などと粹がっているのを諫めてくれたのだろう)。

お手本を書いてくださる岡本先生の筆の運びは、ダンスをしているかのようにリズムカルで勢いがあり、しかも力の入るところと抜くところが明確であって、全体として大きな動きのなかにも抑制がとれた美しさを感じた。もちろん書きあがった字は、書ることが分からない素人目にも素晴らしいものだった。さっそく真似をして(真似をしたのは、筆運びのリズム)書いて

みたところ、思った以上によく書けていたのでうれしかった。どうも字のかたちを真似るよりも、筆運びが大事のようであるが、その後、なかなか講座に出ないの、また一から出直ししなければならぬ(文字通り、最初は漢字の「一二三四」を練習するので)。その日、帰宅してから、ふと石川九楊のことを思い出した。筆をとるⅡものを考えて書くということは、本当は静的なものではなく、行為としてはむしろ動的(ダイナミック)なもので、武につながるものがあるのだろう。文のなかに武があり、また武のなかに文があるのが文武両道のようなのである。

ところで、世の中には頭が良い人はたくさんいる。また行動的な人も多くいるだろう。しかし、その両方が一人の人間の中で分かちがたく統合されている人は昔からあまりいないのだろう。というのは「狂者進取」の前後を含めた意味はこうである。「中庸の道を行う(Ⅱバランスのとれた)人がいれば、一緒に世のため

に働きたいが、そういう人はなかなかいない。であれば、むしろ積極的に『行動』する人(狂)か、さもなければ自分の『考え』に固執する人(狷)と組みたいものだ」。

あまり大げさなことを書いても仕方がないのだが、いちばん素朴なレベルでいえば、考えなしで行動する人には、行動の前に一瞬でもいいから考える癖をつけたい。また、考えるばかりで行動に移れない人には、まず行動し、やりながら考えるようにしてはどうか、そんなことを考えたりしている。

とはいえ言うは易し。私自身はわりと頭でっかちなので、できていないと思う。だからこそ「進みて取る」行動的な人間になりたいものだと思うって、書初めの言葉を選んだわけだった。

ところで、ここでとくに付け加えたいのは、考えるということである。考えるのは一人でもできる。自問自答形式で書かれた本も多い。しかし、二つの意味で

(じつは一つか?)、考えるときに、ぜひ一人ではなく対話的に考えることを試してほしい。

最近、前川理事長が行事のスピーチの際に何度も言われている「二十一世紀は二十世紀とは根本的に違う」という言葉がある。その意味は、これまでほうまくいっていたやり方が通用しない時代になってしまった。先例踏襲や、これまでの成功例の精緻化、精密化、高度化だけでは、新しい事態に対応できない代がはじまってしまったという意味であろう。理由は様々あげられるだろうが、これまでの常識が通用しない世界に、どうやって対応していくか。どんなに頭の良い人でも一人の知恵ではとても対応できない。となると、ある問題にかかわる人々が集まって、自分の立場からの意見を述べ合い、知恵を合成していくことから始めるしかないだろう。一人の人間の知恵は尽きるかもしれないが、それを乗り越えるには、これぐらいしか方法はない。そこで生まれた考えを行動に移し、試行錯誤して

いく。そこでの結果をまた持ち寄り、対話的に考える。それを行う場として、寮という共同体はうってつけではなからうか。というのは、まず気心が知れている。互いの言葉も通じる(けっこうこれが難しい)。意見が違っても、決定的な対立にはならない(たぶん)。一定に知的レベルが保証されている等々。和敬塾内にいると、それが当たり前になっているが、世間に出るとそうはいかない。

全くの見ず知らずの他人と対話的に話をするのは、実際にやってみると非常に苦勞する。まず、そこで使う言葉の定義、テーマの設定、話し合いの進め方など、本題に入る前の手順だけでも、なかなか骨が折れる。とくに対話の枠組みを設定したにもかかわらず、それを無視して自分の考えを執拗に繰り返す人がいると、他の人は諦めの境地になって、何も言わなくなる。これを俗に「大きな声の人の意見が通る」ともいう。立場や考え方によって意見が対立するのは自然であり、対

話も経ずして意見を一致させるのは不自然である。それぞれ立場からすると筋が通っていて、しかし並べると矛盾していたとしても、問題解決のためには、どちらでもない新しい考えを合成しなければならぬ。

それを別の言葉で言えば弁証法という。先に述べた「現南寮と現乾寮を足して二で割ったものが新南寮ではない」というのはそういう意味である。対話的に考えるとは、当事者同士が対等に意見を述べ合うということが前提である。そして対等に話をするためには、その場がオープンでのびやかでなければ実現しないだろう。そういうところもふくめて、最後にあげているのは「オープンでのびやかな寮風」である。先に述べた二つを追い求めていけば、おのずとそうなるということでもあり、また相乗的にそうなっていくということもある。「安全安心」という基礎の上に、「文武両道」を目指していけば、おのずと「オープンでのびやかな寮風」が実現するだろう。それが新南寮のありたい姿である

と考えている。オープンであることは、とりあえずは閉鎖的ではないということであり、いろいろな人が関わりたくなるような、入寮したくなるような寮になっていければいいと思う。また、のびやかであるということとは、先述したように、皆が対等に話ができるということでもあるだろうし、先輩後輩の仲が形式的ではなくて、普通に年長者が年少者の世話をするような関係であつたりするだろう。風通しが良くて、空気がよどむことにならないような雰囲気できてくれば、たぶん成功なのでしょう。それにしても、新南寮では仲間が増えて、多少の軋轢もありながら、楽しいことも多くなると思う。のびのびしすぎて、羽目を外しすぎないようにお願いしたいものです。

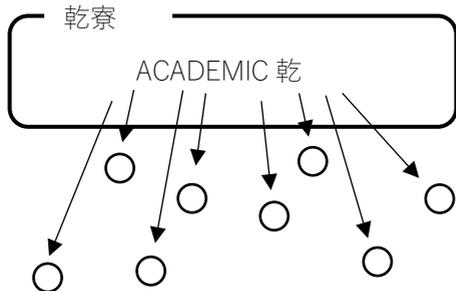
乾

今までの各寮の理念及び制度は演繹的な議論によって作られてきた。つまり、各寮理想とする抽象的な寮像があり、それに伴って制度や文化が形成されてきた。そこで問われる理想的な寮像とは、執行学年である三年生が二年間その寮に住んで感じた理想像であり、伝統的に、ある程度そのコアとなるものが受け継がれて形成されている。しかし、南と乾という二つの異なる考え方を統合するときには、その根源となる理想とする寮像が異なるため、そうした議論ではうまくいかない。さらに言えば、止揚的にお互いの良さを活かしつつ殺すような結論は、理想論に過ぎず、議論は平行線を辿るだけであった（この点において、個人的には乾と南の寮レベルでの差異を大いに感じた）。

鈴木 啓介（乾寮第八期）

そこで我々は、帰納的な議論によってお互いが妥協する新南寮像の形成を目指すこととした。各寮がこれまで伝統的に受け継いできた文化や制度を再度明文化し、再認識する。加えては、これまで検討すらされなかった、新たな寮像としての可能性を含む要素も探してみる。そして、それらを一つ一つ検討、比較し、新たなものとして決定していくことで、最終的に全体としての新南寮像が出来上がっていくことを期待したのである。抽象的な理念を先に決めることは、それと同時に、捨象された、別の可能性としての乾寮像的な文化が発生しにくい状況を生み出してしまふ。どういうことか、わかりやすく考えてみよう。例えば、乾寮ではACADEMIC 乾を掲揚しているために、研究的な活動がやりやすい環境にあり、実際、乾文學をはじめとし

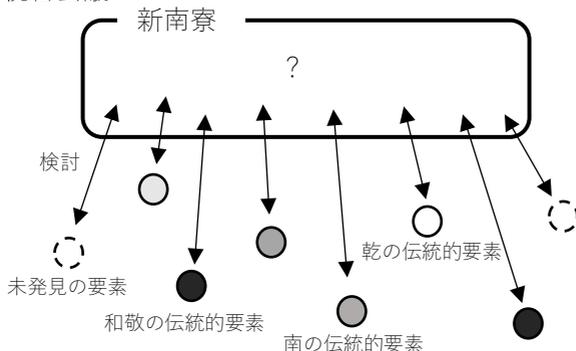
従来



似た色の文化や制度が残る

(図1) 従来の理念と文化の関係性は、先に寮としての理念が伝統に引きずられる形で決定し、それに伴って文化や行事、制度が発生していた。それだと、突飛な(乾らしくない)文化や行事が起こりにくく、例え誰かがそれを提案しても、人が集まりにくい。

統合会議



(図2) ここでは、乾が伝統的としてきた要素、南が伝統的としてきた要素、あるいは和敬塾として伝統的としてきた要素、更にはこれまで検討もされなかった未発見の(その寮では風土的に表れにくかった、新たな可能性を含む)要素のすべてが、新南寮として適切かどうか検証される。

帰納的な議論によって新南寮としての新たな文化を形成するという事は、これまで捨象されてきた数多の文化の種を一つ一つ検証していくことである。その意味において、南寮前期委員長小関が言った、最初は多少強制力を以ってしてでも会議に参加して意見してもらおうべきであると言った意味は正しい。

た文化をたくさん作り上げてきた。しかし、それは同時に乾寮がACADEMIC 乾に捉われることを意味している。例えば、私が乾寮らしくない活動、例えば、「合コン!」、「体育祭合宿!」のような企画をしても、それがやりにくい風土が誕生することでもある。そして、そうした風土のコントロールは、かなりの程度を以って塾事務所が有している新入生振り分け権に依存していると考えられる。乾には乾らしい人が入り、南には南らしい人が入ると、文化の固定化が行われてしまう。かつて、乾寮第五期生朴賢樹が、乾は乾らしい人を集めるといふよりも色んな人がごちゃ混ぜになっている方がいいと述べていたが、それはこの意味で真実を突いている。

だが、この主張は乾文學をはじめとしたACADEMIC 乾を求心力として、乾にある程度偏った人材を集めるべきだといふこれまでの私の主張、ないしは乾文學の主張と反している。前號で私は、各寮の別々の特色を全

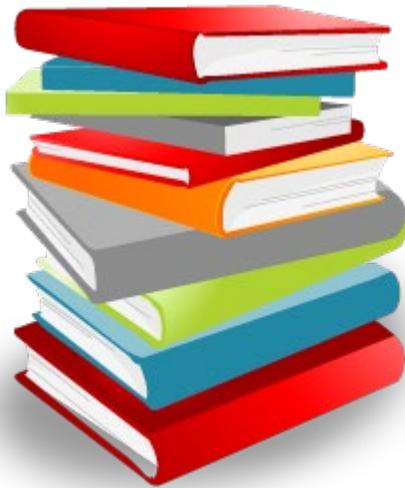
面に出し、それを求心力として人を集めること——和敬塾に多様性を持たせること——をすべきと主張した。この意見は変わっていない。だが、この主張は和敬塾全体からの視点における意見であつて、一寮内においては、文化や学生の多様性が担保されない状況をつくりだしてしまふ。そう、これは、多様性という観点を、和敬塾が取るか各寮が取るかという二者択一的な問題に過ぎないのであつたわけだ。

しかし、この解決しえない矛盾は、和敬塾創設以来初となる合併によつて、一時的かもしれないが解決されるかもしれないと、個人的に期待を寄せている。

和敬塾には入ってみないとわからない良さがある。

新南寮にも、入ってみないとわからない、今はまだ誰にもわからない良さが眠っているに違いない。乾

小説



米井 滉太(乾寮第八期)

警察官の刑事になりたい。事件の真相を明らかにしたい。そして、あいつと共に捜査がしたい。その思いで大学卒業後、国家一般職で警察庁を受けて合格し、警察学校を卒業し、交番勤務や機動隊などを経て、二十七歳の誕生日の今日、遂に人事課から手紙が届いた。

『遠山洸太郎巡査部長 警視庁刑事部捜査第〇課に任命する』

刑事になれる！しかも、所轄ではなく、いきなり本部の刑事部に入れる。その喜びで、『捜査第〇課』という不可思議な所に気づかなかった。そして、本部の本当の狙いも……。

辞令が届いた次の日の朝から荷物を移動させ、捜査第〇課のメンバーに自己紹介を終えた後、午後三時から会議が始まった。捜査第〇課なんて聞いたこともな

いけど、捜査第一課が強行犯事件とか二課が知能犯罪みたいのに、〇課にも何か特別な任務があると思いい、ワクワクしながら会議に臨んだ。しかし、配られた資料は、殺人・強盗のような強行犯から、痴漢・万引きのような軽犯罪まで、多種多様に渡っていた。しかも、検面調書がついてきている。

検面調書……正式名称『検察官面前調書』とは、刑事事件において検察官の面前における供述を録取した書面をいう。検面調書、PS (public prosecutor と statement) からの造語) などともいう。以下、「検面調書」と記す。

つまり、これらの事件は、警察が捜査をし、検察に送検された事件という事だ。そして、共通項に気が付いた。全部の事件で、被疑者の否認や動機不明などの欠

陥がある。今になって冷静になってきた。捜査第○課
ってなんだ？パンフレットにもインターネットにも、
載ってない。そもそも、同じ刑事部なのになぜ捜査第
一課や第二課と部屋が違う。不可思議な点が多いため、
ついつい体が動いてしまい、

「課長！捜査第○課って、何なんですか？」

と、会議が始まる直前に突っ込んでしまった。する
と、その他の捜査官から

「新人、やっと質問したか？普通配属書の時点で『捜
査第○課』に気づくだろうよ。」

少し厳つい刑事さんがニヤつとしながらツツコンで
きた。

「そういう光井さんも、配属当初は沈黙して仕事して
たじゃないですか？」

今度は三十代位の女性が笑いながら、突っ込んだ。

「光井君も藤原さんも、始めはそうだっただろう。説
明してない課長である私のミスだった。すまん、すま

ん。普通に馴染まれたから、説明を忘れていた。」

五十代の課長さんも笑いながら、説明を始めた。

「遠山君、日本の有罪率を知っているかい？」

「はい、ドラマにもなりましたけど、確か・・・99.9%
ですよね。」

「そう、99.9%。この数字は、他国からは如何に日本の
検察が優秀であると捉えられているが、それが故に難
しい事もある。」

「・・・というのは？」

「たとえどんな悪質な犯罪者でも、証拠が少ない被疑
者を起訴できない。また、無罪や検察の判断が間違っ
ていた時に、弁護士が無罪を証明するのには、時間も
労力もかかる。そして、万が一無実の人間に有罪判決
が下ってしまったては、真犯人が捕まらないこともある。
要するに・・・現実的には検察だけでは対処しきれない
ことも多いという事だ。」

課長が顔をしかめて語っていた。

「そこで、警察庁と法務省・検察庁の合意の元、刑事○課（刑事部捜査第○課）を作る事にした。刑事○課は、警視庁にあるが警察庁刑事局直轄であるため、全国の刑事事件の捜査が可能だ。また刑事部のすべての権限を掌握でき、自由に捜査することができる。その権限を使い、刑事部や所轄の刑事課の空いている捜査官を使い、証拠不十分の場合は証拠を集めたり、再捜査の指揮したりする。無罪ならば、真犯人を捕まえる。それが刑事○課の仕事だ。」

光井さんが語った後、
「そして、刑事○課は別名（検察係）とも呼ばれている。その位、捜査権限が大きく、任務も重大であることが多い。だから、新入りだが早速この事案を頼みたいと思う。」

藤原さんから、分厚いファイルを受け取った。一体どんな事件なんだか不明だが、初任務に胸をワクワクさせた。その後、他の事件の捜査段階や報告などを聞

いて、午後五時を迎えると、

「さて、諸君帰ろうか。」

課長が早速帰りの準備をしている。他の捜査官たちも、帰りの準備をしている。

「刑事○課は、既に起きた事件を扱うから、定時に上がれるんだ。まあ、捜査に夢中ですっかり夜になる事も多いけどね。それより、その分厚いファイル持って帰れる？結構重いぞ。」

課長が心配してくれたが、

「大丈夫です。今、連絡したので車で迎えに来てもらえるので。」

「なんだ、新入り！送り迎え付きか。羨ましいなあ。満員電車の苦勞を味わわずに済むなんて。」

光井さんが羨ましそうな目で見てきた。

「まあ、事情があります。ついでに乗せてもらえるんですよ。」

「ふーん、まあ気を付けて帰れよ。刑事○課は、人数

が少ないし、お前の担当事件、早くケリ付けないと、マスメディアがうるさいからな。」

「え！一体どういう事件なんですか！？」

「それは、帰ってからのお楽しみだよ。」

藤原さんが、ニヤつと笑った。なんか不吉な気がする。

書類の山を持ち、警視庁の一階に行き、駐車場に行く。と一台の車が止まっている。そこに、この車の持ち主が現れた。身長も低く、童顔で、しかもべちゃばい。そして、歩行補助機がついている車いすで現れたロリキャラ？みたいな女性が、僕の奥さんの遠山珠希。警視庁警務部に勤める高卒ノンキャリア警官。

「電話で聞いていたけど、早かったね。定時に上がれるなんて、変わっているね。」

「その話はあとでするから、とりあえず車の鍵あけてトランクに、この分厚いファイルの山積ませてください。」

「うん、分かった。ちょっと待ってね。」

鍵を開けてもらい荷物を積んで、やつと重荷から解放された。珠希を車いすから、特別な運転席に移して、そして車は、僕達の家へと向かっていった。

「じゃあ帰ろうか。今日は洗ちゃんの誕生日だし。家族でお祝いしないかね。」

「毎年、珠希の家の両親には世話になっているな。この年になっても、誕生日祝ってくれるなんて、本当に嬉しいよ。」

「うちのパパもママもそして私も、洗ちゃんの喜んでくれる顔が好きなんだよ。」

「それは嬉しいね。いつもありがとうな。」

「お礼を言わなきゃならないのは、私だよ。この足の件も含めてね。」

そんな会話をしていると、家についた。荷物を降ろした後、珠希を支えながら車いすに移し、家に入った。ドアを開けた瞬間、

「洗太郎君、誕生日兼、本庁刑事部栄転おめでとう！！」

珠希の両親がクラッカーを持って、お祝いしてくれた。本当に義理の両親なのにここまでしてもらえて嬉しい。

「さてと、二人とも中に入って！今回は、いつもよりグレードアップしてみました。」

食卓には、和洋折衷、様々な料理が用意されていた。ケーキも大きく、プレートには『誕生日・栄転おめでとう』と書いてあった。

「じゃあ、早速いただきますでしょうか？」

「そうだな！では、洗太郎君の誕生日・警視庁刑事部栄転を祝して・・・カンパニー！！」

「カンパニー！！」

「ところで、刑事何課に配属になったの？」

お義父さんは、大の刑事物ドラマが好きで様々な作品を見ている。きつと、捜査一課を期待しているのだ

ろうけど・・・。

「それが、刑事部捜査第〇課なんですよ。」

「しよーさ〇課？」

珠希が不思議そうな顔をしている。口に物を入れて話すなよ・・・。

「捜査一課はよく聞くし、ドラマになるけど、捜査〇課は聞いたことないね。」

お義父さんも同じように、不思議そうな顔をしている。

「僕も今日初めて聞いたんですけど、どうやら検察の捜査の手伝いをする部署で、別名『検察係』って言われているんですよ。捜査の権限も大きく、やりがいのありそうな部署なんです。何より、定時に仕事を終わりに出来るみたいなので、そこがいい所ですね。」

「へー、まあ洗太郎君なら務まるでしょう。これから、頑張ってくださいね。」

お義母さんからそう言われ、ますますやる気になっ

た。

食事の後、早速今日渡されたファイルの山をチェックすることにした。リビングだと迷惑なので、元は珠希の兄の部屋を借りて、資料を広げた。

「えっと、何々・・・『都営バスジャック殺人事件』って、え〜〜！」

「どうしたの、そんなに大声出して。」

「うわ！・・・って珠希か・・・驚かせるなよ。」

「いや、驚かせたのは洗ちゃんでしょ。それで、どんな事件なの？」

珠希は幼い子のような、キラキラした視線を送ってきてきたので、そのままファイルを渡した。

「え〜と、何々・・・二〇一七年七月三十一日金曜日。」

この日の朝、池袋駅のバス停を出発した新宿駅西口行きの都営バスが刃渡り三十センチの刃物を持った男に乗っ取られるという事件が発生した。バスに乗っていたのは運転手と犯人を含めて九人。犯人は星河芳樹・

三十二歳。人質を管理しやすくするために、わざとラッシュアワーを外れた客の少ない時間帯を狙っての犯行だった。バスは星河の指示で首都高速から東名高速に乗り東京、神奈川、静岡と西へ疾走。都営バスがコースを外れているという通報が都から入ったためすぐさま警視庁が追跡を開始。その後、バスが他県に入るとに追跡する警察車両の数は増え、東名高速の下り線は封鎖された。

やがてバスは浜松市のサービスエリアで再び給油のために停車。この時、これ以上の事件の長期化は人質が危険と判断した警察庁の判断により、警視庁と静岡県警の機動隊が中心となったサービスエリアでの強行突入作戦が計画されることとなった。そして、事件発生から二十四時間たった五月八日の早朝、警視庁のS2と静岡県警の精鋭十五人の機動合同部隊が、警視庁の富野（とみの）S3隊長の指揮の下バスに突入開始し、スタングレネードが車内に投げ込まれた。だが、この

際星河は逆上し、乗客の一人だった金融会社社員の寺脇貞裕が刺殺されてしまう。その直後に機動隊は星河の身柄を拘束し、残りの人質は解放されたのだが、結果的に人質一人が殺されてしまうという失態を演じることになり、警察はしばらく批判的にさらされたという……。

「あーこんな事件もあつたね。それで、検面調書によると……彼は昨年まで都営バスの職員だったんです。が、乗務中に事故を起こして相手を死なせてしまったことから解雇。しかし、星河の奥さんである星河花陽さんの心臓疾患の移植手術には莫大な費用が掛かり、それを得るためにバスジャックを行った。また、自己の責任も自分一人に擦り付け、また労働基準法違反な環境で働かされた。それで都営バスを困らせてやろうと思つてバスジャックを計画したと本人は警察で供述。ところが、問題が発生。『確かにバスジャックはやつた。それは認める。だが、殺人だけは断じてやつてい

ない』。彼は突入時に起きた寺脇貞裕殺害を否認している。……」

「はい？自分で起こしたバスジャックで、他人による殺人事件が起きたとでもいうのか！？」

「まだ検面調書に続きがあるみたいだよ。『検事さん、頼みがある！バスジャック事件の事だが、バスジャックしたことは認める。だが、断じて殺人など行っていない。殺人なんて行えるわけがない。現に俺の妻は、重度の心臓病で移植手術を受けなければならぬんだ。そんな簡単に人が殺せるわけがないだろ！頼む！信じてくれ！俺は、殺人なんかやってない！』と証言。p.s. この事件が報道されたときから、世論は日本の社会福祉制度を巡る問題で、この裁判の行方によつては、社会問題になりかねない。早期解決をよろしく。藤原」

「冗談……だよな……」

頬が引きつってしまった。

「初担当の事件、ヤバすぎだろ！マスメディアで最も

注目を集めている事件で、こんな不可能犯罪、どう捜査すればいいんだよ!？」

不安で溢れ、苦しみに悶えていると、

「この事件、なかなか面白そうだね。捜査参加したいなあ。洗ちゃんの御祖父ちゃんやお父さんの力でどうにかならないかな。有給休暇取れないかな？」

僕とは対照的に目のきらめきが一層増している。それもそうか……。珠希は、刑事志望だったんだから……。

そうだ!このために僕は刑事を志望したんだ。それに珠希の推理力は凄い。捜査協力してもらえるのは、力強い。

「分かった。御祖父ちゃんに電話してみる。」

僕の父方の祖父は、キャリア組で入庁し階級は警視長で、確か今は警察庁で仕事している。因みに親父も、僕と同じ準キャリアで、確か警視として警視庁公安部にいる。早速祖父に電話をすると、

「遠山だ!どうした?」

威圧感と正義感に溢れた強い声が聞こえた。

「遠山誠一郎警視長殿、遠山洗太郎巡查部長です。刑事○課で自分が担当する事件に関して、珠希巡查が興味を持っておりまして、有給休暇をいただけないでしょうか?」

「おお、洗ちゃんか。そんなに硬くならなくても大丈夫だよ。珠希ちゃんが捜査に参加したいのか。そうか。ちよつと待っていてな。内線かけてやるから。『おお、原ちゃん、わしの孫の嫁の警視庁警務部の遠山珠希巡查が、捜査に参加したいそうなのだが、いいか?刑事○課で、警察法二条の目的でもあるから、どうか有給休暇以外の形で捜査してもらいたいのだが……。』」

「おお、か。ありがとうございます。警視總監の許可取って、通常勤務の形にしたから存分に捜査しなさいな。」

「ありがとうございます。お手数をおかけしました。」

「孫の願いを叶えられるとは、嬉しいもんじゃ。警察法二条を大事にする洗ちゃんの気持ちはしっかり受け

取ったぞ。また、困ったら相談しなさい。いつでも電話OKじゃ。」

「本当にありがとうございます。では、事件解決に向けて全力を注がさせていただきます。夜遅くに失礼しました。」

「冴ちゃんの電話なら、わしは二十四時間いつでもよいぞ。また、電話してね。」

そう言って電話が切った。自分の祖父だが、警察官になってからというものの、その権力の大きさに驚き、敬語でないと話せない。というか、原ちゃんって、原田警視総監だよな。物凄くダイレクトなお願いの仕方になってしまったな。そして、警察法二条相変わらず好きだな……。

『警察法二条……警察は、個人の生命、身体及び財産の保護に任じ、犯罪の予防、鎮圧及び捜査、被疑者の逮捕、交通の取締その他公共の安全と秩序の維持に当ることをもつてその責務とする。』

「遠山警視長なんだって？」

不安そうな顔を浮かべながら、聞いてきた。可愛い……じゃなくて！

「ああ、通常勤務で捜査していいそうだ。」

「本当！？やったあ！夢が叶った！ありがとうございます冴ちゃん！」

珠希がそのまま抱き着いてきた。よほど、嬉しいのだろうな。それもそうか……五年前の事故さえなければ、珠希はSITにも選ばれるであろう相当優秀な警察官だったのだから。

SIT……「Special Investigation Team」特殊事件捜査係。日本の警察の部署のひとつ。高度な科学知識・捜査技術に精通し、大規模な業務上過失事件やハイジャック、爆破事件などに対処する。警視庁及び道府県警察本部の刑事部内に設置されており、特殊事件捜査係のほかにも特殊犯捜査係や特殊捜査班など、都道府県によって異なる呼称が用いられている。また警視庁の

特殊犯捜査係は通称でS.H.I(エスアイティー)と呼称されているが、他の警察本部の同種部署は通称名が異なる場合もある。なお、人質事件・誘拐事件にも対応することから、人質救出作戦部隊としての側面もある。

5年前の事件は後に語る事として、

「お！今度は担当弁護士さんから資料があるよ。」

珠希が新しいファイルに手を付けた。

「えーと『仮に星河の主張が正しいとして、他に容疑者はいるのか？』についての考察』彼が犯人でないとなれば、常識的に考えて犯人はあのバスに乗っていた人間のいずれかです。その人数は、被害者と星河本人を除けばわずか七人に絞られ、そのうち一般客は六人。」

珠希は僕に資料をに渡した。それによると、客は大学生の倉木雪子、高校生の長坂憲次郎、観光会社社員の保坂波子、警備会社社員の増田駿一郎、フリーターの三好年夫、そして外務省勤務の長尾久重の六名。そこに運転手の奥谷譲作と、寺脇と星河を含めた九人が

あのバスに乗っていたことになる。もらった資料を軽くめくり、一人一人の顔写真と名前を合わせていく。

「えーと、続き読むね。ここで問題になるのが突入時の人物配置。書かれた資料渡すね。弁護士は説明の名目上、運転席側の窓側、すなわちバスの一番右端の縦列をAとし、以下左にB、C、D列と記号を書いた。すなわちDがバス向かって左端の窓側で、例えば前から三列目の右窓側の席なら3―Aと表すということになる。ただし、路線バスなので7―C、7―D、8―C、8―Dは後部出入口ということではなく、また最後尾の十四列目は五席あるので、田中は真ん中の通路の位置にある席を14―Eと表したようだね。」

「そして問題の、突入時の各人の位置ですが、肝心の寺脇と星河は最後尾にいた。星河は警察がいつ突入して来ても対処できるように人質を車内に均等に配置していました。寺脇は最後尾だったわけで、たまたま星河がその辺りにいた時に突入が開始されたのか・・・。

具体的にはどの席だ……？14—E。最後尾のど真ん中の席だな。」

弁護士資料の次のページを見ると、見取り図に名前を書き込まれていた。それを見て、珠希はまた資料を読み上げた。

「次に、突入直前まで寺脇が生きていたことは複数の機動隊員によって確認されています。つまり、犯行はスタングレネードが炸裂した瞬間から星河が機動隊に取り押さえられるまでの数十秒の間に行われたこととなります。それと、犯行に使用されたのは星河が持っていたナイフです。星河本人は突入のどさくさに落としてその後はわからないと言っています。つまり、殺人犯が星河でないなら、スタングレネードが炸裂して機動隊が突入する中、星河からナイフを奪って寺脇を殺し、かつ自分の席まで往復するという作業を数十秒で誰にも気づかれずに行う必要があるということですね。」

僕の表情が険しくなった。概要を聞いているだけでも星河以外の人間が犯行を行えるように思えなかったからだ。更に珠希は続けて、

「犯人の星河は先ほども言いましたように14—Eに座る寺脇の真正面に向かい合うように立っていました。これも機動隊員の証言から明らかです。えーと、寺脇の詳しい死因は……これが警察から提出された解剖記録かあ。」

珠希が封筒を差し出す。中を改めると詳しい死因が書いてあった。

『ナイフは被害者から見て左方向から斜めに心臓を貫いており、ほぼ即死だったと考えられる』とのこと。

「正面からグサリか。」

ますます星河にとって不利な状況だ。次に僕の方のファイルに詳細が載っていたので、読み上げた。

「これだけでもかなり不利だが、決定的なのは他の乗員たちの位置。まず、運転手の奥谷は当然運転席に

た。一番寺脇から離れた位置。残りの客ですが、逃亡を防ぐためすべて通路側に配置されていた。」

「そう言いながら僕は資料をコピーした紙に他の客の位置を記していく。それによると、大学生の倉木が1—B、すなわち運転席の真後ろ。以下、外務省の長尾が3—C、観光会社の保坂が5—B、高校生の長坂が7—B、警備会社の増田が9—C、フリーターの三好が11—Bということだった。それを見た珠希が、

「えーと、機動隊が突入したのは運転席横の入口と11—D、12—D近辺の窓に二カ所です。前者が人質の保護、後者が犯人確保を目的としており、機動隊の主力は後者に集中していたという事だね。」

「参ったな。」

寺脇に一番近いのは三好であるが、機動隊はこの三好が座っていた十一列目から突入している。つまり一番混乱している場所で、おそらく動くことすらできなかっただろう。三列後方に接近するなど無理だ。他の

連中は論外で、特に前方の人質たちは救助に来た別動隊を振り切って犯人との格闘続く後方部へ飛び込む覚悟がないと殺人など起こしようがない。

「具体的に突入から逮捕までどれくらいかかったのかな？」

珠希が聞いた。書類を整理しながら出していると、その時の映像データの入った「SD」を見つけた。早速パソコンに繋いで映した。

『すでに事件発生から二十四時間が過ぎようとしています』

それはどこかの局のニュースのようだった。サービステリアに停車するバスの横から撮られている。側面の窓はカーテンが閉まっており、中の様子は見えない。機動隊員たちが窓の隙間などから中を覗き、警視庁の富野機動隊長らしき人物が突入のタイミングを見計らっている。そのまま何秒か過ぎたころ、突然富野が手を思いっきり振った。

と、直後に車内が激しく光った。スタングレネードの閃光だ。同時に窓から機動隊員たちが突入していく。榊原は閃光が光った瞬間からストップウォッチを押していた。やがて人質たちがバスを脱出していく。そして、しばらくして星河がバスから引きずり出されてきた。ここで僕はストップウォッチを止めた。

「三十六秒・・・」

「もつとも、これは星河がバスの外に出るまでの時間だから、実際に取り押さえられるまでは三十秒弱といったところかな。」

「珠希はどう思う？星河の主張は正しいと思うか？」

珠希はしばらく映像データを巻き戻したり早送りしたりを繰り返していたが、

「さすがにこれだけじゃ判断ができないね。事件の関係者、特に人質に話を聞いてみたいのだがどうだろう？もう少し具体的に検討してみたいかな。」

「了解。珠希がそう言うなら何か考えがあるんだろう。」

「関係者の所在は、既に捜査一課が調査済みのようだな。」

「さてと、さすがに今からは無理だから、明日からさっそく聞き込みをするか。」

そう言つて、僕と珠希は寝ることにした。とは言いつつも、自分の部屋は資料だらけ。整頓した資料を崩すのもつたいない。すると、珠希から、

「じゃあ、久しぶりに二人で寝よっか。いつも洗ちゃんかえり遅いから、夜こんなに話したのも久しぶりし・・・どうかな？・・・ダメ？」

夫婦が同室で寝るのは普通と言えば普通だが、珠希の場合見た目がロリだから、犯罪している気分になる。しかし、こんなに目をウルウルさせている珠希に「ヤダ」なんて、絶対に言えない。

「いいよ。じゃあ、二人で寝るか。」

「やったー！ありがとう。じゃあ、お風呂も一緒に入ろうか。」

珠希がニヤニヤしていかからかっているのだが、それに気づかない僕は、

「あ！資料に夢中で風呂入ってなかったわ。確かにもう夜遅いし、補助する人いないから一緒に入るか。」

「ふえ！？え！いいの？」

「良いも何も、一人だと大変だろ。早く風呂入ろうぜ。もう眠くなってきた。」

「え・・・あ・・・うん。少しは抵抗感じてくれないのに私だって女子なんだから・・・」

「なんか言った？」

「え！ううん。大丈夫。じゃあ、入ろうか。」

その後、普通に風呂に入り、普通に寝たという、健全すぎる時間を過ごして次の朝を迎えた。次の朝、少し珠希が不機嫌だったが、何かあったのだろうか？

翌日の午前九時。課長である伊藤さんには許可を取り、僕と珠希は新宿にある都営バスの営業所を訪れるために、新宿駅に降り立った。二人ともスーツという、

お互い久しぶりの格好で、刑事になったと改めて感じ、興奮した。

「捜査一課の調べによると、運転手の奥谷譲作と、外務省の長尾久重は比較的簡単にわかったみたいで、この二人にはすでにアポを取ってある。ただ、他がわからないみたいだな。フリーターの三好年夫は居場所がつかめないし、高校生の長坂憲次郎にいたっては、どうも他府県の人間らしい。大学生の倉木雪子もどこの大学なのか見当もつかない。」

「あとの二人は？」

「会社名さえわかれば何とかなるんだろうが、単に觀光会社と警備会社というだけではさっぱりだ。」

「とりあえず、わかっている二人に話を聞くのが一番だね。」

珠希の言葉に、僕は小さく頷いた後、写真をポケットに突っ込んだ。話しているうちに、二人は都営バスの営業所があるビルにたどり着いた。

「すみません。」

中に入り、受付に声をかける。

「アポを取っていた刑事0課の遠山です。奥谷さんはいらっしやいますか？」

「承っております。少々お待ちください。」

受付の女性が告げ、しばらくすると、制服を着た初老の男が出てきた。

「奥谷です。お話があるとのことですが。」

「ええ。立ち話もなんですから、お茶でもどうですか？」

そう言うと、三人はビルの前にある喫茶店に入った。

「刑事さんでしたね。どういったご用件で？」

「実は、例のバスジャック事件に関して検察庁から調べなおすようにという依頼がありまして、こうして関係者の方々にお話を聞いている次第です。」

「検察がですか・・・前に来た刑事さんに話したことが全てなんですけど、まあ、私の知っていることでしたらどうぞ。」

奥谷は訝しげな表情ではあったが、とりあえず話すこと自体は認めてくれた。

「では、さっそくですが事件についてお話ください。」

「あれば池袋駅のバス停を出た直後だったかな、突然お客の一人が立ち上がって私の首筋に刃物を突きつけたんです。よく見たら星河でした。」

「星河さんとは御知り合いで？」

「ええ。彼も元は都営バスの職員でしたから。時々同僚数人と一緒に飲んだりはしていましたよ。」

「星河さんはあなたのことには気がついていましたか？」

「いや、向こうは私のことなど覚えていないでしょう。」

あまり他人を気にしないタイプでしたから。」

「その後どうなりました？」

『西へ向かえ』と言ったんで、仕方なく指示に従いました。その間に、星河は客の位置を変えて管理しやすくしたようです。規定にのっとり、SOSのサインを出しましたが、警察が駆けつけたのは首都高に入

った後でした。」

いわゆる二〇〇〇年の西部バスジャック事件の後、全国のバスには緊急時用の表示板設置が義務付けられた。スイッチを入れると行き先表示板が回転して「SOS」に変化するもので、内部のバスジャック犯からは見えないまま、外部に緊急事態を知らせる役割がある。

「もつとも、星河とて元はバス職員でしたから、サインが出るのは予見していたみたいですよ。警察が併走しても特に顔色も変えませんでした。」

「首都高に入った後は？」

「東名に乗り換えて、例のサーブエリアに到達する直前にガソリンが切れかけたので、サーブエリアでの停車が許可されました。その後は、ひたすら神頼みですよ。」

「突入の際、何か変わったことは？」

「何しろ運転席にいましたからね。衝突が邪魔で後ろ

のことはよくわかりません。それに、スタングレートードが発光した直後には、私は機動隊の手でバスの車外に引きずり出されてしまったからね。」

「発光からの時間は？」

「それこそ五秒もないはずですよ。機動隊としては、とにかく運転手を真っ先に救出してこれ以上のバスの暴走を阻止するつもりだったんでしょう。」

奥谷はしんみりと言った。

「突入の時、星河はどこに？」

「よくわからないんです。ただ、後ろの方にいたみたいなのは覚えていますけど。でも、その少し前には私のすぐ後ろ辺りで騒いでいましたがね。」

「騒いでいた？」

僕は訝しげに奥谷を見た。

「どうも正面にいた警官が気に食わなかったみたいですよ。何かわめいてシートを叩いていましたよ。後ろを向いたら後ろを見るわけにもいかなかったので、誰の

席かはわかりませんが。その後、足音が後ろの方にいつて、直後にスタングレネードが発光したんです」

「なるほど。」

僕と珠希は頷きながら何かをメモしていた。

それから榊原はいくつか質問を重ねたが、最終的に奥谷からはそれ以上の情報を聞き出すことはできず、やがて時間となって奥谷への質問は打ち切りとなった。

「いやあ、あの時はひどい目に遭ったよ。」

奥谷の元を辞した二人は、次に外務省の長尾久重しげるの元を訪れていた。外務省の課長職におり、国家公務員の中でもエリート職である外務省勤務だけあってどこか威厳に溢れている。こういう類の人間には事務的に話を進めた方がいい。僕はそう判断して淡々と質問をしていった。

「あの日はどうしてバスに？」

「急な仕事でね。池袋のある国の大使館を辞した後、新宿の都庁での打ち合わせに行く途中だったんだ。ま

あ、公用車でも行っても良かったんだが、気分転換をかねてバスに乗ったのが間違いだった」

長尾は忌々しそうに呟くが、榊原は事務的な様子で話を進めた。

「占拠後は？」

「場所を入れ替えさせられたよ。前の方の席だったかな」

確か場所は昨日の見取り図では3-Cだったはずである。前から三列目の通路側の席だ。

「突入時の行動はどうだったんですか？」

「いきなり目の前が真っ白になって、何がなんだかわからんまま、気がついたらバスの外で手当てを受けていたよ。恥ずかしいことに、一瞬失神していたようだ。」

「つまり、突入のときはよく覚えていない？」

「そうなるな。極めて遺憾だが。」

長尾は懔然とした表情で告げた。

「では、突入の直前のことはどうでしょうか？」

「直前か。まあ、少し身が縮まる思いはしたが。」

「と言いますと？」

榊原が促すと、

「その時、やつは私の斜め前に立っていた。そしたら、やつが正面の窓から前に潜んでいる警官に気がついてな。突然大声でわめきながらナイフを私の喉元に突きつけた。」

「それは、随分大変な思いをなされたようです。」

「まったく。もつとも、やつは正面の警官が気になるように、体は正面に向けたまま手だけを私の方に伸ばしていたのだがな」

「その後は？」

「苛立ったように、私にナイフを突きつけたまま、反対の手でやつの斜め前に座っていた若い女の子の座席を思いつきり殴った。」

おそらく、それが奥谷の聞いた音の正体だろう。

「そのすぐ後に、急に身を翻して、後ろの席の方に行

った。ナイフから開放されてホッとしたところに閃光だ。寿命が縮まったよ。」

長尾は小さくため息をついた。

「さて、どうしよつか？このまま帰る？」

外務省を辞した二人は、そのまま秋葉原の辺りを歩いていた。オタクの街として有名になった秋葉原であるが、元は電気店街であるため何台かのテレビも街頭に出ている。

「帰るわけにはいかんだろう。まだ何も詳しい事がわかっていない。」

「とはいえ、他の人たちの所在は不明ですし。」

と、その時だった。

「あれ、お姉ちゃん？」

不意に声がかかった。向こうから背が高めの女の子が歩いてくる。

「あ、由衣。」

珠希も驚いた声を出す。本田由衣。珠希の妹で僕の

義理の妹。今は確か大学の寮で生活しているとか。

「久しぶりだね。今はこの大学に行っているの？」

「才應大学法学部に通っています。将来は検察官を志望しているのです。」

「ほう。」

僕は感心したような声を出した。才應大学は私立の都内有数の有名校で、早稲田・慶應・上智と並ぶ難関校である。

「剣道の推薦で入ったんですけどね。おかげで授業が大変です。」

由衣はそう言うと、珠希に顔を向けた。

「お姉ちゃんって確か警務部だよ。何で今日は遠山さんと出かけているの？スーツだからデートには見えないし……。」

「実は、洗ちゃんが刑事○課に配属になって、捜査の手伝いをさせてもらっているんだ。」

「え！じゃあ、車いすや歩行補助具使いながら捜査し

ているの？遠山さん、大変じゃない？」

由衣は難しそうな表情で聞いてきたが、

「大丈夫だよ。珠希に捜査協力をお願いしているのは僕の方だし。珠希は軽いから大丈夫だよ。」

「私も洗ちゃんが支えてくれるから大丈夫だよ。」

「ふくん、夫婦で捜査ですか？今も何かの捜査中？」

「うん、ちよつと人探していて。そういう由衣は？」

「これから、東京地裁に行くところ。刑事訴訟法の授業の一環だね。」

「へえ、どんな裁判？」

「興味あるの？」

「うん、どんな刑事裁判？」

珠希が目キラキラさせながら、聞いている。何せ珠希が刑事を目指したのは、HEROを見て検事と間違えたまま、高校まで行き、実際に検事の仕事を調べたら、捜査が殆どないと知り、法曹への進路を絶った。しかし、珠希は警察学校の授業を機に刑法や刑事訴訟法に興味

を持ち、よく本屋で法律の本を買って読んでいる。刑法や刑事訴訟法の知識は、法学部卒の僕よりも、珠希の方が優れているかもしれない程だ。

「覚せい剤取締法違反だよ。」

「そうなんだ。頑張つてね、検事になる夢応援しているよ。」

「お姉ちゃんも、折角遠山さんが刑事の仕事手伝わせてくれているんだから、事件解決させてね。」

すると、不意に珠希は僕の方を振り返つた。

「ねえ、洗ちゃん。せっかくですから見せてみようよ。」

あの写真。」

「まあ、藁にもすがつてみるか。」

僕はそう言つて、ポケットから残る証人たちの写真を出した。由衣はしばらくそれを見ていたが、不意にその一枚に目を留めた。

「この人、どこかで見た事があるんだけど」

「どの人？」

由衣が指差したのは、倉木雪子の写真だった。

「確か、私の一年先輩にそんな人がいたと思う。吹奏楽部の部長だったからよく覚えてるんだけど。」

「今どこに？」

「確か、慶應大学に進学されたって聞いているけど」
慶應大学も都内では有名な私立大学である。

「聞いてみるものだね。」

僕は苦笑すると写真をしまい、

「じゃあ、行つてみるか。ありがとう。」

と、礼を言つて歩き始めた。

慶應義塾大学三田キャンパスに着くと、事務局で倉木雪子の名前を探してもらい、経済学部在籍しているのを突き止めた。呼んでももらえないかと頼んでみると、快くアナウンスしてくれた。何ともいい加減なものだと僕は呆れていたが、何にしても本人に会えるのだから文句を言つてもいられない。

やがて、事務局に一人の女性が姿を見せた。

「倉木雪子です」

相手はそう言うと、榊原たちを学生会館のラウンジに案内した。生徒も少なく、話しやすい場所である。

「事務局の方の話だと、刑事さんということでしたが、検察の意向で再捜査をされていると。」

「はあ、これも仕事ですので、よろしくお願いできますか？」

僕は頭を下げた。雪子は深いような表情をしたが、

「まあ、せっかく来られたんですから構いませんが、これつきりにしてください。」

と、一応話を聞くことを了承してくれた。

「わかっています。それではさっそくですが、なぜあのバスに乗っていらつしやったのですか？」

倉木は少し考えたが、

「あの日は前期の期末テストの日で、テストは午後からでした。なので、いつもより遅めにバスに乗ったんですが、慌てていたのかバスを間違えてしまつて。ど

うしようかと思つていたら、いきなりバスジャックに遭つてしまつたんです。本当についていませんでした。」

倉木はあまり思い出したくないというような表情をした。

「バスジャック後、犯人は座席移動を強要したとか。」

「はい。私は一番前の席に移されました。」

昨日の見取り図では1―B、すなわち運転席の真後ろである。

「スタングレネードが発光した瞬間、すなわち突入時はどうされていましたか？」

「ただ怖くて、座席でうずくまっていました。しばらくして感覚が戻ってきたときには全て終わつていて、自分でバスを降りました。」

「突入のとき何が起つたのかは？」

「わかりません。後ろの方で何か騒いでいたのは感覚でわかりましたが。」

おそらくそれは機動隊と犯人の格闘だろう。

「突入直前に座席を殴られたとか。」

「はい。何かわめき始めて、私の通路を挟んだ斜め後ろに座っていた男の方に正面の方を向きながらナイフを突きつけていました。男の人は犯人の斜め後ろにいたんですが、後ろに手を伸ばしながら突きつけていました。」

「その後、反対の手で斜め前のあなたの座席を殴った。」

「はい。殺されるかと思いました。」

「その後は？」

「急に踵を返して、後ろの座席に向かいました。チラッと見ていたんですが、犯人が一番後ろの座席に座っていた、殺人被害者の方の正面に立ったときに突入が開始したんです。」

今までの証言だと、事件直前に激昂した際、星河はちょうど二列目の通路にいたらしい。その際激昂して三列目にいた長尾にナイフを突きつけ、さらには斜め前の一列目に座っていた倉木の座席を殴った後、最後

尾の14—Eに座っていた寺脇の正面に向かい、そこで突入が行われたことになる。

珠希は何事か考え込んだ。

「あの、もういいですか？」

倉木が不安そうに言う。

「ええ。忙しいところ、ありがとうございます。」

「こんな事、今回限りにしてください。」

不満そうな様子の雪子に対し、僕と珠希は礼を言つてその場を辞した。

「ねえ、珠希。本当に星河じゃないのか？ 自信がなくなってきたんですけど。」

家に帰り、僕が質問する。珠希は黙ったままソファに座って考え込んでいる。

「考えても見ろよ。犯人はスタングレネードで視界と聴覚が効かない中を最後尾まで行き、そこで屈強な機動隊に気付かれないように犯人のナイフを奪って殺害したあと元の場所まで戻らないといけないんですよ。」

それも時間は三十秒です。仮に犯人が人質の誰かだとしても。常識的に考えて無理じゃないですか。」

僕がいくつもの疑問を並べるが、珠希は返事をしない。
い。

「珠希！」

僕がそう言った時だった。不意に珠希は車の鍵と歩行補助器具を持って、

「洗ちゃんの御祖父ちゃんに協力を求めたいんだけどお願いしてもいいかな？」

「何を願うするんだ？」

「今回の事件に関してどうしても聞かなければいけないことができたんだ。それさえ聞けば何とかかなりそうなのだ。」

「分かった。・・・御祖父ちゃんに電話繋いだよ。」

「遠山珠希巡査です。ええ、お願い事があります。」

そんな会話から始まって、しばらく話したあと電話を切った。そして、珠希は出かける準備を始めていた。一

方、僕はその言葉に咄然としていた。

「何とかなるって、寺脇を殺した犯人がわかったということか？」

「ええ。」

「星河か？」

「おそらく違う。」

さらりと、とんでもない事を言う。

「ただ、まだ確証がない。それを確かめに行く。」

「確証って……。」

「悪いけど、現段階では話せないかな。」

珠希は短くそう言うと、ドアの方へ向かった。

「珠希！」

「そういうわけなんだ。私を信じて一緒に来てくれな
いかな？」

「お・・・おう。」

僕は呆気にとられて返事する。それを確認すると、

珠希は、

「じゃあ、行こうか。」

と言つて車を発進させた。

その夜、時刻は午後七時頃になるだろうか。お台場海浜公園の一角にスーツ姿の男が立っていた。僕と珠希である。近くに自由の女神が見えるが、この辺りは割と人通りの少ない場所であった。ただ、夜景はきれいだ。おそらく隠れたスポットになっているのだろう。

と、僕の背後から足音がした。僕が振り向く。どうやら珠希の目的の人物が立っていたようだ。

「警視である私を呼び出すとは、何事だね？遠山珠希
巡査。」

レインボーブリッジの光をバックに三人の人物が海岸で向かい合った。

やってきた人物は何の用だと言わんばかりに戸惑った表情をしている。

珠希は黙り込んだ。一方、相手はどうして自分がこん

などところに呼ばれたのかまったくわかっていないように、訝しげな表情をしている。恐ろしく長い沈黙がその場を支配していた。

だが、そのときは唐突に訪れた。

「……自首してくれ。」

不意に珠希が言った。いつもの珠希とは違う、緊張の張り詰めた声だ。相手は驚き、そして何の話かと尋ねた。

「わかつているだろうか？」

相手は再び黙り込んだ。

「数ヶ月前のバスジャック。犯人はやってもない殺人の罪で苦しんでいる。なんとも思わないのか？」

相手は答えない。珠希はゆつくりと、しかし断定するような口調で相手に告げた。

「寺脇貞裕を殺したのはあなたですね。」

「……何を根拠に？」

相手が口を開いた。

「あの事件は星河以外に不可能とされていた。そして、それはある部分においては正しい。三十秒以内にスタングレネードと機動隊をすり抜けナイフを奪って寺脇を殺すなんて普通の人間にはできない」

榊原は相手を見つめたまま続けた。

「だが、それをごく自然な動作でやり遂げられる人間がいる。」

「それは？」

「壁そのものだ。」

珠希は告げた。

「本来、容疑者の前に立ちはだかるはずだった機動隊という壁自身だよ。乗客に犯行ができないのは当然だ。何しろ犯人は外部から来た機動隊の人間だったんだからな。」

榊原は相手の名を告げた。

「そうでしょう？ 富野警視」

東京警視庁のSAS隊長・富野収一は榊原の顔を見な

がら黙って立っていた。

「あなたは私の事件の時に真実追及し私の恩人です。だからこうして自首を勧めに来ました。」

富野は榊原を見つめたままだ。激務でしわが寄ったスーツを着こみ、寒いのか薄手のコートを羽織っている富野は、どことなくやつれてビデオの突入時の映像より十歳は年を取ったかのように見えた。

「犯人が機動隊員ならすべてが納得いく。まず、自身が機動隊である以上、機動隊という壁はなくなる。それに元々犯人制圧のために突入したんだからナイフを奪っても何の不審もない。スタングレネードも訓練で慣れている。そして、何より星河を除いて被害者の一番近くにいた人間です。」

珠希は結論付けた。

「犯人である条件は富野警視にもしつかり当てはまるんだ。」

「だからなんだ？」

富野が口を開き、野太い声が響く。

「急に呼び出されたと思ったら、いきなりそんな話か。

どうして今になって珠希君にそんな事を言われなくてはならないのか理解に苦しむが……。あの事件は星河が犯人で決着がついているはずだ。俺が犯人である可能性より星河が犯人である可能性の方が高いと思うがな」

富野は反論を続ける。

「仮にその推理が正しくても、当てはまるのは俺だけじゃない。他の機動隊員や SAJ の隊員だって条件は満たす。それなのに何で俺なんだ？」

「あくまで否定するのか？」

「やっっていない以上は否定するね」

珠希はため息をついた。

「わかった。そっちがそのつもりなら根拠を話そう。

それに反論できなければ自首をしてほしい」

富野はそれには返事せず、懐から煙草を取り出すと

口にくわえて火をつけた。珠希は軽く首を振ると自分の考えを語り始めた。

「まず、この事件で犯人の可能性を満たすのはあなたか星河か他の機動隊員かのいずれかだ。このうち星河と他の機動隊員が犯人でないことを証明できれば、残るあなたが犯人ということになる。この論理は理解できるな？」

「それを証明できれば、の話だな。」

「証明してみせる。」

珠希はそう言って本格的な推理を始めた。

「まず星河の無実を晴らそう。突入の直前、星河は正面の窓から覗いていた警官に気が付いて、体ごと正面に向けた後、斜め後ろにいた人質の長尾にナイフを突き付けている。このとき、星河は二列目の通路にいた」

「それがどうした？」

「警察関係者なら長尾がどこに座っていたのか知っているだろう。前から三列目の星河から見れば左斜め後

ろの席だ。問題は、星河が右利きなら体を正面に向けたままで左斜め後ろに座る人質にナイフを突き付けるなどという芸当ができるかということだ。」

富野は一瞬考え込んでいたが、やがてハッと表情を少し。その表情を見ながら、珠希は推理を続ける。

「この動作をするにはナイフを左手で持たないとできない。バスジャック犯が気分で利き手と反対の手でナイフを持つとは考えられない上に、そんな事をする必要もない。つまり、星河は左利きだったと考えるべきだ。」

「ナイフを持った右手を交差させて長尾に突き付けていた可能性もある。」

富野が反論する。が、珠希は難なくそれを返した。

「その可能性はない。この直後、星河は右斜め前に座っていた倉木の座席を、ナイフを持っていた手とは反対の手で殴っている。あなたの主張が正しければ、星河は右手を交差させて左斜め後方の長尾にナイフを突

き付け、左手をさらに交差させて右斜め前の倉木の座席を殴るという不自然極まりない動作を行ったことになる。左手でナイフを持っていたと考える方が自然だろう。」

富野は黙り込んだ。レインボーブリッジの下を遊覧船がくぐっていくのがここからでもよく見えるが、二人はただお互いを睨みあっている。二人の間で無言の戦いが行われていた。やがて、再び珠希が口火を切った。

「ところが解剖記録を見てみると、寺脇は『被害者から見て左方向から斜めにナイフで心臓を刺された』ことになっている。被害者から見て左方向ということは、正面に立って刺した犯人から見れば右側から斜めにナイフを振り下ろしたことになる。つまり、犯人は右手でナイフを使用したということだ。しかし、さつき言ったように星河は左利きだ。殺人という重大な時にわざわざ力の入らない利き手と反対の手で殺すなどとい

うことをやる犯人はいない。つまり、殺人が右手で行われている以上、左利きの星河が犯人とは考えられない。」

「後ろから羽交い絞めにして、後方から正面を刺したとしたらどうだ。それなら左利きでも解剖記録の通りの刺し方になる」

富野が反論するが、珠希はひるまない。

「寺脇は最後尾の座席に座っていた。その殺し方をするにはわざわざ寺脇を立ち上がらせた後、後ろに回って羽交い絞めにする必要がある。SATや機動隊が突入してきている状況でそんな悠長なことは誰もしないだろう。私なら有無を言わず正面から刺す」

珠希は結論付けた。

「以上により、星河が殺人犯であるという可能性は抹消される。ここまではいいか」

富野はしぶしぶ頷いた。遊覧船が警笛を鳴らし、お台場のすぐそばを通り過ぎる。

「星河が犯人でない以上、殺人を起こせるのは突入した機動隊員だけだ。では、機動隊員の中の誰がやったのか。これは星河が犯人でないとわかった時点で判断できる」

珠希が推理の第二段階に移る。

「まず、犯人は最初から寺脇を狙っていた。これが前提だ。そうでなければこんなところで殺人を起こす人間はいない。また、犯人が機動隊だった場合、罪を逃れる唯一の方法は星河に罪を着せることだ。罪を着せられなかった場合、一番に疑われるのは機動隊だからな。以上二点を考えるに、犯行に必要な重大な条件が浮かんでくる。」

「それは？」

「これは星河が寺脇のすぐ近くにいないと成立しない犯罪である、ということだ。」

富野の顔が歪んだ。

「例えば星河が運転席の近くにいたところで突入され

たら、寺脇を殺してもどうやって星河に罪を着せられない。寺脇のいた場所に行けなかったということが星河にも当てはまってしまふからだ。この犯行は星河が寺脇のちょうど前に来た時に突入が決行されるという実に都合のいい条件が重なった時のみに可能ということだ。そして、こんな事は突入のタイミングを決められる人間でないといけない。」

榊原は富野を見据えた。

「そう、たった一人だけこの犯行を行えるタイミングを図れる人間がいる。突入の指示を出したSAT隊長自身だ。つまり、あのとき陣頭指揮をとっていた、富野警視、あなただけがあの犯行を行うことができた人間という事になる。そもそも話として、犯人が人質の前にいるというタイミングで突入が行われたこと自体がおかしい。こうした警察の突入作戦の場合、人質への安全を考慮して突入は最も犯人が人質から離れた瞬間に行われる。が、今回の突入はなぜか犯人が人質の目

の前にいる最悪のタイミングで行われた。この時点で不自然という他ない。あなたは星河が寺脇の前に来たタイミングを図って突入の指示を出し、まんまと殺人に成功した。だが、その代り機動隊長としてはあまりにも不自然な行動が残ってしまった。」

榊原は富野を睨んだ。

「何か反論はあるか？」

富野は黙って唇を噛んでいた。しばらくその状態が続く。やがて、富野は息を吐き、肩をすくめた。

「……降参だ。」

そう言うと、富野は榊原から視線をそらしてレインボーブリッジの方を見た。橋の向こうに見える東京タワーの灯りが東京湾を照らしている。

「ここまで理路整然と言われたら反論できるわけねえな。遠山珠希巡查あなたは、刑事に向いている。捜査課は、物凄い天才を配置したものだな。」

珠希は富野に近づいた。

「動機は何ですか？それだけがどうしてもわからないんです。」

「……もう二十年以上前の話になる」

富野は世間話でもするように話し始めた。

「俺は当時大学生だった。両親はいなくてねえ。高校生の妹と二人暮らしだった。その妹が、ある日自殺した。いや、警察は自殺と判断した。」

富野は淡々と続ける。

「だが、俺は納得しなかった。確かに新聞の切抜きで作られた遺書もあったし、当時あいつが進路で悩んでいたことも知っていた。だが、自殺なんて信じなかった。それには理由があつてな。発見者は俺だったんだが、自宅マンションに入る前にロビーで俺と同一年くらいの男が慌てて出ていくのを見ていた。」

富野の告白は佳境に入っていた。

「事件から数日して、俺はそいつの顔を思い出した。

以前、妹が付きまとわれていると言つて相談してきた

ストーカーの顔にそっくりだったんだ。妹が俺に相談してからばったり姿を見せなくなつて、そこから一年ほど経過していたから俺もすぐに思い出せなかった。

俺は妹がそいつに殺されたんだと確信した。だが、一度自殺とされた警察の判断は覆らなかった。証拠が俺の証言だけじゃあ当然だな。結局、事件は自殺として処理され捜査さえ行われなかった。」

富野は吸っていた煙草からうまそうに煙を吐く。榊原は黙つて話を聞いているだけだ。

「俺は決心したよ。警察が捜査しないなら自分で犯人を捕まえると。そこから俺は勉強して、妹の敵を取るために警察に入った。うまい具合に捜査一課に入り、俺は勤務の間を縫つてあの男を探そうとした。だが、名もわからん顔だけの男だ。いくら警察手帳の力をもつてしても全く手掛かりはつかめなかった。」

富野はいったん息をついた。すでに話し始めてから一時間はたつており、薄暗かった夜空が漆黑へと変化

していた。

「お前が警察を辞めた直後、俺も警備部の SAT に移動となった。そうならもう訓練の毎日だ。俺はもう半ば諦めていたんだ。十年以上調べて何も出てこなかったんだからな。だからあの時、バスの中に忘れもしないあいつの顔を見た時は心臓が止まるかと思った。」

富野が怒りを込めた声で吐き捨てる。

「寺脇がストーカーだったのか。」

「屈辱だったよ。妹を殺した男を俺は救出しないといけないんだ。仮に俺がやつを暴いても、とつくに時効が過ぎている。その時だよ。俺の頭に悪魔が囁いたのは。」

富野は声を荒げて言った。

「星河に罪を着せてやつを殺す。今思うと最低のことだと思うよ。だが、その時俺は夢中だった。星河があいつの前に立ったのを見て、俺は無我夢中で突入の号令をかけた。車内に入り、星河からナイフを奪うと、混乱

の中で縮こまっていたあいつの心臓にこの右手で鉄槌を下してやったんだ。」

富野は不意に声を鎮めた。

「あとでとんでもないことをしたと思った。だが、今さら後には引けなかった。俺にだって今は家族がいるんだ。殺人の時は無我夢中でそんなことまで考えていなかったが、こんな理由で殺人を犯した自分が捕まったりしたら、俺の家族はどうなるんだ？俺はひたすら罪を逃れることに全力を注いだ。いささか自分勝手な理屈だとは心の底では思っていたが、俺はそうするしかなかったんだ。」

富野はゆっくり煙草の煙を吐いた。吐いた煙はゆっくり暗闇の中に消えていく。

「まさか、お前にすべて暴かれるとは思わなかったがな。」

そう言い結ぶと、富野は珠希の方を見た。

「俺を捕まえるのか？」

「私は捜査0課の刑事ではないし、あなたは私の恩人だ。それに言っただけだ。自首してくれと。」

「俺がここで口封じのために、あなたを殺すとは考えなかったのか？」

富野が挑戦するように聞くが、珠希はゆっくり首を振る。

「私は警察官としてのあなたを信じてここに立っている。同僚として、恩人として、あなたがそんなくだらない事をするわけがないことはわかっているつもりだし、罪を悔いて自殺するようなやつでないこともわかっている。」

富野は自嘲気味に笑った。

「星河には悪かったと思っっている。刑事0課の段階ならまだ間に合うだろうな。」

「ああ。」

「……いいだろう。お前の言うように自首するよ。肩の荷が下りたような感じだ。」

「自首さえしてくれば、私は恩人であるあなたの事を信じて、妹さんの事件の捜査をする。そして、必ず殺人の証拠を見つけ出す。」

珠希は堂々と答えた。富野は珠希に背を向け、そのまま歩き出す。

「最後に一つだけ。やっぱり、珠希さんは刑事に向いている人間だよ。暴かれた私が言うのもあれだが、珠希さんは名刑事になる。」

そう言うと、富野は再び歩き始めた。富野が見えなくなっても、僕と珠希はしばらくそこに立ち尽くしていた。東京の夜景は、そんな榊原の影を砂浜に映し出していた。

次の日、☾をつける

『先ほど、警視庁警備部長・砂田紀之警視監が緊急記者会見を開き、五月に起きたバスジャック事件の際に発生した殺人事件に関し、機動隊に所属する警部が犯行を自供したということを明らかにしました。自供し

たのは警備部の富野収一警部。砂田警視監によると、今朝になって自首をしてきたということです。この事件は検察も判断しかねていた事件であり、自首と言う形での……』

「自首してくれたみたいだな。じゃあ、こっちも捜査しますか。」

「そうだね。今回も大江戸一家とヘルタースケルターの皆さんにご協力いただきます。」

「珠希さん、全力で協力させていただきます。」

大江戸一家の頭首である、黒田龍一郎を筆頭に、大江戸一家の皆さん、兄弟分の皆さん、ヘルタースケルターという暴走族の皆さん・・・計 200 人も協力してくれた。珠希は一体、どこでこんな権力を得たのだろうか？不思議だが、聞くのが怖いから黙っている。そして、週明けの月曜日。

「まさか渡した週明けに事件解決するとは。やるじゃないか、遠山夫婦。」

課長に褒められ、また光井さんも藤原さんも驚いていた。

「お前、結構やるじゃねーか。」

「本当に。随分すごい人材を渡してくれたものね。」

「いや、この事件はまだ終わっていません。課長、珠希巡査を呼んでもいいですか？珠希巡査と僕で、動機の事件を捜査しました。」

「分かった。珠希巡査を連れてきなさい。」

課長が、今度はどんなネタかとワクワクしていた。

「はい、珠希巡査入ってください。」

「はい」

ドアを開けると、もうすでに待機していた。

「捜査の結果、寺脇が富野警視の妹を殺害した事件が発覚しました。こちらをご覧ください。」

そう言っつて、バッグから大量の写真を出した。その写真は、富野警視の妹の写真だった。また、盗聴・盗撮もあった。

「寺脇はマンションに1人暮らしたため、遺品整理業者と協力して、遺品を整理しながら寺脇のストーカー殺人を調査しました。これで実証されます。更に、昔の映像を画像処理したこちらの映像をご覧ください。」

その映像には、寺脇がバックは持ってなく、包丁を持って団地に入ったのに、帰りには包丁が無い事が分かった。

「また、この事件後、寺脇はPTSDで入院しています。リングを剥いた時、看護師が誤って軽く指を切った際、発狂したという事より、血の色の赤や剥くのに使った包丁に強い恐怖感を持っていることが証明できます。」

そして、当時の診察の際の音声を手に入れました。そこには『僕は殺人した。僕は殺してしまった。僕が……』という音声が残っています。以上より、富野警視の妹は、ストーカー殺人である事が証明できます。裁判で論点になりそうなポイントを、捜査しました。」

「珠希巡査と遠山巡査部長は、1日でこれを捜査したのかい？」

「はい、協力者にも同意を得て捜査しました。」

課長は驚きで無言になったが、急に

「……これだけの捜査力となれば文句言えまい……。珠希巡査、刑事になりたいかい？」

と質問した。

「え？『この足では刑事にはなれない』って、言われたんですけど……なれるなら刑事になりたいです。」

「その発言を撤回する。遠山誠一郎警視長から話を聞いて、警察庁長官と警視総監と警察庁刑事局長、警視庁刑事部長と私で決めた。」

課長はデスクから人事部からの手紙を出し、珠希に渡した。

『遠山珠希巡査、警視庁刑事部捜査第0課に任命する。また、今回の事件解決のため、警部補へ昇進させる。』

「え！ええ！ありがとうございます。」

珠希は嬉し涙が止まらないようだ。すごく喜んでいった。

「というわけで、遠山洸太郎巡査部長、遠山珠希警部補の部下として、これからも事件の捜査よろしく。」

「分かりました。」

こうして、僕と珠希は警視庁刑事部捜査第0課の刑事となった。そして、僕の叶えなかったこと、珠希と一緒に捜査することができるようになった。

おまけ

その一ヶ月後、星何の判決が決まった。奥さんのための手術には莫大な費用がかかる件、都営バス会社の労働基準法違反の刑事裁判での有罪。更に、バスでも乗客にあまり恐怖心を与えてないことが、証言で得られた。なんでも「嫁の命がかかっているんだ。頼む、助けてくれ。決して、殺そうとか傷つけようとはしない。刃物もあてるかもしれないが、それは警察へのアピー

ルで、本当に誰も傷つけない。だから、どうかバスジャックを演じてくれ。」と、土下座したそうだった。その結果、懲役三年執行猶予五年という異例の判決が出た。裁判員裁判の新しい判決だな。さらに、朝刊を見てみると、『寺脇俊介氏、都営バス事件での自分の兄のストーカー殺人への疑いを星河氏にかけたお詫びに、星河花陽さんの心臓病で移植手術の代金を寄付。寺脇俊介氏は、企業界の革命児とも呼ばれ、日本有数の上場企業のトップの社長であり、その莫大な所持金から、寄付を行った模様。「兄の犯罪を犯した過去は、消せない事実です。しかし、未来に投資することは出来ません。星河花陽さんのための手術費用と使ってもらえれば光栄です。」と、述べた。まあ、命が救われたのならよいだろう。また、富野の件もストーカー殺人の立証により弁護士弁護もうまくいき、二か月後の富野の刑事裁判では、裁判員裁判で懲役三年執行猶予五年の新しい判決が生まれた。

あとがき

この作品は、僕と友人で作った作品を元に三年生劇の台本として作った、小説です。改めてみると、とても長いですね。鹿取君の『ツチノコ』の方が絶対良かったと感じています。鹿取君、素晴らしい原稿ありがとう。伝えたいメッセージは、真実を追求することの大切さ、

裁判員裁判の民意の反映、そして時効がなくなった事の大切さです。時効に関しては、二〇一〇年四月二十七日のニュースより、殺人など凶悪犯罪の公訴時効の廃止や延長を盛り込んだ改正刑事訴訟法が二十七日、衆院本会議で賛成多数で成立し、政府の持ち回り閣議を経て、異例の即日施行となった。時効が未完成の過去の事件にも適用される。時効廃止を待ち望んでいた被害者遺族らは、一様にスピード審理による即日施行を歓迎した。

法案の成立から公布・施行までは一週間程度かかる

のが通例だが、政府は「なるべくすき間が生まれないうように」（千葉景子法相）との観点から、即日公布を決める持ち回り閣議を実施。成立から約四時間後の午後五時半に官報の「特別号外」を発行し、異例の即日施行となった。その結果、一九九五年に発生し二十八日に時効を迎える見込みだった岡山県の夫婦殺害放火事件の時効が撤廃された。

警察庁によると、過去十五年間に起きた殺人や強盗殺人の未解決事件で現在時効が完成していないものは、九五年七月に東京都八王子市のスーパーで起きた女子高生らの射殺事件など約三七〇件（暴力団関連のものを除く）。いずれも時効廃止の対象となった。

改正刑事訴訟法は殺人や強盗殺人など、最高刑が死刑となる罪の時効（改正前二十五年）を撤廃。最高刑が無期懲役以下の人を死亡させた罪の時効も、原則として二倍に延長する。強姦致死罪は十五年から三十年に、傷害致死罪や危険運転致死罪は十年から二十年にそれ

ぞれ延長される。

本作品の富野のような、辛い思いをさせないためにも大切な法律の改正だと思い、また自分も刑事になったらこの作品のように、真実を究明し、人々を助ける刑事になりたいと思いました。

また、私の恩師は、足の障害を持って生まれました。足の障害に苦しむ方へ、少しでも勇気づけられたら幸いです。**乾**

論壇・批評

堀井塾

- 132 第一回
149 第二回
173 第三回

敗戦国の末路

日独を考える、過去・現在そして未来

彷徨える若者、アイデンティティ探求の旅

論壇 堀井塾第一回 敗戦国の末路

和敬塾乾寮に言論空間を立ち上げるべく、鈴木啓介とその先輩、堀井友貴が立ち上がった。ポストモダン批評に詳しい堀井は乾寮一の読書家で、その蔵書数は一千冊を超える。僕はその堀井図書館のユーザーであったが、ある時食堂で、僕らも読書会、批評空間を作ろうという話になった（こうしたなんでもない会話の中から新たな企画が生まれるのはまさに和敬塾の良さ！）。そこに、僕の子（※一）である神菌照尚を加え、堀井塾は誕生した。今回はゲストスピーカーとして神菌の子であり（同時に僕の孫である）、政治に関心のあ

堀井 友貴（乾寮第七期）
鈴木 啓介（乾寮第八期）
神菌 照尚（乾寮第九期）
池部 遼（乾寮第十期）

る池部遼を加えての第一回堀井塾の様子を文字起こしした。課題図書は橘玲の最新作、『朝日ぎらい』よりよ



『い世界のためのリベラル進化論』。今の日本の政治、保守とはリベラルとは何か、様々な視座から考えてみた。

政治・保守・リベラル

鈴木 ついに始まった第一回堀井塾！なんですけど、僕そんなに政治詳しくないんで、語るものが何もないっていう。

堀井 政治っていうか、思想の話とか、政治哲学とかの話だから。

神菌 リベラルとは何かとかですよね。

堀井 何かある？面白かったとか。

鈴木 そうですね、僕面白かったのは、リベラル政党の認識は高齢者と若者で大きく異なるっていうのが書いてあって、若者は、自民党をリベラルで共産党を保守的って考えてるのが、驚きましたけどね。

堀井 そういわれればそうなんだよな。

鈴木 そうなんですよね。やってることって、今は違いますけど、新自由主義とかリベラル、ネオリベラリズムっていうぐらい…。

堀井 安倍ちゃんの基盤がなんで強いのかって、若者に対しては、新自由主義的で、右翼の人たちには韓国とか中国に強めに言ってる。

神菌 右翼を取り込んでっていう。

堀井 そう。全方面に言ってるっていうのは、それはそうだなって。

鈴木 確かに。面白いですね。

堀井 池部はこれ読んでどう思った？俺は池部がどんな考えなのかもいまわからないんだけどさ。池部はネットウヨなん？どんな理由で何が嫌いなん？

池部 国会の中継をたまに見るんですけど、それとニュースで同じシーンを見ても、全く意味が違って見えるんですよ。同じところでも切り取り方で。

神菌 切り取り方？メディアに対する…。

池部 はい。メディアによってここまで情報を変えてんのかみたくない。それが、かなり自民党批判に聞こえるように切り取られてて。

鈴木 確かになあ。

池部 そこが気に食わんなあみたい。

鈴木 安倍政権は保守的っていうんですけど、それは経済じゃなくて、政治思想というか。

堀井 そうだね。この本で言うんやったら、コミュニタリアン右派（※二）ってことでしょ？

鈴木 そうですよ。

堀井 国内でなんで保守が強いのに、世界に出るとなんで保守は負けるのかっていうのとかね、面白かった。

鈴木 リベラルな人たちはグローバルに同じものだけど、コミュニタリアンは一国内だけだから、分化してるっていうやつですよ。

堀井 そうやねんなあ。普遍的なことをやろうとした

ら、この道徳感情（※三）で言ったら六つのうち三つか結びついてないっていう。右派の方が心を掴むのは当然だけど、それを、押し通そうとするとグローバルでは通用しないっていう。なんでかっていうとそのうち三つは内輪の論理みたいになるから。

無知のヴェール、リベラルの理想

堀井 ロールズの無知のヴェールの話わかる？

神菌 全く知らない状態から何かをやるっていうやつですよ？

堀井 そうそう。生まれる前の状態、どういう状態で生まれてくるのか分からないで、何を選択するかっていう思考実験で、この場合、最も恵まれない人たちが救われるような選択をしないといけないっていう。

神菌 理想っていうか。そうあるべきだとは思ってんですけど。なかなか生まれてくる前の状態っていうか、

ゼロにして考えるっていうのは…。

堀井 政策とかをゼロにして考えるって言うんでしょ？どう思う？

鈴木 そうすると、マイノリティの人たちに目が行くっていうのは分かりますけどね。難しいなあ。

堀井 リベラルが胡散臭いのはこの本に出てるように、やろうとすることがホンマに？って感じる。ホンマに言ってる？って。

神菌 理想的というか。現実的なんかなあって。

堀井 世界はどんどんリベラルになっていってるけどなあ。

神菌 男女全部一緒に国籍もなにもかも関係なく全部一緒にみたいな。

鈴木 そうだね。リベラルの最終的なところは普遍的な統一国家じゃないけど。

神菌 能力とかで判断されるみたいな。

鈴木 この本でも書いてありましたよね。潜在能力、ケ

イバビリティがすべて発揮できる状態が理想みたいな。

堀井 どれが理想なんかな。

アフアーマティブアクション、逆差別

鈴木 六個の二項対立で保守とリベラルで考え方が二極化するところ、例えば、機会の平等と結果の平等どっちがいいかみたいな単純な議論で一回やってみようか。

堀井 ああ。それは俺は機会の平等やなやつぱり。結果の平等っていうのはアフアーマティブアクションってことでしょ。アフアーマティブアクションってのは、黒人の方が恵まれてないから、とか、この州の人たちは学習環境が整ってないから、同じ試験を受けさせても、下駄をはかせる、点数を上増しするっていう。でもそれは一見不平等に見えるけど、結果の平等という観点から見ると実に平等。

鈴木 そうですね。でも結果の平等って果たして本当に平等なのかっていう。完全な平等ってあり得ないわけじゃないですか。その黒人の例だと、黒人をそういう風に扱って、結果として平等だけど、白人の人たちにとってそこは平等じゃないっていう。

堀井 そういう行き過ぎたりベラルに対して反動的に起こってきているのが、トランプ支持層。彼らは何も白人だけの国を作れって言うてるわけじゃなくて、俺たちだって苦しいんだっていう層がトランプっていうね。

右傾化するリベラル政党

鈴木 右傾化するリベラル政党っていうのが書いてあって、もはや保守ってなんなのか、そこからよくわかんなくなりましたね。

堀井 形骸化してるよな、言葉がもう。保守っていう言

葉が。本来の意味で言うとやっぱり、エドマント・バーグの人間の理性には限界があるから、ちよつとずつ変えていくことが、最も、いいんじゃないかっていう。人間の知能ですべてをコントロールできるっていう考えに対する、態度。主義とか思想じゃないってのが大事で。進歩主義に対する、ちよつと待てよみたいな態度。

保守が、今までやってきたことが、言葉だけが定着して、日本の保守は、言葉の形骸化してる場所はあつたよな。

鈴木 そうですね。

堀井 日本のリベラルって国家主義を嫌うやん。

鈴木 そうですよ。そもそもは国があつたうえで右とか左とかがあるはずなのに、日本の場合、日本を好きじゃない人たちが左翼っていうよくわからない状態がありますからね。

堀井 再分配するためには、国が絶対必要なわけよ、だから左翼と、ナシヨナリズムって相性がいいはずなの

よ。それなのに、戦争へのアレルギーだけで、愛国主義はクソって言うてるのはクソだと思っ。

鈴木 そうなると、左翼はないから自民党しか残って
いないっていう、僕なんか消去法でそれしかないって
思っちゃうんですよね。

堀井 日本の左派って、例えば上野千鶴子とか、内田樹
とかって、脱成長主義者なわけよ。日本は成熟社会だ
から、成長とかむりだから、もつと内面を…みたいな。

鈴木 なんかん人類補完計画（※四）みたいな話ですね
（笑）。

堀井 ホンマにそういうことしか言っていないで。安倍
に対する抵抗勢力としての経済政策がないから。

神菌 若者の安倍支持率はすごいですよ。

堀井 そりゃそうでしょ。

神菌 左翼は既得権益を守ろうと必死なのが、若者に
はウケませんよね。

鈴木 あとは、高齢者とか今の大人たち、既得権益を守

ろうとする層の人たちって、取り入れる情報が、新聞
だったり、**ゴ**だったりで、マスメディアが主流だった
と思う（※五）んですけど、今の若い人たちって、ネッ
トみたいな、右左色んな情報を取り入れてるから、池
部みたいに、メディアのおかしさに気付くつてのがあ
るんじゃないですかね。

ネットウヨとは

堀井 池部は安倍支持？

池部 そうですね。

堀井 どうして？

池部 実際にちゃんと結果を出してるつてのが一番で
すね。失業者の数が減ってたり、株価も跳ね上がって
たり。

神菌 外交は？

池部 外交もですね。このあいだもプーチンとかオバ

マちゃんと呼んで、話してたのが良かったと思います。
す。

堀井 池部は別にネトウヨじゃないよな。

鈴木 そうですね。でも中国と韓国は嫌いなんでしょ？

池部 まあハイ。震災の時に、死体が転がってるのを韓国の記者に写真とられて、サルの塩漬けって笑いのネタにされて、批判はもちろんな出たんですけど、それを称賛する声が多かったのが、この民族とは分かり合えないなあって思ってる。

堀井 歴史問題でってわけじゃないんだね。

鈴木 歴史問題でこじらせてる人はネトウヨですか？

堀井 ネットウヨの定義は、宮台とかの分析によると、満たされない自分のアイデンティティを満たすために、国家と同じになるっていう。

神菌 生まれながらに不安なんですよ。

鈴木 日本凄いてっていうのに自分を重ね合わせてる人

たちですよ。

堀井 そうそう。だからそのメンタリティだと思うねんけどなあ。

鈴木 ネットウヨの始まりとしては小林よしのりの『戦争論』がありますよね。その本棚にありますけど。

堀井 弱者利権に対する違和感がある人ともいえる。それはある？

池部 弱者利権ってどういう…？

堀井 例えば、日本の在日とかへの逆差別みたいな。弱い人たちが優遇されすぎてるっていう。だから朝鮮字校なんか潰せみたいな。

池部 そういうわけじゃないですね。

鈴木 そういうネットウヨのメンタリティって、失われた二十年があつて、経済がうまくまわってなくて、日本人が日本人としての誇りを失ってるってのもあるんですかね。

堀井 それはある程度あるかもしれないなあ。まあ後は

宮台が言うように共同体が機能してなくて、若者の感情の劣化が激しいからとか。でもそういうクズみたいなメンタリティのやつって一定数各国にいると思うよ。

鈴木 アメリカのKKKとかもそうですかね。

堀井 そうだと思うよ。自分たちがうまくいってないのを人のせいにするっていう同じ精神構造に見える。

それを、個人の問題として処理するか、もっとマクロな、経済として考えるかっていう。アメリカにそういうやつらが出てきたのは、グローバル化の波を一番被ったのは、白人の中間層なわけで。この時代に白人の平均寿命って短くなってんねんで、ヤバイやろ。

鈴木 アメリカはね、色々ヤバイ(笑)

堀井 やっぱ経済は大事ですよ。

神菌 お金あったら安定しますからね。不満もなくなるというか。

鈴木 あとは、昔って、それこそ高度経済成長のときと違って、明日は今日よりよくなるっていうのが生きる

希望になってたからよかったけど。

堀井 そうだね。だからさっきの左派の経済論はもう今後絶望するしかないっていう。

神菌 そうなると、トランプみたいなアメリカファーストっていう人が出てきたら支持したくなりますよね。

敗戦国の末路

堀井 安倍のやる経済政策をリフレ派っていうんだけど、量的緩和みたいな緩やかなインフレを政府の介入によって行うっていう。

鈴木 だから安倍政権って実は新自由主義からほど遠くて、大きな政府的な政策なんですよ。財政拡大、量的緩和。

堀井 でもそれは今ちゃんと数字で出てるから。日銀の今までの政策が間違ってた。日銀が今まで悪かった。あとはアメリカからの圧力もあったんかなって思うけ

どね。バブルの時って、地価と株価が暴騰して、対して、消費者物価指数は横ばいだったのね。で、プラザ合意の後に、金融緩和したんよ。円高ドル安にすると日本の輸出が不利になるから、その対策として。で、その余ったお金が、投資する先がないから、土地とか、株とかに全部注がれていった。でも、消費者物価指数は上がってないから株とか土地に規制かけなきゃいけないかった。でも、八七年の段階で、割と政府と日銀は気づいてたらしいんだけど、その時、アメリカの銀行はクラッシュしてて、日本がそこで金利を引き上げてしまつたら、そっちに日本のお金が流れてくるから、それはやめてくれと。金利上げないってことを決めてたら、ますます投資が拡大するやん。土地とか株に。それでバブルになったと。

鈴木 へえ。アメリカに良いようにやられてるんですね。僕たちは。

堀井 それは本当にそう思う。日本特有の共同体とか、

国体を無理やり壊されて。日本最初は経済的な力を付ける予定なかったけど、共産主義の防壁として、発展させられて。それでいらなくなつたら捨てられるっていう。

鈴木 これが敗戦国の末路かあ……。悲しいなあ。話変わりますけど、色んなサブカル批評の本読んでると、虚構の成熟っていう言葉が随所に出てきて、それを表したアニメって結構あるみたいなんですよね。ネオテニ—ともいわれますけど。アメリカっていう外部の圧力によって無理やり幼児なまま成熟させられて、でも結局アメリカっていう存在の前に挫折するしかない。完全な大人になれないみたいな。

堀井 例えばどういう作品がある？

鈴木 ガンダムなんてまさしくそうで、モビルスーツっていう虚構を着ることによって、強くなることを表してるんですよね。

堀井 へえ、そういう裏テーマがあるんだ。

神菌 『動物化するポストモダン』にも書いてありましたね。

鈴木 あれ。そうだったっけ。この間読んだ『母性のデリストピア』にも書いてありましたね。

堀井 ああ。宇野さんね。なるほどね。

努力しか人を差別化する方法はない…？

堀井 知識社会になるやん。で、この本にもその定義上、知識のあるものが優位になる社会って書いてあって、現代社会が抱える問題として、知識社会からの脱落ってのが挙げられ、仕事や恋愛での自己実現が達成されず、たった一つのアイデンティティしか持てなくなることであると。これがまさしくネットウヨやろ？

神菌 アイデンティティが困っている。

鈴木 まあこれは宮台の言う「終わりなき日常」ですよ。モテない人は永遠にモテなくて、仕事できない人

は永遠に仕事ができないっていう。

堀井 加えて感情の劣化やんな。たった一つのアイデンティティしか持てない人が感情が劣化した人ってことでしょ。彼らのアイデンティティは極めて脆弱なので、それを侵すと感じられる人には激烈な反応を示す。

鈴木 エヴァンゲリオンですね。ゴフィールド(※六)を侵す人に拒絶するっていう。

堀井 アイデンティティという病から生まれるグロテスクな愛と正義こそが、右傾化と呼ばれるものの正体なのだ。つてその通りやな。じゃあもし、世界が機会の平等になったとして、機会が平等化されたら、努力するかしないかしかないやん。その努力できる能力っていうのは、生得的なのか。

鈴木 僕は結構生得的だと思いますね。

堀井 でもそれを言ったらなんの平等もクソもないけどな。生まれながらに何もかも決まってるよって言う話に結局なるよ。

鈴木 ああ。ガンダムSEEDみたいな。

堀井 それはわからんけど（一同笑い）。だから結局行きつく先は、最善だけど最高ではないみたいな解じゃない？その努力によってっていうのが、一番人によってコントロールできるやん。肌の色とか変えられないけど、リベラルな社会っていうのは、努力が、人によって差があるものっていうことを認められない社会なわけよ。努力だけは誰にでも平等にできるっていう。それはそれで残酷だと思うけど、それが一番ベターなかなっていう。

鈴木 ああ、そういうのゼミでやってるんですけど、女性って、賃金格差とかで搾取されることが多いけど、新自由主義的な考えだと、努力すれば上にいけるんだから、っていう考えのもと、シエリル・サンドバーグ（※七）みたいに活躍してる人が実際にいて、そういう人たちを見せつけることによって、ああ、貧しいのは自分が努力してないからなんだって思わせる構造が

あるんですよ。

堀井 結局自己責任論なんやな。自己責任ってどこまで言えるのかっていう問題もあるし。徹底するとね、生まれた瞬間に親から引きはがして、平等に施設で育ててっていう考えになるし。

神菌 あの漫画（約束のネバーランド）みたいに。

鈴木 そうだね。サヴァイヴアル社会（※八）。宇野も言ってたけど。

堀井 そうした上で、遺伝子の差とかもあるんだったら、突っ込むべきとかになるからな。

神菌 人間が人間でなくなりそうですかね。

堀井 でもそうしないと思想の頂点とか理想には近づけないっていう。でも一回そこまで行くしかなかない？

鈴木 でもそこまで振れてるんじゃないですかね。能力主義というか。もつと極限までってことですか？

堀井 そう。新卒一括採用とかもなくさないとそれは

達成できないよ。そういうのって身分制で逆転不可能なものだから。そういうのを努力でなんとかなるっていう建前のもと、実際の制度としては、そうはなっていないから、既得権を一回全部ぶっ壊すとかね。

鈴木 ああ、完全な能力主義みたいな。でもそういうと、子供の能力って親の資本に依存するところ大きいじゃないですか。

堀井 あとは遺伝な。

鈴木 まあ遺伝はどうにもならないですけど、文化資本で言ったら平等じゃないから、それを是正する制度を作るべきとかそういうことですか？

堀井 具体的に言うって？

鈴木 具体的に言うと、貧しいところの子供手当てめっちゃ増やすとか。

堀井 子供には与えたらいいと思うけどな。

神菌 センター試験って廃止されるじゃないですか。

学校で年に何回か試験を実施して、その点数で大学を

決められるっていうのに変わるんですけど。文科省は格差をなくそうって目論見でやってるらしいんですけど、でもそれって逆効果で、私立の先に勉強できるところがいい点数取りやすいので。

堀井 努力でどうにでもなると思うけどな。どこに生まれても。

鈴木 日本においてだったらそうじゃないですか。

堀井 日本なら間違いなくそうだと思うわ。アメリカとかよりも。アメリカとか大学めっちゃお金かかるし。

神菌 努力の仕方がわからないってのもあると思いますけどね。

堀井 にしても努力が一番平等じゃないかなと思うけどね。

鈴木 他にないですかからね。

堀井 それしかない。

神菌 時間はみんな平等ですからね。

堀井 圧倒的な努力は多少の能力差を逆転するから。

鈴木 圧倒的な努力による能力主義とはちがいますけれど、ガンダムSEED(※九)で描かれてる世界ってそう
で、要は徹底的な遺伝子能力主義なんですよ。遺伝子
を組み替えた人たちが圧倒的に優位な世の中で、越え
られない能力差となっている。作中でデステイニープ
ラン(※十)って言われるんですけど、遺伝子組み替え
ていいけど、生まれた瞬間に遺伝子によって職業が決
められる。君は自然とこういう風に努力するからって。
だから努力の有無もすべて遺伝子依存で、そういう意
味で遺伝子至上主義的なんですけど。親のコネとかで
不正に職に就く人たちがいて、能力のある人が正しく
評価されない、リベラルの言うケイパビリティみたい
なものが発揮されない状態を変えようとする人たちと、
その反対派の戦争っていう構図。面白いのが、主人公
たちは遺伝子が組み換えられた圧倒的な天才なんです
けど、今のままの遺伝子至上主義の不平等の世界でい
いんだみたいなことを平気で言っちゃう。既得権益守

るようなエゴしか言わないっていうね。オタクトーク
になっちゃいましたけど。

堀井 ガタカ(※十二)っていう映画も同じやな。遺伝
子によって全部決められるんだけど、主人公は遺伝子
がよくなかった。そこで、遺伝子めちやくちや優れて
るけど交通事故で半身不随になったっていう、何でも
できるけど何にもできないみたいな人の戸籍をパクっ
て、その後めちやくちや努力して宇宙飛行士になるって
いう話なんだよね。努力すればイケるみたいなメッセー
ジなんかな。

鈴木 じゃ努力するしかないってことですか、第一回
の結論は。

堀井 そやな。まずは努力が正当に報われる社会を作
ること。努力だけが指標になる世界はそれはそれで苦
しいけど、今の世界よりは全然いいんじゃないかな。

最後に

堀井 さっきの話に戻るけど、戦後処理の話で日本とドイツがどう違うのかって気になるけどなあ。

神菌 確かにドイツと日本って全然違いますからね。

同じ敗戦国としても。まあイタリヤは別として。

鈴木 ドイツどうなん？俺全然知らないんだけど。

神菌 日本とドイツの違いを慰安婦問題で知ってるんですけど、日本は、それを問題としてとらえずに、解決を先送りにして、グローバル化が起きた時に非難されてきたじゃないですか。ドイツは、敗戦が決まったと同時に、各国から、それを主張する人たち（被害者）を集めて、これ以上は認めませんよってしたんですよ。早い段階でラインを決めてお金を払ったんですよ。日独には他にも軍隊とかの差もありますし。

堀井 ドイツの軍ってどうなってるんだらう。

鈴木 伊藤光（乾寮三年、学習院大学文学部ドイツ語圏

文化学科で軍事マニア）が詳しいんじゃないですか？

次回伊藤ゲストでそれをテーマにやりますか？

堀井 いいね。じゃ次回はそうしよう。

第二回に続く…。

平成三十年六月二十日 於、鈴木部屋

構成者、鈴木啓介

一、和敬塾では一学年上の先輩が一人チューターという形で付き、生活が慣れるまでその世話をする。そしてその関係を親子と呼ぶ。

二、コミュニタリアン右派とは、楠玲によると、国家を唯一の共同体とする思想のことである。日本においては、日本古来（とされる）伝統を重んじ武士道など日本人の美德を説く（そのさらに右には「鬼子」としてのネトウヨがいる）。日本は歴史的に「個人」よりも「世間」が重視されてきたので、「自己責任によって自由に生きる個人」を基礎とした欧米型のリベリズムは浸透せず、「リベラル」と呼ばれる人々の多くはコミュニタリアン左派にあたる。

三、六つの道徳感情とは、楠玲によると、以下になる。

- ①〈ケア／危害〉子供（家族）を保護しケアする。弱者を守る。
- ②〈公正／欺瞞〉協力する者に報い、不正を働くものを罰する。
- ③〈忠誠／背信〉共同体の結束を高める。仲間意識。愛国心。
- ④〈権威／転覆〉階層の中で（上位や下位の者と）有益な関係を結ぶ。支配と服従。
- ⑤〈神聖／墮落〉不浄なものを避け、精神や身体を清浄

に保つ。宗教感情。

⑥〈自由／抑圧〉自由と私的所有権を尊重する。この六つの道徳基盤は人間の本性から生じるが、その受け止め方は右派（保守派）と左派（リベラル）で大きく異なる。アメリカの道徳心理学者ジョン・サン・ハイトによると、このうちの〈忠誠／背信〉〈権威／転覆〉〈神聖／墮落〉の三つの道徳基盤は保守派（共同体主義者）にあつてリベラルにはないという。

四、

人類補完計画とは、ミアニメ新世紀エヴァンゲリオンに登場する用語。知恵の実しか持たず出来損ないの群体として生き詰まった人類を、生命の実と知恵の実の二つの実を持つ完全な単体生物へと人工進化させる計画。欠けた心の補完、全ての魂をひとつにすることによって行われる。

五、

この文章を編集している最中、産経新聞よりこんな記事が出た。
麻生太郎副総理兼財務相は24日、新潟県新発田市で講演し、昨年の衆院選に関し、30代前半までの若い有権者層で自民党の得票率が高かったとした上で「一番新聞を読まない世代だ。読まない人は全部自民党（の支持）だ」と述べた。若年層の支持動向も考慮して選挙戦略を考えるべきだと訴える中、安倍晋三政

権への批判が目立つ新聞報道への不満を漏らした発言とみられる。麻生氏は「新聞（の購読者増）に協力なんかしない方がいいよ。新聞販売店の人には悪いけど、つくづくそう思った」とも語った。

六、A.T.フィールドとは、新世紀エヴァンゲリオンに登場する用語。全ての生命が自らを形成するべく持っている自我境界、排他的精神領域であり、人間は自らの肉体を形成し個体を維持する程度の強さしか持たないが、使徒やエヴァンゲリオンはそこから更に防御壁（バリアー）の一種として展開できるほどの強力なA.T.フィールドを持つ。監督の庵野秀明は書籍『スキズ・エヴァンゲリオン』の対談で「A.T.フィールドは心の壁のようなもの」と語っており、実際に劇中でも渚カヲルがA.T.フィールドのことを「心の壁」と称していた。原動力はリビドー（生、性の欲望）であるとされる。（wikipedia 参照）

七、シエリル・サンドバーグとは、Facebook 初の女性役員であり、現 Facebook 最高執行責任者。

八、サヴァイヴアル社会とは、宇野常寛の言う決断主義のことである。一九九〇年代のセカイ系的な引きこもりではなく、いわば社会にサヴァイヴしなければならぬというゼロ年代の感性のことである。

九、機動戦士ガンダムSEEDとは、二〇〇二年に放送されたガンダムシリーズの一作品。「新世紀（21世紀）のファーストガンダム」を目指し作成された。

十、Destiny Planとは、アニメ『機動戦士ガンダムSEED DESTINY』機動戦士ガンダムSEEDの正統統編）に登場する架空の社会構想。Destiny Planの施行下ではナチュラル（自然妊娠で生まれた人間）、コーディネイター（遺伝子操作により優れた知能、外見を持つ人間）を問わず全人類の遺伝子を探集、解析し、各自の適正職業が選択される。このシステムは基本的に強制であり、職業選択において自由意志は存在しない。プラン導入に伴う問題はいくつ指摘されている。遺伝子とひとくくりにしても、生まれたときから発現している遺伝子と、生まれた時点では発現していない潜在的な遺伝子の二種類が存在し、後者の遺伝子は本人を取り巻く環境や本人の生活スタイルによって発現するかが決まってくる。例えば遺伝子上はスポーツ選手の適性が潜在的にあつたとしても、適切な食事や運動ができない環境ではその能力を発揮できない。仮にプランの導入によって適切な環境の提供が確約されたとしても、そういった潜在的な遺伝子が確実に発現するとも限らない。（wikipedia 参照）

十一、ガタカとは、一九九七年のアメリカのSF映画。遺伝子操作により、優れた知能と体力と外見を持った「適正者」が数多く存在する近未来。知力体力に非常に優れる「適正者」たちは当然、教育課程においても、社会においても優位だった。一方、自然妊娠で生まれた「不適正者」たちは「適正者」に劣る存在だった。両者の間には社会レベルでも個人レベルでも大きな隔たりがあった。主人公ヴァインセントは、両親の軽はずみな性交渉により「不適正者」として産まれた。そんなヴァインセントが小さな胸に抱いた夢は宇宙飛行士になることだった。しかし、宇宙飛行士は「適正者」のみに許された仕事で、「不適正者」には夢のまた夢、なれる可能性など少しもなかった。原題「Gattaca」のクレジットで強調されるGとAとTとCは、DNAの基本塩基である guanine (グアニン)・adenine (アデニン)・thymine (チミン)・cytosine (シトシン)の頭文字である(wikipedia参照)。

論壇 堀井塾第二回 日独を考える、過去・現在そして未来

堀井 友貴(乾寮第七期)
鈴木 啓介(乾寮第八期)
神蘭 照尚(乾寮第九期)
伊藤 光(乾寮第八期)

第一回は橘玲作の『朝日ざらい よりよい世界のた
めのリベラル進化論』を課題図書とし、一時間に及ぶ
議論を行った。そこで、日本は戦後七〇年を越えなが
ら、未だ敗戦を引きずり、未成熟のまま発達させられ
たネオテニの存在であり、その延長線上に現在の日
本がある、という意見が挙げられた。確かに日本はア
メリカの圧力を様々な形で受けて成熟させられ、それ
による問題は多く残っている。そこで今回は、同じ敗
戦国としての歴史を持つドイツを比較対象とし、ふた
つの戦後を考えることで、日本の未来を考えていくこ

とにした。課題図書は、熊谷徹の『日本とドイツふたつ



の「戦後』に設定した。ゲストとして、乾寮三年で学習院大学文学部ドイツ語圏文化学科在籍、自衛隊予備自衛官補でもある伊藤光を招いた。

ドイツと日本の過去を考える

鈴木 じゃ、第二回やっていきましょう。まず読んだ全体的な感想から言っていきますか。堀井さんから学年降順で。

堀井 過去との対話の話が面白かったかな。歴史リスキの話とか。ドイツはこんなに反省してるのに日本は…みたいな。でもそれは日本とドイツが同じ敗戦国でも背景が違うから。そこをもっと掘り下げないとわからないかなあとは思った。確かにそうはそうなんだけど、外交の現場的に、そうできなかった理由とか、背景とか、もうちょっと勉強しないと、なんか日本はち

やんと謝ってないからクソだみたいな風潮はよくないかなと。

鈴木 単純比較できないですからね。

堀井 そうだね。これだけだと、ちよつとなんとも言いづらいかかと。

神菌 作者も書いてましたけどね、百パーセント当てはまることはないけどみたいな。

堀井 姿勢は見習ってもいいんじゃないかなっていうでも普通にびっくりしたけどね。七二%も殺してたんユダヤ人。ヤバくない？六百万つて。

神菌 ああ。

堀井 でもその後すぐ六〇〇万です！ハイ終わり。つてそういう感じ(※一)で物事を進めるのは良いとは思った。だからこそ前に進めるといふ。

鈴木 確かにそうですね。じゃあ次、伊藤。

伊藤 僕は読んで色々思ったんですけど、理論的に考えると、ドイツの方がいいのかなって。ドイツかぶ

れしててなのかもしれないですけど（笑）。実際には、労働一つとってみても、日本は長時間で給料も少なくても、でも逆に言う日本人は優しいからなかなかクビにはならないですよ。っていうのを考えると、どっちがいいのかなって。

堀井 それは個人主義が徹底してるのかどうかってとこやな。戦争責任の追及の仕方とかも（※二）。

伊藤 戦争責任はサンフランシスコ条約とかも絡んでくるんで。

堀井 なるほどなるほど。ちよつと勉強不足やなあ。これだけじゃなんとも言えない。

鈴木 そうですね。僕もこれだけで判断するのは難しいなとは思いました。でも僕は読んで結構腹が立ちましたけどね。

伊藤 ああわかる。そうなんだけどみたいなの。

鈴木 そう。

堀井 ちよつとリベラルすぎるといふか。理想主義す

ぎるといふか。実際の現場は…みたいなのは思った。

神菌 ドイツからずつと見てる感じがするんで。

鈴木 言いたいことは分かるけど、それが日本に当てはめられなかったのは、色々理由があるわけだから。

神菌 その理由が知りたかったですけどね。

鈴木 そうだね。

堀井 日本はなんでそこ（日本に残っていて、ドイツに残っていない歴史問題の解決）ができなかったのかっていうのがね。個人主義が徹底してなかったっていうのは大きかったんじゃないかな。

伊藤 一つそうですね。あとサンフランシスコ条約で、アメリカが保障をする代わりに、日本に対しての請求は全て取り消せっていうのが盛り込まれてたんですよ。あとはソ連とかとの兼ね合いで、日本から取り立てるんじゃないかって、日本を支援していこうっていう形になったんですよ。

堀井 なるほどね。復興させてそこで返してもらおう

みたいな感じ。

伊藤 そうです、ハイ。だから戦後はまあ ODA とか、発展してからはそういった形で払ってるんですよ。

鈴木 へえ。

伊藤 ドイツはどうだったんだろう。日本だと結局、アメリカが黙れって言って他を黙らせましたけど、ドイツはそういうのがなかったのか、あるいは隣にフランスもいましたし、フランスはさすがにアメリカが言ってるような国じゃないんで、なので謝らざるを得なかったのかなっていうのはありますね。

鈴木 さすが詳しい。神菌はどうだった？

神菌 僕は読んでてびっくりすることが多かったですね。例えばドイツがそこまで移民に対して寛容だったのかとか、戦争問題で国民全体が悪いとかいう話はきっぱり断つてるとか。結構きっぱりしてるんだなあって。さっきの数字とかもそうですけど、六〇〇万人なら六〇〇万人でいいって。日本と韓国とか、日本と中

国とかの関係を作者は木を見て森を見ずって表現してましたけど。

鈴木 確かにね。その数字が大事なんじゃないやなくて、虐殺したっていう事実が大事だからね。

神菌 それはまあそうだなあと。

堀井 それはまあそうなんだけど、じゃあなんで日本はそれができなかったのかっていうとわかんないよね。

鈴木 そもそも右翼の人たちが言うように、虐殺したっていう事実がそこから怪しいんじゃないですか。アウシュビッツみたいな施設が残ってるわけでもなくて。

伊藤 でも僕は、日本人が中国人から略奪をしたとか、殺したとかいうことが全くなかった、っていうのは絶対にないと思うんですよ。何かしら殺されてはいるんですよ。だから僕としては結構、熊谷さん（作者）に賛成で、人数よりもまずそこを謝るべきじゃないかっていうのは考えてます。

神菌 もう遅い気はしますけどね。

堀井 そうなんだよなあ。

神菌 そういうこと急にやっても国民がそれに賛同するわけでもなく。

伊藤 中国政府は多分対応を変えることはないでしょうね。

朝日・産経、対してドイツの新聞

神菌 朝日のねつ造の話(※三)も出てたじゃないですか。あれはまあそうだなあとは思いました。あれはよくなかったですよ。

鈴木 まあね。やつぱり朝日クソつていう。

伊藤 産経もなんかねえ。

鈴木 思うことある？

伊藤 産経新聞に昔自衛隊の兵器すげえつてのが載つてて。実際に見てみると輸送機を何とかキラミみたいに言つて、輸送機そこ誉めるの？みたいな。そうい

うテキトーな記事が結構あつたりするんでまあ。

堀井 ドイツは新聞の層が分かれてるつて話もあつたよな。

神菌 凄いなあと思いました。高級紙とか、一般大衆向けの、とか。日本でもあればと。

ナチスの反省、中央集権と地方分権

堀井 文化がやつぱり違うんかなあ。いい悪いは別にして、ドイツはやつぱり西洋やなど。近代化が徹底してるつていう。個人主義が徹底してるつてところが。

伊藤 それこそ、都市一個取つてみても、日本だつたら全部東京にあるじゃないですか。で新幹線も全部東京中心で、人口もまあみんな東京に来て、でそうすると過疎化だなんだつて言ってますけど。この本でも地方企業がいっぱいあるつて言ってますけど、確かベルリンには主要企業つて、ほとんどないとかつていう資

料があるらしくて。あとまあドイツ行っても思うんですけど、日本って田舎は電車ほとんど通らないじゃないですか。でもドイツってそれなりの本教通るんですよ。よっぽどの田舎は別として。

堀井 それは、一局集中したことが、ナチスに中央集権やりすぎてっていう反省があつてのことなの？

伊藤 それもありますし、逆にスイスみたいなのだと、上に中央が来るのを嫌うので、だからドイツ以上に地方分権にして、法律も州ごとに違つて、全部直接民主制で決めるから選挙が頻繁にあるみたいな国もあります。

神菌 書いてありましたよね。ドイツは日本でいう県ごとに力があるつて。

伊藤 そうそう。ドイツも州ごとに教育があつて、スイスも県ごとに教育があるから、フランス語圏とドイツ語圏でそれぞれ教育委員会みたいなのが集まつて、カリキュラムを決めたりして。でドイツ語とフランス

語を何年から学ぶつて言うので色々揉めてるみたいですよ。ドイツ語圏で今までは何年からフランス語をやつてたけどこれからはグローバル社会だから英語にするとか言い出して、フランス語圏がふざけんつて言つて喧嘩になつて。スイスではそんな感じですよ。

ドイツの軍隊、軍の空気

伊藤 軍隊はまず全然日本と違つて、どっちもやつぱり戦争負けましたから、国民は、軍隊は……つてなりましたけど、その時日本はどうしたかつていうと、今みたいな志願制にして、そうすると、当時高度経済成長期ですから、自衛隊の広報官があつちこち走り回つて、みんな民間企業に流れますから。その中で頑張つて人を獲得してきたつていう歴史があるんですよ。ドイツは逆に、誰も来ないから徴兵制にしようつて言つて徴兵制になつたんですよ。

堀井 今は？

伊藤 今はなくなりましたけど。

堀井 軍隊の位置づけとしては、一回日本は完全に戦争のできない国にしようとして、朝鮮戦争する前は自衛隊もなかったやんか。そういう感じで言うと、西ドイツはどうだったん？

伊藤 ドイツも最初そんな感じだったと思います。でも日本より先に国際平和の方に舵を切って、実際アフガニスタンの方で活動していたと思います。

堀井 それはどういう論理でドイツは軍隊を持つことに成功したの？

伊藤 ドイツもできた経緯は日本と同じでロシアに対してつていう。

堀井 ああ、そうなんや。やつば反共なんや。

伊藤 日本も今はPKOとかに参加するようになったじゃないですか。詳しい経緯は僕もそんなに知らないですけど、日本より早く国際貢献に活躍していたのは確

かですな。

堀井 憲法は？ドイツの。日本は戦後大日本帝国憲法を完全に無くして、アメリカに書き換えられた。だから、アメリカの民主主義の思想がふんだんに盛り込まれてると思うんだけど、それで言うとドイツはどうなってるん？

伊藤 ドイツは憲法を基本法って言うんですけど、ドイツは軍じゃないって言ったことがあって、確かにその通りで、Bundeswehr っていうんですけど、これって、Bundesが連邦で、wehr っていうのは消防隊とかの隊なんですよな。

堀井 警察予備隊的な？

伊藤 本場にそうです。自衛隊と同じで連邦隊なんですよ。何か立场上あるのかなとは思ってますけど。

堀井 日本は割かしアメリカの圧力で、世界のどこの国もアメリカのわがままに付き合わされてると思うんですけど、日本は中でも自立しきれてないかなと思っ

て、ドイツと違って戦後処理がどういう点で違って、ドイツは自立して色々やってるイメージだから。

伊藤 基地問題とかでも、ドイツは割とこの土地は俺らのものだみたいな。ドイツの方が基地問題には口出して。

鈴木 実際日本だけですよね、タダで国内の領土貸してるってのは。

堀井 なんでそう、日本はしたて下手に出てるんだろうか。負けたのはドイツと一緒に。条件というか、敗戦国という点では。舐められてるの？

伊藤 舐められてるってのは間違いなくあると思います。

鈴木 黄色人種ってのもあるんですかね？

堀井 ドイツはアメリカだけじゃなくロシアとかいろんなところにボコされたから、アメリカに徹底的にやられたっていう意識がないんですよ。

堀井 ああなるほどね。

鈴木 なるほどなるほど。そうだね、確かに原爆も落とされた日本と違う。

堀井 日本は、アメリカに完全に染められたけど、ドイツは、いろんなところにやられたから、アメリカ一色に染まりきらずにみたいな。

伊藤 東ドイツは、ソ連に染められて、だからベルリンにあるロシア大使館はくっそでかいんですよ。

堀井 東ドイツって今も栄えてないの？あんまり。

伊藤 やっぱり格差はあるみたいですよ。

堀井 そうなんや。

鈴木 戦後の戦争責任の話はどうみましたか？

堀井 軍の空気がそうだったから（逆らえなかったから）、戦争当時に罪を犯した人をそこまで責めるのはかわいそうだ、みたいな論調が日本ではあるけど、ドイツは、そこでちゃんと見えなかったらその個人が悪いみたいな。空気（※四）がこうだったからっていうのが日本はまだやっぱり強い。個人主義が徹底してると思

う。

神齒 天皇を残したつてことに関して言うと、日本を支配しやすかったから残したつていうのがありますよね。

堀井 さっきのサンフランシスコの話をもう少し教えて。

伊藤 サンフランシスコ条約に反対して、フィリピンかどつかの国がふざけんなつて言つたらしいんですけど、でもまあアメリカには逆らえないので、結局アメリカが補償する代わりに日本に対する補償はなしで、サンフランシスコ条約前までは、アメリカも日本のコンピナート壊してこの鉄くずを東南アジアに待つてけつていつて結構潰されたらしいんですけど、でもサンフランシスコ以降は、対ソの砦にするために、残つてるものは取り壊さず、むしろ日本にお金を与えて工業化していつたつていう話があります。ドイツはどうだつたんでしょね。西にはお金が入つてたはずなんで

すけど。周辺国の違いなんですかね。対して東ドイツは共産国なんで、謝るとか考えなかつたみたいなんですけど、でもベルリンにホロコースト記念碑つていうのがあるんですよ。あれは東ドイツの知識人が悼むものを作ろうつて言い始めて、当然議論はたくさんあつたんですけど、結局作られて、今もありますね。

貫くドイツ、迷える日本

伊藤 韓国つて戦後は朴正熙とか、軍政権だったじゃないですか。軍政権としては北朝鮮と対峙するためにはやつぱり経済援助が欲しいところなわけですよ。でそうなると日本からも支援を得たいと。そうなると軍政権からすると日本に反発する勢力を抑え込んで、日本とは仲良くやろうとするわけですよ。だから今日本の悪口を言つている人たちつて、軍政権下ではむしろ何も声を上げられなかつた人達なんですよ。日

本にとつてははずつと言われてるような気がするけど、彼らにとつては最近である。だから、そういう外からの非難がなかった状況だから、日本も謝らなくていいよねっていう空気だったんですよ。

神菌 あと中国は独裁だったんで日本としてもやりづらかったと思うんですよ。地理的なものつてだいぶ大きいと思うんですよ。ドイツは陸続きつてのもあると思うんですけど、モノの流通も含め、周りの国との信頼関係の復興を急ぎたかつたつてのがあるんじゃないでしょうか。

堀井 なるほどね。あとは、日本がやったことより、ドイツのやったこと、ユダヤ人虐殺とか、がこれはさすがにやりすぎたみたいな空気になったんじゃない？

神菌 工場みたいな作つて殺すとかヤバイですよ。堀井 そうそうそう。ドイツ人の勤勉さが裏目に出たとか言つて。振り切つたが故に反省できたつてのもあるよね。

鈴木 反省するしかないみたい。

堀井 日本はそこまでいってなかつたから。

神菌 逆に日本も原爆とか空襲でこっちもやられてたんですよ。日本人も結構被害あつたんですよ。みたいな考えが。

堀井 反省しきれないから。

鈴木 いやまあだつて空襲だつて戦争犯罪だからね。

伊藤 一億総懺悔に批判が来たわけだから。まあ確かに当時から戦争は上の人が勝手にやつたことだみたいな空気はあつたのかもしれないですよ。

堀井 だからやっぱり国の思想みたいなのが違うんかな。この本の帯にも貫くドイツと迷える日本つて書いてあつて、ドイツの方が一貫した思想があつて、戦後の日本にはそういう思想がないみたい。経済発展のみが目的だったから、高度経済成長が終わった時に、方向性が定まらなかつた。

神菌 基盤がないですよ。ドイツは党が変わつた時

にも基盤となるものはあったみたいな。

堀井 そうそうそう。共通する理想みたいなさんがドイツにはあった。

伊藤 池上彰はドイツとかアメリカを不完全な民主制って言ってる、日本もまあそうだな。エマニュエル・トッドが面白いこと言ってる、日本はずっと自民党がやって、これはある意味おかしいと。でロシアも国民に都合のいい情報しか流さないから、プーチンがいつも勝つわけで、これもまたおかしき民主制で。でもどちらも市民が選んで決めたことだから、そこを見ればこれは完全な民主制であると。あなるほどと思つた。政権与党が一つしかない、それこそ自民党なんかは一つの意志を持っているというよりは、いろんな意思をその中に持ってる、そのどの派閥が出てくるかで、政治が決まるっていう。そう考えると、なにか（党内で統一して）考えることがあるのかっていうと、ないですよ。でどうやって決まるかっていうと地元

に金をばらまいた者、まあこれは一つの利権政治なわけだけ。

堀井 そこは、その場しのぎ的な、一貫した思想はないよな。理想とか。

鈴木 前本で読んだんですけど、自民党は、与党になるためだけに力を注いできたじゃないけど、世論に合わせる柔軟に対応することで、与党として生き延びてきたんですよ。だからそこに一貫するものはないんですよ。

伊藤 野中さん（和敬塾乾寮第七期：学習院大学経済学部四年。お父様は、学習院大学法学部教授、野中尚人さん）のお父さんがそんなこと言ってたな。自民党は官僚をうまく使って地元で利権を与えることで、やりくりしてきたけど、今もうお金はあんまりにないし、そのやり口は通用しなくなってきた。

堀井 となると、ドイツが一貫してるってのはどういう面で一貫してるんだっけ？

鈴木 公共精神と倫理観。

堀井 なるほどそれが共有された基盤になつてゐる国なわけね。

神薊 でもよくわかんないですよねこれつて。

堀井 理想としてこれがあつて、それが政策に反映されてゐるつてわけでしょ。移民受け入れとか。

堀井 日本に国として理想があつたときつてある？

伊藤 日露戦争に勝つて喜んでた時。

神薊 そこから第二次世界大戦に向かうまでの盛り上がりじゃないですか。

堀井 そういう理想つてあつた方がいいのかな。あつた結果戦争に突き進んだわけでもあるけど。

鈴木 でもその国の掲げた理想に、どれだけ日本国民が付いてきたのかつていうとわからないですよね。例

えば、大東亜共栄圏だつて言つても本心それをどう思つてたかつて分らないですよね。

堀井 なるほどね。ドイツの掲げる、公共精神と倫理観

みたいな理想つて、平たく「良い」じゃん。そうじゃない理想を掲げた方が生きやすいつて人も多いかもしれないけど、そうした体制が日本にないから、何かあつた方がいいのかな。

伊藤 ドイツが悪いことをしたつて徹底的に教えられたから何十億とか何兆もの出資に何も言わないだけで、ひとつの思想としてまとまつてゐるのはロシアみたいに、ロシアは素晴らしい国だからウクライナに、いるロシア兵を助けようつていう名目の兵を送つてロシア国民はそれを全員支持するつていう。それはそれでまとまつてますよね。

堀井 コントロールしようと思つたらそれが絶対いいよな。

伊藤 アメリカなんかは、国旗を小さい時から見せて、これに忠誠を誓えつて言つてまとめてきますよね。

堀井 国にキリスト教という基盤があるからな。留学行つてゐる友達とかでも、みんなキリスト教をガチで信

じて、毎週日曜に協会行って、幸せなんやろうけど。そういうのがあった方がいいのかな。それがいいことが日本で起きてる問題の一端を担ってるというか。

伊藤 でも日本人は日本人でまとまってるという一体感があるから国ができてるわけで、そう考えると、国をまとめるのに思想が必要なのかって言うかどうかなんですかね。

神菌 何かを信じるってとても楽なことだと思ってる。
堀井 その通りなんやけど、みんながみんなそれぞれ信じるモノを持ってるかって言われると結構難しいと思うんやな。だからすぐお金の方向に流れるというか、拝金主義みたいな風潮になる。

鈴木 分かりやすいですからね。
堀井 そう。分かりやすいからゆえに。

伊藤 でも分かりやすすくないと結局国民はまとまらない。だからそこに書いてある倫理観とかで本当にまとまってるのかって僕は疑問ですね。イスラエルだって

周りが敵中だからこれだけまとまって、中東最強とも言われる国家ができてるわけで。

堀井 どう思う？今の日本は。

伊藤 思想的に何かが必要かって言われると僕はいいと思います。

日独教育比較

神菌 教育は似てるんですけどね、日本とドイツって。世界の教育っていう授業を取ってるんですけど、日本と韓国とドイツって結構似てて詰め込み型なのに対して、北欧とかは違うみたい。二〇〇〇年代初頭に、これから求められる知識を測るテスト(恐らくPISA(※五)のことと思われる)をしたところ、日本は今までずっと一位だったのに、そのテストになると十位とか、論理的な思考が弱いみたいですね。

伊藤 日本ってホントに詰め込み教育じゃないですか。

漢字からして覚えなきゃいけないってのもあつて。

堀井 漢字ヤバイよな。小学生に教えてるけどかわいそう。あれホンマ大変やで。

鈴木 あんなのでも使ってるうちに覚えませんか？

堀井 そうやけど受験があるから。

池部 使うって言ってもみんな本読まないんですよ。

堀井 そうやねん。みんな本読まないねん。本読んでる子は、言葉の意味とかを、多面的に捉えられるけど、本読んでない子は、ベターとした言葉の理解やねん。

分かる？熟語の意味も一対一対応で。違うやん。本読むの大事やねやっぱ。

鈴木 ドイツは戦前と戦後で学校教育は変えられたのかな？日本は GHO に教育内容を大きく変えられたじゃないですか。で、それまで日本とされてきたものが全否定されて、アメリカの良いように教育されてきたから日本人が日本人としての考えというか、アイデンティティみたいなものがなくなつたから、基盤みたい

なものがなくなつたんじゃないかなあつて思うんですけど。

堀井 確かに確かに。

鈴木 一方でドイツはそういった教育変革みたいなものがあつたんですかね。

堀井 それはもう徹底的に反省するっていう方向性なんじゃない？過去やったことは完全に悪かつたからっていうので、じゃあそうじゃない世界を作っていうこう

つていう。
神菌 教科書を周りの諸外国と一緒に作るっていうのが、すごいなあと思いましたね。日本じゃまずありえないじゃないですか。アジアと、つてのは。

堀井 そうだね。そうするってことはそこに理想とか理念みたいなものがあるからつて気がする。

伊藤 日本も戦前にそんな一つの一貫したものがあつたのかつていうと微妙な気がして、天皇を敬えの一点張りでなにか他にあつたのかつていうと、ね。しか

も日本の昔からの教育方針って漢字覚えなきゃいけないとか、結構上から抑える感じじゃないですか。僕はあんまりそういうの好きじゃないので、どうなのかなっていう。戦前からそういう体質は変わってないし、

教員の権限も強いし、そんなに日本って昔から変わってんのかなって感じはします。逆にドイツは自由で、デイスカッションとかもあるし。アメリカ在住の人がドイツの教育凄いつて書いた本があるらしくて、初等教育なんかは海外から視察が来たりするそうです。鈴木 ゆとりになる前は日本も評価されてたんじゃないの？

伊藤 僕はそもそもゆとりのどこが悪かったのかいまいちわからなくて、発想としては良いと思うんですけどね。

堀井 ゆとりの評価ができるのってまだこれから先じゃない？詰め込み型の人は上からの指示に従って動くのはゆとりの人間よりもできるのは当たり前じゃない。

だけどそれだけじゃダメってわかったからゆとりにしたわけで、どっちかっていうと上の人がゆとりになって初めてゆとり教育の評価ができるんじゃないかって思う。

鈴木 そうですね、確かに。でもゆとり教育を発案した人はゆとり教育は失敗だったって認めてるらしいですよ。

堀井 それは分かんなくて。短期間で見たらそうなのかもしれないけどね。

神菌 何を目指したかですよ。

伊藤 日本の教育ってでも未だに詰め込み型だと思いません？あんなに勉強させてまあ努力する癖をつけるって意味では良いのかもしれないですけど、でもそれ以上に何かあるのかって言われると答えを出せないというか。

堀井 自発的にやっつけない子に無理やりやらせてもなあ、そんなに効率よくないし、それだったらその期間

にしかできないことをやった方がいいと思うけどなあ。

伊藤 本来ゆとりの改革ってそこから始まったと思うんですけど。結局それが意味ないって言われて元に戻して、何か解決したのか疑問ですよ。

堀井 プレ過ぎ。圧力がかかったんかなあ経団連とかから。

神菌 結果を早く求めすぎですよ。

堀井 思考が全部短期過ぎる。資本主義的というか、経済的というか、利益中心主義的な思考しか日本にはないってことだね。それは日本が戦後経済発展だけを目標にしてきた弊害だよ。もつとちゃんとした理想があれば、お金使って謝ることか、公共投資ではないけど、長い目で見たら利益になる。そういうことができるのはやっぱり基盤としての思想、理想があるから。そういうのがないといけないよね。日本国民ってそういうの持ちづらいのかな？

伊藤 公教育だけを見てると日本は悪いことをしまし

たって言うてるだけで、放置してるから日本は悪いことをしていかないとかい出す奴が出てくるんですよ。逆にドイツみたいに悪いことをしたっていうのを教えるんだったら徹底的に教えた方が良かったんじゃないかっていう。

日本の現在地

堀井 このままじゃだめなん？なんでだめなん？

伊藤 個々の政策はだめですけど、国全体としてダメかと言われると、僕はそうじゃないと思うんですよ。一応まだまだ日本人が多くて、結局、世の中の慣習って日本人の慣習で回ってるじゃないですか。電車は数分ごとに来て数分遅れたらごめんなさいって。それで回ってるから良いと思いますし、いざ日本が攻められたときにどうなるかっていう面でのまとまりにはちょっと不安はありますけどね。

堀井 なるほどそれが伊藤の意見ね。啓ちゃんはいじゃあ何が問題だと思う？例えば、これからもっと良くなるとか、理想的なものがないとか。それじゃなんでダメなのかという。あるならあるで問題もあるけど。

鈴木 終わりにき日常っていうことに自覚的であればいいんじゃないですか。将来に絶望するんだったら、毎日が変わらないってことを自覚して、受け入れて、その上で毎日を楽しく生きようみたいな。楽観主義的な。

堀井 そういう風に思えるのかなあ。なんやかんやで経済的な余裕とかがあつたらなあ。お金大事だとおもうけどなあ。

伊藤 じゃあドイツの社会福祉国家みたいにして、資本主義はとるけど、個々人の生活とか貧困問題は大事にしませうみたいな。

神菌 日本も補償されてると思いますけどね。貧困貧困って言うってるけど。

伊藤 制度を一個一個見てくと色々問題が出てくるんじゃない？例えば、日本は安い賃金で長時間働くっていうモデルがあつて、それをずっとやってきて、過労死とか問題はあつたけど、安いからみんな買ってくれて、何とか回ってきた。でももうアジアとかアフリカに流れると制度が崩れてきてしまう。そうだとすると日本はドイツの様に付加価値の高いものを作るしかない。そのためにまずは賃金を上げて、インフレ状態にしないとイケない。でもそれはできてない。首相は賃上げしろとか言ってますけど、実際そんなに変わらないし、働き方改革とか言ってる割には何も変わってないんですよね。エネルギー政策にしても日立がイギリスに原発を輸出するにしても、津波のせいで規制が厳しくてコスト一兆円とまでいわれてるじゃん。加えて問題なのは、もんじゅが止まって再処理の道は実質的になくなったのに、まだそれを前提にして制作していること。変わらないんですよね。結局国会では与党

は官僚からもらったペーパーを話すだけだし質問すれば検討させていただきます。野党は野党でヤジ飛ばすだけ。そうすると官僚は有識者会議と上からの決定と下からの積み上げで決まってるから結局何も変わらない。い。

堀井 和敬塾の新歓会議と同じやな。持ち帰って、検討させて頂きます、って。

鈴木 僕も思いました(笑)。

全体主義の危険性

堀井 国としての思想は必要ない？

鈴木 国としての思想って全体主義になりませんか？

伊藤 っていうイメージは僕もあるんですけどね。

堀井 それはひとつそうやと思うけど、でもそういうのがないからこそ迷っている人もいるわけでしょ？

鈴木 まあ迷ってる大学生は和敬塾に入ればいいんじゃないですか？

やないですか？

堀井 一人一人が見つけていかなきゃいけないわけでしょ？何かしらを。そういうことは、みんな大学生までのうちに、何も見つけられないままだから、就活とかで、周りのみんなから良いように思われるようになって面で選ぶから、別にやりたくもないような労働をやって、結婚して、子供産んで、よかったねみたいなきんやん。

鈴木 そうですよ。

堀井 確かに平和かもしれないし、それでうまく回ってるかもしれないけど、そこに何かある？

神菌 みんなは、持つてるかもしれないですけど、諦めの方が強いんじゃないですか？

堀井 それでいいのかって話。

伊藤 それは個々人で良いんじゃないでしょうか。

堀井 個々人だけど、他の国は生きる意味をもっと持たせてくれるものを持つてるっていうことでしょ。そ

それが例えば、宗教だとか。納得させるものが必要だと思う。

鈴木 堀井さんは必要だと思うんですか？でもそれって大きな物語（※六）の復興ですよ。

堀井 大きな物語じゃなくても、自分がなんで生きるのか教えてくれるもの。自分なりの答えを探していく必要があると思う。

鈴木 そのためにはやっぱり、日常が変わらないことに自覚的に生きていくこと。まあそれに気づかず生きていても知らぬが仏って感じで幸せなのかもしれないですけど。

堀井 日常変わらないことはないでしょ別に。

神菌 変わらないことに満足してるんじゃないですか。

伊藤 安定ってそういうことじゃないですか。ローマ人が日々何か考えて生きていたかっていうと多分考えてないんですよ。不安定になっていった時代になって初めてパンのことばっか考えるんで。

神菌 僕は僕個人として生きる意味は持ちたいですけどね。

堀井 その幸せな状態に人生に何かしらの意味を持つて生きていける人って本当にどの時代でもごく少数。

伊藤 その答えがどこなのかわからないですよ。例えば結婚したいって考えて結婚したならそれはそれの一つの人生だと思うんですけど。

堀井 その通り。その通りやけど、それはその場しのぎというか…。

鈴木 でも大きな答えを見つけて無理じゃないですか。それこそオウム（真理教）に走るしかなくないですか。

堀井 だから大きな答えじゃなくていい。だから例えば俺はこれをやって、仕事をして、これの理想で、世界をもっとよくしてやるっていうので、オウムに行きつくのはあまりに安直すぎるといっかナイーブすぎない？もっと、自分のうちから出てくるもので、本当

にこれでいいのかって考えて、自分が納得する仕事を
して、俺はこれをするために生まれてきたんだって言
って仕事して、まあ仕事じゃなくてもいいんだけど、
そうやって生きていけている人もいるじゃん。そうい
う人が世界に多ければ多いほど幸せじゃん。

神菌 でもそれじゃあ一つの社会にならないっていう
か、それができてる人は周りにそれができない人が居
て初めてできると思うんで。

堀井 じゃあどっちが幸せだと思う？国としての理想
があつて、その理想に向かって生きた人が幸せなのか、
それとも、平和だけど、個人個人次第で、長生きできる
社会と。さっきのローマの話で、ローマが幸せだった
とき、一部の人が生きる意味を見つけていたわけじゃ
ん。そうでない時に全体主義にならない何かしらの大
枠的な目標を与えてあげた方が、それに向かつていけ
るから、幸せになれるんじゃない？ナチスみたいな悪
い理想じゃなくて、良い理想、哲学とか思想を練り上

げて、国民に示してあげることではなく国として
その方向に向かえるほうが、全体的に幸せな人は増え
るんじゃない？

鈴木 でもそれって大きな物語ですよ？

堀井 そう。でもそれで救われる人がいるならいいじ
ゃん。

神菌 でもそれは怖いというか…。

堀井 それは日本だからじゃない？

伊藤 それは僕は無理な気がして。例えば僕らは国
から人に悪いことをしてはいけませんとか刷り込まれ
て、で社会も国が決めた色々なルールで成り立つてま
すよね。僕はそれが精いっぱいじゃないかと思うんで
すよね。キリスト教だって祈りなさいとは言うものの、
そこに生きがいを見出す人は牧師さんくらいしかいな
いですから。ヨーロッパだってこんだけ休暇があるの
に誰も文句を言わないってことはみんな仕事が好きじ
ゃないってことですよ。人生そんなもんじゃないです

か。

鈴木 その人生そんなもんで意識が大事なんじゃないですか？

神菌 それは少し悲しいですけどね。

伊藤 それを捨てた人がさっきの一部の人になるわけですよ。

鈴木 僕はそれでいいですけどね(笑)

堀井 そんなもんで生きるのか今ここで死ぬのかだったらどつちがいい？

鈴木 そんなもんで良いです全然。だって大義みたいなものはないですから人生に。僕はそう思ってるんで。生きる意味なんて探したって答え見つからないですから。だからある意味まったり革命ですよ(※七)。

堀井 でも、そうやって生きてた援交少女たちは、みんなメンヘラ化していったで。意味と強度(※八)の部分で強度だけだったら人間生きられない。

鈴木 そうですね(笑)

伊藤 でもそういうものって一人一人持つてるものじゃないですか。

堀井 そう、一人一人探していくべきだとは思うけど。確かに、最低限国ができることは、経済を国がうまく回して、思想は、押し付けられないから各自考えてくれと。

鈴木 それしかないですよ。

堀井 それがベストじゃないけどベターな答えなのかもね。

鈴木 自己実現って言葉あるじゃないですか。それをどこに置くかじゃないですか。個人個人が。

第三回に続く…。

平成三十年六月二十七日 於、鈴木部屋

構成者、鈴木啓介

一、『日本とドイツふたつの「戦後」』の著者熊谷徹氏によると、六〇〇万という数字に関しては、以下のようになる。一九三九年当時、ドイツ、ソ連、ポーランドなど二〇カ国に、約八三〇万人のユダヤ人が住んでいたが、そのうち七二％に相当する約六〇〇万人が殺害された。だが、この六〇〇万という数字については加害者側だったドイツと被災者側であるユダヤ人との間でコンセンサスが出来上がっている。この数字は、科学的な研究や具体的な資料に基づいてはじき出されたものではない。証拠の一部が隠滅されているので、正確な数を求めるのは不可能であり、ドイツとイスラエルは「ドイツ人が多数のユダヤ人を組織的に殺害した」という本質を重視した、という。加えて熊谷氏は、日本においてもそれを適応すべきであり、中国韓国に対して合意に基づいた死者の数を設定し、賠償すべきだという。日本の、数字にこだわり虐殺したという本質に見向きをしない実態を、熊谷氏は、木を見て森を見ない国日本と言っている。

二、後述の軍の空気で詳しく語られるが、日本とドイツの戦争責任の追求の仕方が国風を明確に表している。熊谷氏によると、「集団の罪」という考え方をする日本人に対して、ドイツは「個人の罪」を重視する。市民は、上官から命令を受けた場合、その命令に従うことが道徳に反しないかどうかを慎重に吟味しなくてはならな

い。そして非人道的な命令については、拒否しなくてはならない。日本では、「上官の命令だから、やむを得ずやった」という弁明に同情心を抱く人が多く、「A級戦犯など、罪をかぶって処刑台の露と消えた人々も、不当に加害者にさせられた被害者だ」という擁護論につながるが、いくとしてこうした日本の態度を批判している。

三、朝日のねつ造とは、朝日新聞の慰安婦報道問題のことである。一九九七年に戦中に陸軍労務報告会下関支部動員部長であったと自称する吉田清治が『朝鮮人慰安婦と日本人』（新人物往来社）を刊行し、軍令で濟州島で女性を強制連行して慰安婦にしたと「告白」した。朝日新聞は、一九八二年九月二日（大阪版）二十二面において「朝鮮の女性 私も連行 元動員指揮者が証言 暴行加え無理やり 三十七年ぶり危機感で沈黙破る」と報道した。後（二〇一四年）、朝日新聞は吉田の証言を虚偽と認定し記事を撤回した（Wikipedia参照）。この記事により、諸外国より日本軍が集团的、暴力的に女性を拉致したとのイメージが定着した。

四、山本七平著作、「空気の研究」によると、日本において、本人の思考・決定を影で支配しているものは「空気」である。「空気」とは、何かを決定する時点でも、後から振り返っても、けつして論理的とは言えないような

決定をさせてしまふ、日本人を影で支配している力のこと。その力の作用した例として、戦艦大和の出撃、日本版マスキー法をめぐる、車に対するバッシング、イタイタイ病をめぐる、反公害の世論の盛り上がりなどを挙げている。

五、OECD生徒の学習到達度調査(OECDせいとのがくしゅうとうたつどちょうや、英語: Programme for International Student Assessment, PISA)とは、経済協力開発機構(OECD)による国際的な生徒の学習到達度調査のこと。日本では国際学習到達度調査とも言われるが英語の原文は「国際生徒評価のためのプログラム」である。OECD加盟国の多くで義務教育の終了段階にある十五歳の生徒を対象に、読解力、数学知識、科学知識、問題解決を調査するもの。国際比較により教育方法を改善し標準化する観点から、生徒の成績を研究することを目的としている(wikipedia引用)。日本は年々順位を落としているが、毎年参加国が増えている中で成績なので、一概に日本の学力が落ちたと言えるわけではない。

六、大きな物語とは、フランスの哲学者ジャン・フランソワ・リオターール(一九二四―一九八)が『ポストモダンの条件』(一九七九)において提唱した言葉であり、科学がみずからの依拠する規則を正当化する際に用いる「物

語、語り口 narrative」のことを意味する。神、ユートピア、イデオロギー等、皆がそれに巻き込まれており、その価値観を共有していると信じるに足る筋書きを提供してくれるもの。これにより個人や全体の行動・思考を方向付けられ、人はこのもとで、無意識のうちに自分の行動を正当化している。ポストモダン論によって使用された言葉。大きな物語の崩壊によりポストモダンと呼ばれる社会構造が生まれたとされる。

七、まったり革命とは、宮台真司が『終わりになき日常を生きる オウム完全克服マニュアル』にて提唱した用語。オウムには、いわゆるエリートたちがたくさんいた。インテリが妙な理想にかぶれて暴走すると、ろくなことにはならない。むしろ、「まったり」している一般大衆が、どこにも暴走せず、自分の快樂だけに固執していることが、社会の秩序の重石となっている。ところが、九六年に援交ブームとルーズソックス着用率がピークを迎えたのを境にストリートは急に「死んで」行き、援交少女は病んでいった。

八、意味と強度とは、宮台氏によるとこうなる。『意味』の充実とは別の種類の濃密さを『強度』と言います。これはポスト構造主義という哲学の概念で、フランス語でアンタンシテ、援護で言うインテンシテイ(intensity)の訳語です。『密度』とか『濃密さ』と訳

した方が分かりやすいかもしれませんが、もっと簡単に
言えば「意味」とは『物語』、「強度」とは『体感』に相当
します。なぜなら『物語』は過去から未来につながる
時間の展開が重要ですが、『体感』は『今ここ』が重要
だからです」(「人生の教科書(よのなかのルール)」参
照)。

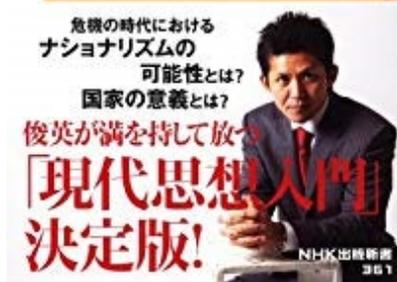


論壇
堀井塾第三回 彷徨える若者、アイデンティティ探求の旅

堀井 友貴(乾寮第七期)
鈴木 啓介(乾寮第八期)
伊藤 光(乾寮第八期)
神菌 照尚(乾寮第九期)
池部 遼(乾寮第十期)
小林 凜(乾寮第十期)

第二回の議論では、同じ敗戦国である日本とドイツを比較した。そこで浮かび上がったのは、日本人になくてドイツ人にあるモノ、国民をその国民たらしめる基盤、——ドイツでは公共精神と倫理観なのだが——そういったものがあるかないかの違いであった。国の提示するそうしたナショナルアイデンティティは、ポストモダンにおいて生きる意味を喪失した若者が、希望的に生きる一つの光たりうるのではないかという結

論に至った。しかし、そこには同時に全体主義という魔の手も忍び寄る。右傾化する若者たちが目指す理想郷と、我々の前回の結論に違いはあるのか、今回はその点に焦点し、議論を試してみた。課題図書は、『三出版新書より出ている、萱野稔人の著書、「ナショナルリズムは悪なのか」に設定した。(乾文學では、第三回を最終回とするため、実際の第四回『万引き家族』第五回『ゲンロン』の一部も含み、第三回とする。)



国家の役割を考える

堀井 左翼批判の本ではあったな。でも右翼の立場から批判しているというよりは、かほもうちよつと（左翼の人たち）考えようよみたいな。自国の経済ちゃんとしよ

うとか。なんで国にナショナリズムが必要なのかって言うのをずっと説明してる感じじゃなかった？

鈴木 ナショナリズムって聞くと愛国とかそういう語が浮かびがちですけど、ナショナリズムっていう言葉は本来大きく国にかかわること、例えば社会保障とかもナショナリズムに入るから。

伊藤 要するに国の役割は重要だよって言うことを述べているから、結局国家機関を解体して国家による暴力をなくしたらじゃあ一体誰がそれを統率するのかっていう問題になるわけだし。

堀井 そうだね。そもそもなんでこの本を指定したのか考えると、前回の日独比較からアイデンティティの探求を考えようとしたわけだよ。で、この本読んで思うのはネットウヨとか、いろんな国が内向きになっているのは、結局国の経済が回ってないからだ。

神菌 やっぱ若者は経済に関して不安なんですかね。
堀井 アイデンティティの問題にされてるけど、経済

が回れば上手くいくから、グローバルイズム云々よりもまず、一国の経済をしつかりやつていこうぜっていう。

国の経済が不安定だとやっぱり極端な思想に飛びつく人も多いから。

伊藤 それこそトランプですよ。あんなに保護関税やって何がいいんだってなるけど、でも仕事がなくなってるって考えてる人たちからすれば、移民が悪いとか周りが悪いって考えになるから。

神藤 でもメキシコとうまくやらないとキツそうですけど。アメリカも。

伊藤 メキシコもそうだし、中国ともうまくやらないと売る先も買う先もなくなっちゃうからね。

堀井 そこまで先のことを考える余裕すらないというのが現状じゃない？

それは家族かそれとも別の“何か”か

堀井 この本に來たのは結局大きな物語が必要か必要じゃないかっていうことだから。でも大きな物語がないなら、代わりに、小さなしょうもない、特に練られていない物語にみんな飛びついちゃうみたいなのが起るんじゃないの？それが結局、ISとかヘイトスピーチみたいな思想になっちゃうんじゃないの？だから、ある程度知識人は、理想的なものを指し示していかなきゃいけないんじゃないの？っていう風に思うんですけど。

伊藤 それはその通りと思います。

堀井 でもそれを国に求めるのはなんか違うような気もするんだよね。ゲンロン〇(※一)に書いてあったんだけど、趣味のつながりみたいなもの(※二)は、自由意思で参加できるから、嫌になつたら抜けられるわけよ。だからアイデンティティのベースにはなり得なく

ゲンロン0 観光客の哲学

東浩紀



『郵便的』から19年
集大成にして新展開

神菌 確かにその人の核となる部分は家族に依存して
るとは思います。

堀井 僕（東浩紀氏）がここで考えたいのは、家族その
ものではなく、その高次元での回復である。つまり、脱
構築したいと。日本の家族形態は核家族とはかけ離れ
ていて、むしろ養子縁組とかでいくらかでも拡張可能。
だからこそ、日本社会は家を企業と呼び変え、速やか
に適應することができたらいいです。

堀井 東浩紀もこれを読んで「は？」ってなった読者も
多いと思うって書いてて、今家族と言うと確かに保守
の人たちと結びついた特殊な政治用語になってるよね。
自民党の改正草案なんかもバイアスがかかっててヤバイ
んよ。

伊藤 確かに家族ってのもわからなくもないですね。
別れることはできますけどなんだかんだ影響は受けま
すから。

伊藤 国と同じ条件を持つてるから家族を持つてきた
んでしようけど、家族がどこまで決定力があるのかな
と。例えば、保守地域だとずっと安倍さんが当選し続
ける地域もありますし、そういうのは家族間での付き
合いがあるから、ずっと自民党に投票するわけで、そ
うなると政治的力も家族が持っていることになりまし
けど、都市部はどうなのかなと。

池部 確かに家族と住んでいれば影響はあると思いま
すけど、一人暮らしすれば別の考え方もできるとは思

いますけど。

堀井 他にアイデンティティになりうるものないのかな。俺なんか塾でバイトしてるけど、家族に問題ある奴めっちゃ多いし。例えばナイフ持って人殺すみたいなこと言ってる子もいて、話聞くと、父親になんでお前は勉強できないんだみたいなこと延々言われてたり、学校でも友達いかなかったり。可哀そう。そういうヤバい家族の子はどうしたらいいの？おい！あずまあ！

一同 笑

鈴木 そういう子はどこからもアイデンティティを認められてないってことですよね？

伊藤 でもそれは国家も同じで、国家が全てアイデンティティを抱擁するかって言われたらしないので。

堀井 そうそう。そうなんだけど、そういう毒親みたいなものどうすればいいの？

神菌 そういう子がコンビニの前でたむろしちゃうんじゃないですか？

堀井 いや、たむろするくらいならまだいいんよ。相手がいるから。一番ヤバいのは加藤智大(※三)タイプだよ。

伊藤 海外なんかでもリア充ふざけんなっていつてそれがグループ化して女性を傷つけるっていう事件もありましたよね。

鈴木 じゃあ和敬塾に入ればいいんじゃないですか？そういう子ほど。和敬塾は家族みたいな共同体に近いような気がするんですけど。

堀井 でもいじめとかもあるんじゃないん？そのルールに適応しないとつていう。ある程度の強制性は良いと思うんだけど。

池部 そこに自由意思は関係ないんですか？入る入らないの(和敬の活動に参加するという意味)。

堀井 そうだね。だから昔の方があつたかもね強制的に入るつて言う。

伊藤 そうなると軍隊にでも入って強制的に人と人を

くつつければいいじゃんって話にもなる。

堀井 そうそう。しかも和敬は四年間だけだしね。そこで和敬に入って変わったらしいと思うけどね。

伊藤 読んで思ったんですけど、それって結局国家と変わらないよねっていう気はするんですよね。

親がヤバい人

堀井 さっきの話戻るけど、親がヤバい人ってめっちゃたくさんいて、そういう人って絶対みんなメンヘラ化(※四)するの。ホンマに。絶対。親にお金入れて、学費も自分で稼いでみたい人いて、そこでメンヘラになって、女の子でホストにお金めっちゃ使うみたいなの。

鈴木 ああ。少年犯罪する子って大体親ヤバいですよね。

堀井 そうそうそう。親なんだよやっぱ。親。

伊藤 でも親にとってみたらただ勉強してほしいだけなんじゃないんですか？

堀井 でもそれも親のエゴじゃない？

伊藤 でもそれって結局国家の決定力ですよ。国が勉強したやつが上に行くっていうシステムを作ったから我々塾講にできることは何なんだろうっていうと…。

堀井 共産主義か？きたか？そんなこと言ったら生まれた瞬間家族から引きはがして完全に平等に国が子育てするっていう話になるやん。そうだったらみんなホリエモンみたいになるで。貨幣しか価値がないから。

伊藤 教育ってなるとそうなるからしようがないですけど、結局考える時間をつくるかどうかっていう。

堀井 どうなんだろうね。強制性っていう言葉が出たけど、それによって苦しんでいる人もいるやん。じゃあ、家族以外のコミュニケーションで強制力があり。かつ、そんないじめられないって言う場所を考えなきゃいけないじゃん。

鈴木 そんな場所ないですね。

堀井 じゃあ終わり？

伊藤 ドイツの話を持つてくると、ドイツでは、大卒じゃなくても、いわゆるマイスター、日本で言う工業高校出身でもそ資格を取ったらそれなりに稼げる道が用意されているっていう。だから、貢献力に幅を利かせるといふか…。

神菌 でもそれ、問題になつてませんでした？ドイツの制度。だからそれが廃止になつてると聞いてたんですけど。

鈴木 なんて？

神菌 小学校のだいぶ早い段階でそれが分かれるつていうのがよくないつて聞いて。しかも、大学に進める学力がないとみなされてそつちの道に進まざるを得なかつたケースが増えてきたらしくて。

鈴木 なるほど。消極的理由で選ばされてるんだね。

神菌 それで学校が荒れたりもするらしく。

伊藤 ああ。それは聞いたことあるなあ。それに今親がみな大学志向になつていて…。

堀井 じゃあ、親がヤバイ人たちに對しても資本主義以外の何かしら物語が必要なのかな。

神菌 そういふ人たちつて何を目標に生きてるんでしようかね。

堀井 目標もなにもないよ。認めてくれぐらいのんだんかいでしかない。

鈴木 エヴァの3版の最終回みたいな話ですよ。シンジ君は母が居なくて、父には認められなくて。

堀井 そう。マズロー(※五)で言うなら承認の段階でストツプしてる。やっぱどういふ親に育てられてきたかつていうのが自己肯定感にすごい影響与えてると思うし。

神菌 やっぱ家族は必要アイデンティティと言えますよね。

堀井 じゃあ生まれた時から決まつてるのかと。生ま

れた瞬間に世界に絶望し、反出生主義(※六)に片足を突っ込むのか。

宗教という”答え”

堀井 今話題だから言うけどオウムとかもさ、結局出てきたって、共産主義の理想が崩れた後、みんなが宗教の方にダァーっと流れたわけじゃん。救いをそこに求めたわけじゃん。国のトップの東大生とかもそっち行っちゃったのも、理想がなくなっちゃったから。まあ、宗教って言うのも挫折しちやっただからね。

神菌 じゃあ宗教もアイデンティティなりえないですか？

堀井 いいや。そんなことはないと思う。新興宗教っていうのは、歴史の網を潜り抜けてきてないから。原理主義とか過激な方に走らなければね。だって結構優しい人多くない？キリスト教信じてる人って。実感とし

て信仰っていうものが理解できない部分はあるけど。

鈴木 人間のこう、根源的というか普遍的な何かを言葉にして語ってくれるわけですから。

堀井 日本は今物語的な語るものがないから、一神教的ななにかあった方が救われてる人は実は多いかもしれない。

鈴木 だから資本主義をアイデンティティとして生きていく人たちってホントにごく少数になっていくんじゃないですか。ほんとにトップのお金持ちの人だけで、あとはだから宗教とか国家とか。

神菌 今下位層の人たちってどんどん下になっていてなすからね。

堀井 そうだね。だから理想がとかいうレベルじゃなくて、その日暮らしがっていう段階まで来てるよ。まあこれはまた今度経済政策の回でやっても面白いと思うけど、俺はケインズ型のリフレ派(※七)政策は必要だと思っただけ。だってヒトラーだって経済政策はすご



いうまかつたわけじゃん。アウトバーンとか作ったり。なんだっけ？ナチスの正式名称。

伊藤 国家社会主義ドイツ労働者党。

堀井 そうやで、国家主義の労働者党だから。そういうの见ずに、反安倍の人たちはいやいやみたいいな。ハイ、左翼は経済を学ぼうと。

万引き家族は何を伝えたかったのか

鈴木 もう一つ家族をテーマにした、まあこれは血のつながった家族ではないんですけど、万引き家族を宿題にしましたが、どうでしたか？

神菌 ああいう家族はどうなんですかね。家族として。

伊藤 あれがいいっていう割には最後バラバラになっちゃいましたからね。果たして何を伝えたかったのか。

小林 あんまり社会問題提起してる感じではなかったように思うんですけどね。

池部 関係のもろさじゃないですか？つながりの弱さみたいな。

神菌 やっぱりお金でつながってたっていうことなんですかね。

伊藤 うん。でもお金でつながってるように実は仲良かったような面も見えたよね。

神菌 でもあの少年が捕まった時に逃げたのは、やつ

ぱり、関係が…。

伊藤 でも個人的にあの判断は正しいと思っていて。

だってあそこで逃げなかったら他のみんなも全員捕ま
ってただろうし。

神菌 でも普通の家族だったらない判断だなあとと思
いました。

小林 僕らからしたらああいう生活を送ってる人た
ちは実際いると思うんですけど、それで啓発されるのは
違うかなと。あれは芸術作品として構築されてるから、
そこから何を受け取るのかわからないのが関心あって。

例えばカンヌ取って、外国の人たちはそこから何を感じ
取ったのかなあと。単に芸術作品として、例えば構
図が良かったとか演技が良かったとか以外に社会的な
何かを受け取ってなのか。万引き家族見て日本がああ
いう国だと思われたくないみたいなのと悶着ありまし
たけど。

鈴木 実名あげると百田尚樹とか高須院長とかがそ

う言うのもわかるけど、あのレベルで貧しい人普通に
いるでしょ。

堀井 是枝さんもここでの議論と同じように、家族に
恵まれない人どうするのってことだと思うよ。万
引き家族は連帯、自由意思でくっついた人達なわけじ
やない。だからこそ、最後バラバラになっちゃったし、
女の子も元の本当の家族に戻っていつちやったじゃん、
でもあの女の子は戻っても自分の居場所はないから、
家族の限界っていうのを描いてると思った。

鈴木 あの家族って、お互いがお互いを承認してると
いうか、みんなの居場所になってたから、あの場所が
一つのアイデンティティになってたのは間違いないん
だとは思いますが。あの女の子も戻っちゃいましたけど、
あそこで得たものによって、決してゼロに戻ったわけ
ではないと思うんです。だから例えばああいう家族の
形態があるんだっていう一種の希望としてそれがあ
の子の中で機能していくかもしれないですし…。

堀井 確かに居場所にはなつてた。でもそれが続くかどうかかっていう問題じゃない？続かなくてもいいっていう考え方もあるけど。

神菌 一見確かにいびつですけど、あの人たちはあの形の家族でなければ一つにまとまることはできなかっただろうし。終わりかたも、わざと捕まっ自分たちから終わらせに行くっていうのが良かったかなと。

堀井 あれ本当にわざと捕まったのかな？俺はそうは思わないけどな。

小林 精神的な共感でつながった家族と実際に繋がった家族の違いって、弱者の共感での繋がりがりしかないからもういというか…。

堀井 強制力があるっていうのはやっぱり大きいよな。
小林 僕母親と二人暮らしが長かったんで、三世帯家族とかだつたら血の力とか、連帯みたいなのを感じることもあるんだろうかと思ったり。

伊藤 でも万引き家族で言うなら一回逃げようとした

のは、それはこの家族が連帯を守ろうとして取った行動なわけで…。

神菌 おばあちゃんは完全にお金としかしてつながってなかつたんですかね。

堀井 かもしれないけど、でもそれを分かっいながらそういう付き合いを続けてたのかもしれないよ。

鈴木 あの家族の構成員は、誰もがみんな代替不可能な存在になつていたような気がして、普通の家族が我が子をかけがえない存在として扱うような、例え拾ってきた子であつても、代わりがないような存在になつていたんじゃないかと思えますね。だから家族と同じだったと言つていいと思いますけどね。

堀井 でも逃げちゃつたよ。最後。

伊藤 でもそこは本当に見捨てる気があつたかどうかって定かじゃないんで。

万引きという繋がりがり

鈴木 そもそも万引きはいけないことですかね。

堀井 そうだよ。そうなんだけど、そこもテーマなんじゃない？だからその共同体がいいのか悪いのか判断させるために、万引きという悪い要素を入れてきたという。それでもこの共同体を肯定できるのかという。

伊藤 正当防衛のように生存を認めるための万引きを認めるのかっていう問題ですよ。

堀井 万引きを絶対的な悪と決めつけるのは資本主義のシステムの枠組みから捉えればそうだよねって言う。

神菌 店にあるものはまだ誰のものでもないっていうのは、共産主義的だなと思いました。

堀井 ある種ヒントだと思うよ。ああいうあぶれた存在に対する一つの考えるきっかけとして。

神菌 さっきの鈴木さんの変えが聞かない存在っていうのは、おばあちゃんが死んでから急激に崩壊していった感じがありますね。

堀井 うーん、だから本当に替えが利かなかったわけじゃないんじゃない？

小林 人間って弱い部分の共感ですぐ繋がるけど、それで繋がると良くないってのは何となく十八年生きてると分かるじゃないですか。でも、だからといってどうすればええんじゃないかっていうのがよくわからなかったですね。心的にも楽だし繋がりやすいのはそういう共感だとは思うんですけどね。

鈴木 確かに他人の悪口を言うとか繋がるみたいな経験はあるよね。

神菌 お互い肯定しあいたいんじゃないですかね。

あぶれた人たち

伊藤 システムからあぶれた人が集う場所としての平安の場所としては機能していたわけだから。

鈴木 でもそれで万引きが許されるの？

堀井 もちろん個人としてはそれが言及されるべきなんだけど、許される許されないというよりかは、社会としてせいづらがだめだからっていつて国側が切り捨てるのは違うでしょっていう。

鈴木 でも今の世の中って自己責任論でそういうの片づけられますよね。

堀井 だから自己責任論がどうなのかっていう話をしないといけないよね。

神菌 力を持ったものが弱者から搾取される社会で、それに代わる更なる強いものが現れる可能性って低いですよ。

鈴木 万引き家族の議論は出尽くした感あるんで、じやあ経済政策の話に移行しましょう。

日本の経済政策

堀井 ちょっと疑問なのは、緩和しすぎてるといっ

り、福祉とか、人的資本にお金が回ってないから、そんな状況で物価二%上昇とかやったら、将来の投資にならずに、その場しのぎのものになっちゃうよね。

伊藤 今は政策が経団連寄りで企業寄りのことをやってるけど、その企業が世界での強さが疑問だし、安倍さんの言う賃上げに耐えられるのか不安ですけどね。

日本の企業はため込むばかりで投資をしない気がしますね。

神菌 アマゾンとか凄い投資してますもんね。

堀井 経済政策は良いと思うんだけど、それで支持率高めてやろうとすることが憲法改正とかで、経済政策はそのための手段に過ぎない感じがすごい。だから極端な事いえばヒトラーとやってること同じじゃん。

鈴木 ヒトラーは経済めっちゃ回復しましたけど、氣付いた時には…って状況になりましたからね。

神菌 反対勢力は経済を学ばないといけないですね。

堀井 だから日本の民主党とか、経済音痴過ぎて失敗

したわけだから。あそここの時に緊縮財政とるんじゃないやなくて、今みたいに緩和して行って、更にリベラルなんだから、福祉とかにつき込めれば阿部が勝つこともなかったし、未来にも投資して、みんなハッピーっていう状況も考えられたくない？

鈴木 左翼は経済を学ぼうですか。

堀井 だって日本は成熟社会でもう成長は見込めないから、考え方を変えて生きていこうみたいないけないんだから、岩波文庫の人とかは。そんなこと言ってるから左翼の人たちはもともと労働者というか下の方の人たちの味方だったのに支持層なくして崩壊してるんじゃない。なんか経済アレルギーがあるように感じるんよね。お金の話をするなんて汚いみたいだな。

平成三十年七月九日 於、鈴木部屋

構成者、鈴木啓介

一、東浩紀氏は、自身の著作『ゲンロン0』にて、以下の様に述べている。人々のアイデンティティは、国境を越え、グローバルズムに商売を展開し、個人のみを寄りに所にする人々と、国内の政治に一喜一憂し、国民国家を振り所にする人々、の二つに分かれている。個人が国家か(資本主義かナショナリズムか)という行き詰った現状がある。そこで、個人でも国家でも、宗教でもない第四のアイデンティティが必要である。東氏は、土地、血及び遺伝子(人種主義)、ジェンダー、マルチチュードはアイデンティティになり得ないと否定し、家族のみがアイデンティティになり得ると断言した。その理由として東氏は、その強制性と偶然性を挙げている。子どもは持たないことはできるが、親を持たないことはできない(様々な事情があるが、生まれた時点では遺伝子を提供した二人の親がいる)。また、その偶然性として、もし異なる日に性行為をしていたら、あるいは異なる精子と卵子が結びついていたら、生まれてくる子供は全くの別人になること(散種)を挙げている。ハイデガーとは逆説的に、人は誰も一人では生まれることはできないという考え方を基とした実存哲学を思索している。

二、端的に言うと、マルチチュードである。マルチチュードとは、アントニオ・ネグリとマイケル・ハートが、共

著『帝国』および『マルチチュード』において地球規模による民主主義を実現する可能性として、国境を越えるネットワーク上の権力として提唱している概念のことである(wikipedia参照)。浅田彰は、これを日本語に訳すなら「有象無象」が一番しっくりくる、と表現。

三、加藤智大は、二〇〇八年(平成二〇年)六月八日に東京都千代田区外神田(秋葉原)で発生した通り魔殺傷事件(通称、秋葉原無差別殺傷事件)の犯人。加藤の、自分の意思を相手に分からせるために直接的行動で相手の望まないことをしたり、相手との関係を遮断したり、暴力を行使する考え方は、母の養育方法に影響されたものと認定された。

四、メンヘラーメンタルヘルス。人間関係で不安にかられやすい人、心に病気を患った人のこと。

五、マズローの自己実現理論(じこじつげんりろん、英: Maslow's hierarchy of needs)とは、アメリカの心理学者アブラハム・マズローが、「人間は自己実現に向かって絶えず成長する」と仮定し、人間の欲求を五段階の階層で理論化したものである(wikipedia参照)。人間の欲求を低いものから順に、生理的欲求、安全の欲求、所属と愛の欲求、承認の欲求、自己実現の欲求と定義した。

六、反出生主義（はんしゅつしやうしゅぎ、英: Antinatalism）とは、子供を持つ事に対して否定的な意見を持つ哲学的な立場である。デイヴィッド・ベネターは、生まれてくることはその本人にとつて常に災難であり、それゆえに子供を生むことは反道徳的な行為であり、子供は生むべきではない、と主張する。子供を生むことは、多くの動物がそうしているように単に何も考えずに性的欲求を満たすための行動である。性行為の結果として引き起こされている現象であるか、または生む側の欲求を満たすために引き起こされている現象であるか（例えば子育てしてみたといった欲求を満たすため、自分の老後の世話をしてみたいとおうという計算の為）、または判断するさいに生の質（QOL）を不当に高く誤評価していること（ポリアンナ効果）から起きている現象である、とする（wikipedia参照）。うん、なんというか、ヤバすぎ。

七、リフレ派（reflationist）とは、日本が長らく陥っているデフレ不況を脱するために、量的緩和や日銀の国債引受、ゼロ金利政策の継続など、インフレ目標値を設定した上でのさまざまなマクロ経済政策を推奨する立場に立つことである（wikipedia参照）。

寄稿者一覽

伊藤 光… 乾寮第八期。学習院大学文学部ドイツ語圏文学科三年。

井出 圭濟… 乾寮第十期。早稲田大学商学部一年。

神蘭 照尚… 乾寮第九期。学習院大学国際社会科学部国際社会科学科二年。

徳久 達志… 和敬塾南、乾寮事務所職員。

白河夜醒… 詳細不明。

小関 陽太郎… 平成三十年度南寮前期委員長。明治大学政治経済学部経済学科三年。

西村 康成… 乾寮第八期、平成三十年度乾寮前期委員長。早稲田大学教育学部数学科三年。

松山 凌雅… 乾寮第九期。明治大学法学部法律学科二年。

岩木 勅一… 和敬塾南寮寮長。

佐々木 良夫… 和敬塾塾事務所職員。

米井 滉太… 乾寮第八期。國學院大学法学部法律学科三年。

井手 浅樹… 南寮一年。早稲田大学基幹理工学部所属。

小澤 亮介… 南寮一年。青山学院大学経営学部所属。

黒澤 碧泉… 南寮一年。早稲田大学基幹理工学部所属。

仁木 日向… 南寮一年。法政大学経営学部所属。

前川 正喜… 南寮一年。早稲田大学教育学部所属。

横山 空… 南寮一年。武蔵野大学法学部所属。

平岡 仁… 乾寮第十期。東京大学文科一類一年。

吉田 知生… 乾寮第十期。日本大学文学部史学科一年。

堀井 友貴… 乾寮第七期。早稲田大学商学部四年。

池部 遼… 乾寮第十期。成蹊大学理工学部システムデザイン学科一年。

寄稿者一覧

◎ 乾坤舎メンバー

鈴木啓介…乾寮第八期。乾坤舎第四代編集長。早稲田大学教育学部英語英文学科三年。バックパッカーとして世界を彷徨い歩くことを決意。大学休学中。

齊藤和輝…乾寮第八期。東京理科大学理学部数学科三年。最近大学生生活が終わりを迎えようとしていることに戦慄を覚え始めている。自堕落な生活から脱却するため色々挑戦するも上手くいっていない模様。

高谷健人…乾寮第九期。早稲田大学社会科学部社会科学科二年。以前は国際協力などに関心があったが、最近は和敬塾や農山村でのボランティア経験からコミュニティやまちづくりに関心を持ち、現在進路を模索中。今年の夏、人生初のアフリカ上陸を体育祭で燃え尽きた結果、秋学期何もできていない模様。

小林凜…乾寮第十期。早稲田大学文化構想学部一年。うっかり履修してしまったアラビア語とすっかり入ってしまったプログレサークルに苦闘しながら生活している。ポップなものしか聞けない、見れない、読めない病に悩まされている。

平石 颯…乾寮第十期。早稲田大学法学部一年。春学期に何も成せなかった生活からの転換を図るべく、東京での様々な経験、体験をしようとして計画中である。まずは残り少ない二〇一八年を進路決定の為の有用な時間としたいと考えている。アルバイトオンリーからまずは脱却したい。

伊藤 圭樹…乾寮第七期。乾坤舎第三代編集長であり、初期メンバーの一人。東京大学理学部物理学科四年。最近は脳科学に興味をもち、大学院では理数的な視点から脳を研究することを模索中。同大学情報理工学研究科への進学を決めているが、同時に米国への進学も視野に入れている。今號の投稿内容からもわかるように、現在必死に英語を勉強中である。

伊勢 康平…乾寮第六期。早稲田大学文学部中文コース四年。乾坤舎第二代編集長であり、初期メンバーの一人。来年度から同学文学研究科へ進学予定。専門は中国近現代思想。一六年に北京大学へ一年間交換留学にいった。現在は出版社のゲノンで思想誌『ゲノン』などの編集に携わっている。Yin Hei の The Question Concerning Technology in China — An Essay in Cosmotechnics (Urbanomic, 2016 邦題は『中国における技術への問い——宇宙技芸試論』) を翻訳中(共訳)。春からドイツ語を始めたけどあれはやばいしぬ。

編集後記

僕が編集長となつて最大の仕事であつた特別號の編纂。ついに終えたという安心感と、製本して形に残るといふ感慨深さでいっぱいだ。今號を以て僕は編集長としての役目を終え、次の世代にバトンタッチする。僕は乾文學を目的に和敬塾に入つてきたと言つても過言ではない。乾文學といふ伝統のたすきをつなぐことは、正直、楽なことではなかつた。原稿集めに、特集記事の編纂。言うこと聞かないMORRに苛立ち何度画面を殴ろうとしたことか。何はともあれ、完成してよかつた。後輩君、後は頑張り給へよ。

鈴木 啓介

乾寮最後の年の空気を缶に詰めたような号となつたと感じる。来年度以降、乾文學がより多くの寮生から寄稿してもらへるようになるのか、それとも乾寮OBS主体のものになつていくのかは分からないが、コンスタントに刊行し続けられるよう活動していきたいと考えている。

小林 凜

乾文學十月特別號

2018年10月31日発行

編集人 鈴木啓介

編集 齊藤和輝 高谷健人 北村光基 小林凜 平石颯

表紙デザイン 松村寿明

発行所 乾坤舎

東京都文京区目白台1丁目21番地2

和敬塾乾寮

郵便番号 112-0015

<http://tmatsumwestern.wix.com/inuibungaku>

メール: kei-0511@docomo.ne.jp (編集人)

乾
文
學

乾坤含